

令和8年度

薬学部  
講義要項



北海道大学薬学部



## - 実習 -

基礎実習	141	生化学実習Ⅱ	161
物理化学実習	143	生化学実習Ⅲ	163
分析化学実習	145	衛生化学実習	165
有機化学実習Ⅰ	147	薬理学実習	167
有機化学実習Ⅱ	149	薬剤学実習	169
有機化学実習Ⅲ	151	RⅠ実習	171
有機化学実習Ⅳ	153	実務実習事前実習	173
有機化学実習Ⅴ	155	救命救急実習	175
有機化学実習Ⅵ	157	病院実習	177
生化学実習Ⅰ	159	薬局実習	179

## - 卒業関連科目 -

薬科学演習	182	薬学論文講読演習Ⅰ	191
薬科学論文講読演習	183	薬学論文講読演習Ⅱ	193
薬科学卒業研究	185	薬学論文講読演習Ⅲ	195
卒業研究準備実習Ⅰ	187	薬学総合演習	197
卒業研究準備実習Ⅱ	189	薬学卒業研究	199

## - その他 -

海外留学（短期）	201	ボランティア	205
海外留学（長期）	203	インターンシップ	207

薬学部専門科目のうちルーブリック評価を採用する授業科目における成績評価基準について 209































































今年度は教科書は特に指定しません。授業で適宜プリントを配布します。

参考書:シュライバー・アトキンス無機化学 第6版(より詳しく勉強したい人向けです。授業で必須ではありません)

**講義指定図書 Reading List**

**参照ホームページ Websites**

**研究室のホームページ Websites of Laboratory**

**備考 Additional Information**

コアカリキュラムの対応項目:

A\_4),5),6)

C-1-1(1)

C-1-3(13)

C-2-2(3),(5)

C-3-1(3),(5)

C-3-2(1),(2)

C-3-5(1),(2),(3)

C-4-1(2)

科目名 Course Title	機器分析学[Instrumental Analysis]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	脇本 敏幸 [WAKIMOTO Toshiyuki] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025023
期間 Semester	1 学期 (夏ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	2～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3330		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 化学系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	3 機器分析学		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	核磁気共鳴分光法、赤外分光法、質量分析法、紫外/可視分光法、旋光度測定法		
授業の目標 Course Objectives	基本的な化学物質の構造決定ができるようになるために、核磁気共鳴分光法、赤外分光法、質量分析法などの代表的な機器分析法の基本的知識と、データ解析のための基本的技能を修得する。		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的な機器分析法の原理、測定法を説明できる。</li> <li>2. 代表的な機器分析法の特徴、概要を説明できる。</li> <li>3. 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造を決定できる。</li> <li>4. 代表的な機器分析法の生体分子の構造解析への応用例を説明できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 核磁気共鳴分光法(1)</li> <li>2. 核磁気共鳴分光法(2)</li> <li>3. 核磁気共鳴分光法(3)</li> <li>4. 赤外分光法(1)</li> <li>5. 赤外分光法(2)</li> <li>6. 質量分析法、紫外/可視分光法、旋光度測定法</li> <li>7. 総合演習</li> </ol>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	授業は講義形式で行うが、理解を深めるため演習問題を行う。講義資料を活用して、十分に予習・復習を行うこと。		
成績評価の基準と方法 Grading System	出席日数総数の 2/3 をもって単位取得試験を受けることができる。学期末試験の結果に基づいて成績の判定を行う。再試験は行わない。		
有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	講義プリントを配布		
講義指定図書 Reading List	<p>イメージから学ぶ構造解析法／定金豊: 京都廣川書店, 2009</p> <p>有機化学のためのスペクトル解析法(第2版): 化学同人, 2010</p> <p>有機スペクトル解析／楠見武徳: 裳華房, 2015</p>		

有機化合物のスペクトルによる同定法(第8版):東京化学同人, 2016

**参照ホームページ Websites**

**研究室のホームページ Websites of Laboratory**

<https://www.pharm.hokudai.ac.jp/tennen/>

**備考 Additional Information**

コアカリキュラムの対応項目:

A\_4),5)

C-2-4(1),(2),(4)

C-2-5(1),(2),(3)

C-2-8(2)

C-3-4(1),(2),(3)

科目名 Course Title	天然物化学[Natural Product Chemistry]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	松田 研一 [MATSUDA Kenichi] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	脇本 敏幸[WAKIMOTO Toshiyuki](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025024
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	2～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3340		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 化学系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	4 天然物化学		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	生物活性天然分子、分離・精製法、2次元 NMR、質量分析、構造解析、生合成、創薬、生命科学		
授業の目標 Course Objectives	多種多様な化学構造を有すると生物活性天然物は、新薬開発のリード化合物として極めて重要である。本特論では海洋生物、微生物、陸棲の植物などから単離された生物活性天然物の最新の構造解析法や生合成研究について理解することを目的とする。		
到達目標 Course Goals	天然物化学全般に関する最新の情報を学ぶ。また、創薬や生命科学研究への利用についても理解を目指す。		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生物活性天然分子の構造解析と全合成 (I)</li> <li>2. 生物活性天然分子の構造解析と全合成 (II)</li> <li>3. 生物活性天然分子の生合成 (I)</li> <li>4. 生物活性天然分子の生合成 (II)</li> <li>5. 生物活性天然分子の生合成 (III)</li> <li>6. 生物活性天然分子の構造と機能 (I)</li> <li>7. 生物活性天然分子の構造と機能 (II)</li> <li>8. 生物活性天然分子の創薬への応用</li> </ol>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	学部講義で学習した、天然物化学、生薬学、構造解析法などに関する基本的な知識を復習しておくこと。		
成績評価の基準と方法 Grading System	出席は必須とする。レポートと期末試験の内容に基づいて成績の判定を行う。		
有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	適宜資料を配布する。 Handout material will be distributed in each lecture.		
講義指定図書 Reading List	医薬品天然物化学/Paul M Dewick 著; 海老塚豊監訳: 南江堂, 2004 Medicinal Natural Products: A Biosynthetic Approach/Paul M Dewick: Wiley, 2009		
参照ホームページ Websites	This course will be provided as part of the Hokkaido Summer Institute., For more information (invited lecturers, course details, etc.), please visit the website below.;		

<https://hokkaidosummerinstitute.oia.hokudai.ac.jp/en/courses/CourseDetail=G015>

**研究室のホームページ Websites of Laboratory**

<http://www.pharm.hokudai.ac.jp/tennen/>

**備考 Additional Information**

この授業はSDGsの「4.質の高い教育をみんなに」,「9.産業と技術革新の基盤をつくろう」,「14.海の豊かさを守ろう」,「15.陸の豊かさを守ろう」に関連する。

コアカリキュラムの対応項目:

A\_4),5)

C-5-2(1),(2),(3),(4)

科目名 Course Title	創薬化学[Medicinal Chemistry]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	市川 聡 [CHIKAWA Satoshi] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025025
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	3～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3350		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 化学系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	5 創薬化学		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	3 条件付き可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	創薬 分子設計 ファーマコフォア 標的分子 構造活性相関		
授業の目標 Course Objectives	<p>・基本的な薬の化学構造を知り、その作用と関連づけて理解する。</p> <p>・医薬と標的分子との結合を、官能基相互作用に基づき三次元的に理解する。</p> <p>・薬の治療効果を、投与・吸収・分布・代謝・標的分子への結合と作用・情報伝達への関与・作用発現・副作用・排泄等、その固有の化学構造に由来する性質の総和として理解する。</p>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 標的分子と薬の相互作用における立体構造の重要性を説明できる。</li> <li>2. 代表的な薬のファーマコフォアを理解し、指摘できる。</li> <li>3. 標的分子と薬の結合を官能基間の相互作用として説明できる。</li> <li>4. 主な薬の基本的化学構造を分類し、説明できる。</li> <li>5. 主な酵素阻害薬の作用機構を説明できる。</li> <li>6. 膜受容体のアゴニストとアンタゴニストの化学構造の違いを説明できる。</li> <li>7. 膜受容体の構造変化に基づき、アゴニストとアンタゴニストの違いを説明できる。</li> <li>8. 生物学的等価構造に基づき、薬理活性を説明できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生物活性の有機化学的理解-1</li> <li>2. 生物活性の有機化学的理解-2</li> <li>3. 創薬化学概要-1</li> <li>4. 創薬化学概要-2</li> <li>5. 化学構造と薬理活性-1</li> <li>6. 化学構造と薬理活性-2</li> <li>7. 化学構造と薬理活性-3</li> <li>8. 蛋白質の有機化学的理解</li> <li>9. 薬の標的分子としての酵素-1</li> <li>10. 薬の標的分子としての酵素-2</li> <li>11. 薬の標的分子としての受容体-1</li> <li>12. 薬の標的分子としての受容体-2</li> <li>13. 有機化学による薬理活性の改良-1</li> <li>14. 有機化学による薬理活性の改良-2</li> </ol>		

<p><b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b></p> <p>授業は講義と演習形式で行う。講義前には必ず教科書を読んで予習を、講義後には内容に関する教科書の練習問題を解いて復習を行うこと。毎回講義の終わりに理解の程度を確認するため前回の内容に関する確認試験を行う。</p>
<p><b>成績評価の基準と方法 Grading System</b></p> <p>小テスト(20%), 学期末試験(80%)によって評価する。定期試験の合格基準の 60%に達しない場合は、原則として再試験を本試験の 2 週間以内に行う。再試験合格者の評価は点数にかかわらず C とする。3 分の 1 以上の欠席で定期試験の受験を認めない。</p>
<p><b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b></p>
<p><b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b></p> <p>担当教員の承諾が必要</p>
<p><b>テキスト・教科書 Textbooks</b></p> <p>有機医薬分子論 2.0 / 周東 智: 京都廣川書店, 2023</p>
<p><b>講義指定図書 Reading List</b></p>
<p><b>参照ホームページ Websites</b></p>
<p><b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b></p>
<p><b>備考 Additional Information</b></p> <p>コアカリキュラムの対応項目:  A-4(,5),6), C-1-1 (1),(2),(3),(4),(5),(6), C-1-3 (1),(2),(3), C-1-4 (4), C-4-1 (1),(2),(3),(4), C-4-2 (1),(2),(3),(4), C-4-3 (1),(2),(3),(4),(5), C-4-4 (1),(2),(3),(4), C-4-5 (1),(2),(3),(4),(5),(6),(7),  コアカリキュラムにない独自の内容  1) FBDD (fragment-based drug design) と SBDD (structure-based drug design) による薬物設計  2) 有機化学的による薬理活性の向上</p>



有機化学のためのスペクトル解析法(第2版):化学同人, 2010

特論 NMR 立体化学:講談社, 2012

有機スペクトル解析/楠見武徳:裳華房, 2015

**参照ホームページ Websites**

**研究室のホームページ Websites of Laboratory**

<https://www.pharm.hokudai.ac.jp/tennen/>

**備考 Additional Information**









科目名 Course Title	分子生物学 I [Molecular Biology I]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	中川 真一 [NAKAGAWA Shinichi] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	米田 宏[MAITA Hiroshi](薬学研究院), 横井 佐織[YOKOI Saori](薬学研究院), 栗原 美寿々[KURIHARA Misuzu](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025028
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	2~
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3420		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 生物系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 分子生物学		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	2 対面授業科目《一部遠隔》		
キーワード Key Words	セントラルドグマ、タンパク質、核酸、DNA、RNA、複製、修復、転写、mRNA プロセッシング、翻訳、転写制御、ゲノム、進化		
授業の目標 Course Objectives	DNA の複製や修復、並びに遺伝子発現の基本的な分子メカニズムを理解する		
到達目標 Course Goals	<p>セントラルドグマが生物の共通原理であることを理解する。</p> <p>真核細胞と原核細胞の違いについて説明できる。</p> <p>真核細胞の細胞内小器官の機能について説明できる。</p> <p>20 種類のアミノ酸の構造式および性質を説明できる。</p> <p>タンパク質の一次構造、二次構造、三次構造、四次構造について説明できる。</p> <p>DNA の構造と染色体の構造について説明できる。</p> <p>セントロメア、テロメア、ヘテロクロマチン、ユークロマチンの機能を説明できる。</p> <p>DNA の複製機構について説明できる。</p> <p>代表的な DNA 損傷について説明できる。</p> <p>DNA の二つの修復機構(NHEJ/HR)を説明できる。</p> <p>原核生物と真核生物の転写制御の違いを理解する。</p> <p>真核生物における 3 種類の転写後 RNA プロセッシングについて分子メカニズムと機能を説明できる。</p> <p>原核生物と真核生物の翻訳機構の違いを説明できる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>第 1 回 :オリエンテーション/細胞:生命の基本単位・細胞の化学成分(4/9)</p> <p>第 2 回 :タンパク質の構造と機能(4/16)</p> <p>第 3 回 :DNA と染色体(4/23)</p> <p>第 4 回 :DNA の複製(4/30)</p> <p>第 5 回 :DNA の修復・組換え(5/7)</p> <p>第 6 回 :DNA からタンパク質へ(転写)(5/14)</p> <p>第 7 回 :DNA からタンパク質へ(翻訳)(5/21)</p> <p>第 8 回 :DNA からタンパク質へ(転写制御)(5/28)</p> <p>第 9 回 :DNA からタンパク質へ(転写後制御)(6/4)</p> <p>第 10 回 :1-9 回の復習テスト(6/11)</p> <p>第 11 回 :予備日(6/18)</p> <p>第 12 回 :遺伝子とゲノムの進化(6/25)</p> <p>第 13 回 :遺伝子の構造と機能の解析(7/2)</p> <p>第 14 回 :予備日(7/9)</p> <p>第 15 回 :総合討論・復習テスト(7/16)</p>		

<p><b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b>  各回の講義では、講師による該当部分の説明のほか、生成 AI を用いた練習問題の作成と解答(各自)、練習問題をもとにしたグループディスカッションを行う。  講義内容の詳細は専用のホームページを参照すること。  <a href="https://sites.google.com/rnabiol.com/2026mbi/home">https://sites.google.com/rnabiol.com/2026mbi/home</a></p>
<p><b>成績評価の基準と方法 Grading System</b>  グループディスカッションを含めた講義への参加と練習問題の提出(50%)、並びに復習テストの成績(50%)にて行う。期末試験・追試は行わない。</p>
<p><b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b></p>
<p><b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b></p>
<p><b>テキスト・教科書 Textbooks</b>  エッセンシャル細胞生物学</p>
<p><b>講義指定図書 Reading List</b></p>
<p><b>参照ホームページ Websites</b></p>
<p><b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b>  <a href="https://sites.google.com/rnabiol.com/home">https://sites.google.com/rnabiol.com/home</a></p>
<p><b>備考 Additional Information</b>  講義には PC もしくはタブレットを持参すること(携帯も可だが非推奨)</p> <p>コアカリキュラムの対応項目:  A-1-1 4), 5), 6)  C-6-1 1)  C-6-2 1)  C-6-4 1)  C-6-6 1), 2), 3), 4)</p>

科目名 Course Title	分子生物学Ⅱ[Molecular BiologyⅡ]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	中川 真一 [NAKAGAWA Shinichi] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	米田 宏[MAITA Hiroshi](薬学研究院), 横井 佐織[YOKOI Saori](薬学研究院), 栗原 美寿々[KURIHARA Misuzu](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025029
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	3~
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3420		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 生物系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 分子生物学		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
<b>キーワード Key Words</b>	<p>エピジェネティックス  バイオインフォマティクス  次世代シーケンサー  ケミカルバイオロジー  核内構造と遺伝子発現制御  行動制御の分子生物学</p>		
<b>授業の目標 Course Objectives</b>	<p>分子生物学分野の原著論文を検索し読解する能力を身につける。  分子生物学分野で使用される各種ウェブツールの解析手法を理解し、利用できるようになる。  ケミカルバイオロジー、動物行動の分子生物学、核内構造と遺伝子発現制御について理解する。</p>		
<b>到達目標 Course Goals</b>	<p>エピジェネティックな遺伝子発現制御を理解する。  ヒストン修飾とDNAのメチル化が遺伝子発現を制御する機構を説明できる。  次世代シーケンサーの原理を説明できる。  RNAseq/ChIPseq/CLIPseqによって何がわかるかを説明できる。  ケミカルバイオロジーのアプローチについて説明できる。  タンパク質の液-液相分離を説明できる。  ゲノム編集技術でなにができるのかを説明できる。  ゲノム構造と遺伝子発現制御について説明できる。  動物の行動を制御する分子メカニズムについて説明できる。</p>		
<b>授業計画 Course Schedule</b>	<p>第1回: オリエンテーション(4/9)  第2回: 各種文献検索法(4/16)  第3回: 遺伝子配列の取得、BLAST検索によるファミリー分子の探索、Uniprotの利用法(4/23)  第4回: Alphafold serverの利用法(4/30)  第5回: 次世代シーケンサーの原理・UCSC genome browserの利用法(5/7)  第6回: DEPmap/Bioplex Explorerの利用法(5/14)  第7回: iDEPの利用法(5/21)  第8回: 発表取りまとめ(5/28)  第9回: 発表(6/4)  第10回: ゲノム医生物学の最先端(太田)(6/11)  第11回: 分子細胞生物学の最先端(岡崎)(6/18)  第12回: 核内構造と遺伝子発現制御(栗原)(6/25)</p>		

<p>第13回: ケミカルバイオロジー(米田)(7/2)</p> <p>第14回: 行動制御の分子生物学(横井)(7/9)</p> <p>第15回: 機能未知遺伝子への逆遺伝学的アプローチ(中川)(7/16)</p>
<p><b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b></p> <p>資料及び準備学習についての情報はウェブ上で公開する。</p> <p><a href="https://sites.google.com/rnabiol.com/2026mbii/home">https://sites.google.com/rnabiol.com/2026mbii/home</a></p> <p>講義シリーズの前半では、課題の説明、課題の取り組み、グループワークを行い、前半の最後にグループごとの発表を行う。後半は最先端の研究についてオムニバス形式で学ぶ。</p>
<p><b>成績評価の基準と方法 Grading System</b></p> <p>各回の課題の提出(60%)及び講義ごとに出されるレポートの内容(40%)で評価する。試験は行わない。</p>
<p><b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b></p>
<p><b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b></p>
<p><b>テキスト・教科書 Textbooks</b></p> <p>エッセンシャル細胞生物学</p>
<p><b>講義指定図書 Reading List</b></p> <p>ワトソン遺伝子の分子生物学</p>
<p><b>参照ホームページ Websites</b></p> <p><a href="https://sites.google.com/rnabiol.com/2026mbii/home">https://sites.google.com/rnabiol.com/2026mbii/home</a></p>
<p><b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b></p> <p><a href="https://sites.google.com/rnabiol.com/home">https://sites.google.com/rnabiol.com/home</a></p>
<p><b>備考 Additional Information</b></p> <p>コアカリキュラムの対応項目:</p> <p>A 4),5),6)</p> <p>C-6-2 1)</p> <p>C-6-2 1)</p> <p>C-6-3 4)</p> <p>コア・カリキュラム以外の独自の内容:          公共データベースを用いた遺伝子発現情報のデータ解析、ゲノム編集技術、RNAを用いた創薬</p>

科目名 Course Title	細胞生物学 I [Cell Biology I]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	黒木 喜美子 [KUROKI Kimiko] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	大久保 直登[OKUBO Naoto](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025030
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	2～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3430		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 生物系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	3 細胞生物学		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	細胞の分子生物学		
授業の目標 Course Objectives	<p>細胞生物学とは、生命現象のユニットである細胞の構造と機能を明らかにする学問である。この講義では、生命現象における様々な生化学反応を細胞の場で理解することを目指し、真核細胞(特に動物細胞)内で機能を分担している各オルガネラ(細胞小器官)の構造と機能について概説する。さらに、生命現象を各オルガネラの機能の総体として理解するために、細胞内区画とタンパク質の選別、細胞内における小胞の輸送、細胞骨格、細胞分裂と細胞周期、細胞死、細胞結合・細胞接着・細胞外マトリックス、の仕組みを例にとって説明する。細胞、組織の分子レベルでの理解を目指し、生命を論理的に理解する力を養う。</p> <p>細胞生物学 I では、教科書(細胞の分子生物学 6版)の 12-13 章および 15 章の前半、16-19 章を主に学び理解する。</p>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原核生物と真核生物の相違について説明できる。</li> <li>2. 細胞内物質輸送について説明できる。</li> <li>3. 細胞の構成と細胞骨格の機能について説明できる。</li> <li>4. 各オルガネラの構造と機能について説明できる。</li> <li>5. 細胞の分裂と増殖の仕組みについて説明できる。</li> <li>6. 細胞死の誘導機構と意義について説明できる。</li> <li>7. 多細胞生物を形成している仕組みと物質・情報交換について説明できる。</li> <li>8. 細胞、組織、個体を分子レベルで理解し、生命現象を論理的に説明できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション:理解度チェックなど</li> <li>2. 細胞の構造と機能・細胞の区画化とタンパク質分布・核と核内物質輸送</li> <li>3. ミトコンドリアと細胞体(ER)輸送</li> <li>4. 細胞内小胞輸送</li> <li>5. ゴルジ体の機能</li> <li>6. 様々な細胞内オルガネラの機能</li> <li>7. 細胞内シグナル伝達概念</li> <li>8. 細胞骨格</li> <li>9. 細胞骨格繊維の制御</li> <li>10. 細胞骨格の機能と細胞の振る舞い</li> <li>11. 細胞周期</li> <li>12. 有糸分裂</li> <li>13. 細胞質分裂</li> <li>14. アポトーシス</li> </ol>		

<p>15. 細胞接着、細胞外マトリックス</p> <p><b>準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework</b>  授業は講義形式で行う。講義の定着度を見るため、演習問題を課する。復習は配布プリント、教科書(Molecular Biology of The Cell (Six edition))を活用して行うこと。</p> <p><b>成績評価の基準と方法 Grading System</b>  授業回数の 2/3 以上の出席を成績評価の条件とし、期末試験の点数(100%)で評価する。</p> <p><b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b></p> <p><b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b></p> <p><b>テキスト・教科書 Textbooks</b>  細胞の分子生物学(第6版) / Alberts et al: Newton Press, 2017  細胞の分子生物学(第7版) / Alberts et al: MEDSI, 2025  必要な資料は講義時に配布します。</p> <p><b>講義指定図書 Reading List</b></p> <p><b>参照ホームページ Websites</b></p> <p><b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b>  <a href="https://convallaria.pharm.hokudai.ac.jp/bunshi/">https://convallaria.pharm.hokudai.ac.jp/bunshi/</a>  <a href="https://www.pharm.hokudai.ac.jp/byoutai/index.html">https://www.pharm.hokudai.ac.jp/byoutai/index.html</a></p> <p><b>備考 Additional Information</b>  再試験:  再試験は行わない。</p> <p>コアカリキュラムの対応項目:  A-3),4),5),6)  B-3-1(1)  B-4-1(1),(3),(4)  C-1-1(6)  C-2-6(1),(2),(3)  C-4-2(1),(3),(4)  C-4-4(2),(4)  C-4-5(4)  C-6-1(1),(2),(3)  C-6-2(1),(2),(3),(4)  C-6-3(1),(3),(4),(6),(7),(10),(11)  C-6-4(1),(2),(3),(4)  C-6-5(8)  C-6-6(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7)  C-6-7(1),(2),(3)  C-7-2(1),(3)  C-7-6(1),(2)  C-7-7(1),(2)  C-7-9(3),(5),(6)  D-2-5(1)  D-2-15(1)  D-2-18(1)  G-1-1(1),(2),(3)  G-1-2(1),(2),(3)  G-2-1(2),(3),(4)  G-2-2(1),(2),(3),(4),(5)</p>
--

科目名 Course Title	細胞生物学Ⅱ [Cell Biology II]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	多留 偉功 [TARU Hidenori] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025060
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	3～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3430		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 生物系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	3 細胞生物学		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	細胞生物学、発生生物学、再生、幹細胞、がん、感染、免疫		
授業の目標 Course Objectives	<p>本授業は、多細胞生物における生命現象を細胞生物学の観点から統合的に理解することを目指すものである。細胞生物学 I の履修で修得した細胞機能とその制御機構の知識を基盤として、多細胞生物の正常機能と病的状態を多角的に考察する。具体的には、個体発生と組織維持・再生の基本原則、がん化・感染の機構と免疫防御に焦点を当て、細胞内分子制御メカニズムと細胞間相互作用の視点から包括的な理解を深める。これらの学習を通じて、生命現象を科学的根拠に基づいて論理的に考察し、説明する能力を養成する。</p>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多細胞生物の発生における細胞の基本原則とその制御機構について説明できる。</li> <li>2. 組織の維持・再生における細胞機構と幹細胞の役割について説明できる。</li> <li>3. がん細胞の特徴とがんの発症機構を説明できる。</li> <li>4. 感染における病原体と細胞の相互作用を説明できる。</li> <li>5. 自然免疫と適応免疫における細胞の機能と制御機構を説明できる。</li> <li>6. 多細胞性の原理と細胞種概念について説明できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスと細胞生物学 I の復習</li> <li>2. がんの特徴と発がん機構</li> <li>3. がん化と遺伝子</li> <li>4. 発生の基本原則</li> <li>5. 初期発生の制御機構</li> <li>6. 発生タイミングと形態形成</li> <li>7. 成長の制御と神経発生</li> <li>8. 組織の維持と幹細胞</li> <li>9. 組織の再生と多能性幹細胞</li> <li>10. 病原体と感染</li> <li>11. 感染の細胞生物学</li> <li>12. 自然免疫の細胞生物学</li> <li>13. 適応免疫の細胞生物学</li> <li>14. 多細胞性と細胞種</li> <li>15. まとめと総合討論</li> </ol>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>講義資料は ELMS 上で事前に配布するので、各自予習しておくこと。  講義資料・ノートおよび教科書や Web 資料等を用い、予習に 1 時間、復習に 1 時間を目安として学習すること。</p>		

<p><b>成績評価の基準と方法 Grading System</b></p> <p>授業回数 の 2/3 以上の出席を評価の条件とする。 成績評価は、授業目標の達成度について、学期末試験 (60%) と講義内提出課題 (40%) を総合して、11 段階で判定する。</p>
<p><b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b></p>
<p><b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b></p>
<p><b>テキスト・教科書 Textbooks</b></p> <p>細胞の分子生物学 原書第 7 版 / Bruce Alberts ら: メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2025 本講義では、教科書『細胞の分子生物学 (第 7 版)』第 20~24 章に対応した内容を中心に学習する。講義に必要な資料は ELMS 上で配布するため、教科書の所有は必須ではないが、各自必要に応じて参照してよい。 In this course, we will mainly study the topics corresponding to Chapters 20-24 of the textbook Molecular Biology of the Cell (7th edition). All materials necessary for the lectures will be provided via ELMS, so owning the textbook is not required, but students may consult it as needed.</p>
<p><b>講義指定図書 Reading List</b></p> <p>Molecular Biology of the Cell, 7th Edition (International Student Edition) / Bruce Alberts et al.: W.W. Norton &amp; Company, 2022</p>
<p><b>参照ホームページ Websites</b></p>
<p><b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b></p>
<p><b>備考 Additional Information</b></p> <p>再試験は実施しない</p> <p>コアカリキュラムの対応項目: A-4),5),6) C-6-1(1),(2),(3) C-6-2(1),(2),(4) C-6-3(1),(3),(7),(8) C-6-4(1),(3),(4) C-6-6(3),(5),(6) C-6-7(1),(2),(3) C-7-1(2),(5) C-7-2(1) C-7-4(1) C-7-6(1) C-7-7(2),(3) C-7-8(6) C-7-9(1),(3),(5),(6),(7)</p>

科目名 Course Title	微生物学[Microbiology]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	米田 宏 [MAITA Hiroshi] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025031
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	2～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3440		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 生物系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	4 微生物学		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	2 対面授業科目《一部遠隔》		
キーワード Key Words	細菌、ウイルス、化学療法		
授業の目標 Course Objectives	細菌やウイルスに代表される微生物の増殖や分類、各微生物が原因である感染症について、その生物学的特徴を多様な代謝機構や遺伝子の水平伝達機構などの視点も踏まえて理解する。また、微生物と宿主の密接な相互作用は健康を理解する上で重要な側面であり、その仕組みを免疫学、細胞生物学、分子生物学の知識とも関連させながら分子レベルで理解することが、感染症とその治療に用いられる化学療法剤の作用機序を理解する基礎となる。		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微生物、とくに感染症の原因となる微生物を特徴に基づいて分類できる</li> <li>2. 常在細菌の働きについて概説できる</li> <li>3. 細菌細胞の構造、形態、代謝、増殖過程の特徴と、それらに基づいた細菌の同定方法を説明できる</li> <li>4. 主な化学療法剤の作用機序とそれに対する細菌の耐性機構について説明できる</li> <li>5. 細菌の遺伝の特徴を理解し、薬剤耐性や病原性因子などの水平伝達について説明できる</li> <li>6. 下記に示す分類の代表的な病原細菌と、それが引き起こす代表的な感染症について概説できる グラム陽性菌、グラム陰性菌、抗酸菌、スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア</li> <li>7. ウイルスの分類、感染・増殖過程の特徴、宿主細胞との相互作用を概説できる</li> <li>8. 主な DNA ウイルス、RNA ウイルスの特徴とそれが引き起こす代表的な感染症について説明できる</li> <li>9. 主な抗ウイルス薬の作用機序を説明できる</li> <li>10. 真菌の生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な感染症について概説できる</li> <li>11. 原虫・寄生虫の特徴とそれが引き起こす代表的な感染症について概説できる</li> <li>12. 主な滅菌法と消毒薬を説明できる</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微生物学と化学療法の歴史</li> <li>2. 細菌の分類: 形態やグラム染色による分類</li> <li>3. 常在細菌のはたらき</li> <li>4. 細菌の生育: 細菌の増殖と培養法、好気性と嫌気性、発酵と呼吸</li> <li>5. 細菌の遺伝: 細菌ゲノムと遺伝子伝達</li> <li>6. 病原細菌と感染症</li> <li>7. 病原性因子・細菌毒素</li> <li>8. 抗菌薬と作用機序</li> <li>9. 薬剤耐性菌</li> <li>10. ウイルスの分類と増殖機構</li> <li>11. 病原ウイルスとウイルス感染症</li> <li>12. ウイルス感染症と抗ウイルス薬(1)</li> </ol>		

<p>13. ウイルス感染症と抗ウイルス薬(2)</p> <p>14. 病原性真菌と抗真菌薬</p> <p>15. 寄生虫症・原虫症</p>
<p><b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b></p> <p>講義形式. 予習・復習は各1時間.</p>
<p><b>成績評価の基準と方法 Grading System</b></p> <p>試験結果, 小テスト, 毎回の講義での課題への解答状況から講義内容の理解度を考慮して総合的に評価する。(期末試験 85%, 小テスト 10%, 課題 5%を目安とする)</p>
<p><b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b></p>
<p><b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b></p>
<p><b>テキスト・教科書 Textbooks</b></p> <p>微生物学(改訂第8版): 病原微生物と治療薬/今井康之 増澤俊幸:南江堂, 2021</p>
<p><b>講義指定図書 Reading List</b></p>
<p><b>参照ホームページ Websites</b></p>
<p><b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b></p>
<p><b>備考 Additional Information</b></p> <p>コアカリキュラムの対応項目:</p> <p>A-4,5,6, C-4-5(7), C-6-1(1)(2)(3), C-6-2(2)(4), C-6-3(1)-(9),(11), D-2-15(1)(3)(4)(5), E1-2(1)</p> <p>期末試験の成績で, 目標とする水準に到達していると判断できない学生には再試験を課す場合がある. 再試験の対象となる成績は, その年度の全体の点数分布を基準として決定する. また, 期末試験の点数が著しく低い場合は再試験を受験できないものとする. 再試験は原則として, 本試験の翌週もしくは翌々週に実施する.</p>

科目名 Course Title	免疫学[Immunology]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	木村 俊介 [KIMURA Shunsuke] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	松田 正[MATSUDA Tadashi](薬学研究院), 中田 一彰[NAKATA Kazuaki](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025001
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	2～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3450		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 生物系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	5 免疫学		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	生体防御、自己と非自己、自然免疫、獲得免疫、アレルギー、自己免疫、免疫不全症		
授業の目標 Course Objectives	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生体防御反応について、その機構を組織、細胞、分子レベルで理解するために、免疫系に関する基本的知識を修得する。</li> <li>・免疫反応に基づく生体の異常を理解するために、代表的な免疫関連疾患についての基本的知識を修得する。</li> <li>・免疫反応の臨床応用、研究応用に関する基本的知識を修得する。</li> </ul>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. B 細胞と T 細胞の「非自己」認識機構の相違を説明できる。</li> <li>2. 胸腺や末梢での「自己」反応性 T 細胞の不活化機構を説明できる。</li> <li>3. 主要なサイトカインについて、その機能を説明できる。</li> <li>4. 細胞障害性 T 細胞や補体系、食細胞などのエフェクター機構を説明できる。</li> <li>5. アレルギーや自己免疫疾患、エイズの発症機構とそれらに対する薬物治療を説明できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<p>講義 1 回目 免疫系についてのオーバービュー①</p> <p>講義 2 回目 免疫系についてのオーバービュー②</p> <p>講義 3 回目 生体防御における免疫系の役割①</p> <p>講義 4 回目 生体防御における免疫系の役割②</p> <p>講義 5 回目 自然免疫①</p> <p>講義 6 回目 自然免疫②</p> <p>講義 7 回目 リンパ器官の機能と組織学的特徴</p> <p>講義 8 回目 腸内環境因子と粘膜免疫</p> <p>講義 9 回目 獲得免疫①</p> <p>講義 10 回目 獲得免疫②</p> <p>講義 11 回目 獲得免疫③</p> <p>講義 12 回目 獲得免疫④</p> <p>講義 13 回目 免疫系の恒常性破綻と疾患、検査、治療①</p> <p>講義 14 回目 免疫系の恒常性破綻と疾患、検査、治療②</p> <p>講義 15 回目 免疫系の恒常性破綻と疾患、検査、治療③</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>授業は講義形式で行う。予習として、次回授業の範囲の教科書を読んでおくこと。各自、講義のまとめのレポート作成により知識の定着を図る。復習は教科書、プリント、講義ノートを活用して行うこと。予習・復習は各 1 時間。</p>		

<b>成績評価の基準と方法 Grading System</b> 授業への参加態度(10%)、レポートおよび期末試験の結果(90%)を総合して評価する。
<b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b>
<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>
<b>テキスト・教科書 Textbooks</b> 基礎から学ぶ免疫学／山下政克:羊土社, 2023
<b>講義指定図書 Reading List</b> エッセンシャル免疫学 第4版／ピーター・パーラム:メデイカルサイエンスインターナショナル, 2023
<b>参照ホームページ Websites</b>
<b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b>
<b>備考 Additional Information</b> ・講義では必要に応じ、プリント等を配布する予定である(ELMSより) ・原則、再試験は行わない。 ・コアカリキュラムの対応項目: A_3),4),5),6) C-4-2(1) C-4-4(2) C-4-5(6),(7) C-6-1(1),(2),(3) C-6-2(2),(4) C-6-4(1),(4) C-6-6(2),(3),(4),(5),(6) C-6-7(1),(2),(3) C-7-1(5) C-7-8(6),(7) C-7-9(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7)

科目名 Course Title	公衆衛生学[Public Health]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	木村 俊介 [KIMURA Shunsuke] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	松田 正[MATSUDA Tadashi](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025032
期間 Semester	1学期(春ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	2～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3510		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	5 医療系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 公衆衛生学・衛生化学		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	1 該当する		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	公衆衛生 健康と疾病 保健統計 疫学 感染症 生活習慣病 職業病		
授業の目標 Course Objectives	<p>・社会における集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握するために、保健統計と疫学に関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>・公衆衛生の向上に貢献するために、感染症、生活習慣病、職業病についての現状とその予防に関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>1. 集団の健康と疾病の概念を説明できる。</p> <p>2. 人口動態と人口静態について説明でき、日本における人口の推移と将来予測について説明できる。</p> <p>3. 疾病の予防における疫学の役割を説明でき、疫学研究の手法やリスク推定などデータの解釈ができる。</p> <p>4. 現代までの感染症の変遷とその予防法(予防接種等)を理解し、新興感染症および再興感染症について代表例を挙げて説明できる。</p> <p>5. 感染症法に基づく様々な感染症の分類(1～5類)を理解し、その予防対策や治療法について説明できる。</p> <p>6. 生活習慣病の種類とその動向について理解し、そのリスク要因を列挙した上で予防対策について説明できる。</p> <p>7. 疾病に及ぼす環境・遺伝要因の影響および生体防御能について説明できる。また、主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>1. 健康と疾病:健康と疾病の概念、疾病予防の概念</p> <p>2. 保健統計:人口静態(人口構成、基準人口)、人口動態(指標とその推移、生命表、罹患率、有病率)</p> <p>3. 疫学:分析疫学の実際(三要因、患者・対照研究、コホート研究、リスク推定)</p> <p>4. 疾病予防1:感染症1(感染症の種類、対策、予防接種、1・2類感染症)</p> <p>5. 疾病予防2:感染症2(3・4・5類感染症、エキノコックス症)</p> <p>6. 疾病予防3:生活習慣病(がん・循環器疾患・糖尿病の疫学と予防)</p> <p>7. 疾病予防4:環境・遺伝要因と疾病感受性、母子・学校・産業保健</p> <p>8. 公衆衛生に関する最近の話題、まとめ</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>授業はプリントを配布し講義形式で行う。講義内容の理解を深めるために、毎回の講義終了後に薬剤師国家試験問題に類した小試験問題を課す。予習として、次回授業の範囲の教科書を読んでおくこと。復習は教科書、プリント、講義メモを活用し、自らが独自のノートを作成することで理解を深める。予習・復習は各1時間。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>1. 授業への参加態度(5%)</p> <p>2. 講義後の小試験(5%)</p> <p>3. 試験の成績(90%)</p>		

<p><b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b>  授業の複数回で、研究機関において公衆衛生の研究に携わる講師を招き、実務経験に基づいた講義を行う。</p>
<p><b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b></p>
<p><b>テキスト・教科書 Textbooks</b>  衛生薬学：健康と環境／原俊太郎，姫野誠一郎，吉成浩一：丸善出版，2025</p>
<p><b>講義指定図書 Reading List</b></p>
<p><b>参照ホームページ Websites</b></p>
<p><b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b></p>
<p><b>備考 Additional Information</b>  コアカリキュラムの対応項目：  A_1),3),4),5),6),10)  B-1-1(1),(2)  B-3-1(1),(2)  B-5-1(1),(2)  D-2-1(1)  E-1-1(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7)  E-1-2(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7)</p> <p>・原則、再試験は行わない。</p>

科目名 Course Title	衛生化学[Hygienic Chemistry]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	木村 俊介 [KIMURA Shunsuke] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	松田 正[MATSUDA Tadashi](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025002
期間 Semester	1学期(夏ターム)	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	3~
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3510		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	5 医療系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 公衆衛生学・衛生化学		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	1 該当する		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	健康、栄養、食品衛生、水環境、空気環境、環境汚染、地球環境		
授業の目標 Course Objectives	<p>・健康維持に必要な栄養を科学的に理解するために、栄養素、代謝、食品の安全性と衛生管理などに関する知識を修得する。</p> <p>・有害な化学物質などの生体への影響を回避できるようになるために、化学物質の毒性などに関する知識を修得する。</p> <p>・生態系や生活環境を保全、維持するために、それらに影響を及ぼす自然現象、人為的活動を理解し、環境汚染物質などの成り立ち、人体への影響、汚染防止などに関する知識を修得する。</p>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養素(三大栄養素、ビタミン、ミネラル)の生体内での働きが説明できる。</li> <li>2. 食品の安全性を脅かす科学のおよび生物学的要因について説明できる。</li> <li>3. 食品添加物や農薬の種類や安全性などが説明できる。</li> <li>4. 生活に関連する水の諸問題(浄水、廃水処理)が説明できる。</li> <li>5. 大気汚染物質の化学的特性や毒性、発生源などが説明できる。</li> <li>6. 水質汚濁、土壌汚染、大気汚染について、その推移と発生源について説明できる。</li> <li>7. 地球環境の成り立ちや地球環境問題の現状について説明できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養素 必須栄養素 必須アミノ酸, 必須脂肪酸, ビタミン</li> <li>2. 食品のエネルギー エネルギー代謝量, 栄養所要量, 摂取量</li> <li>3. 食品と疾病 食中毒 感染型-腸炎ビブリオ, サルモネラ, 病原性大腸菌</li> <li>4. 毒素型-ボツリヌス, 黄色ブドウ球菌,</li> <li>5. 腐敗, 変質 酵素的変質, 化学的変質, 油脂の過酸化反応</li> <li>6. 自然毒 動物性-植物性食品毒, マイコトキシン</li> <li>7. 食物アレルギー 動物性-アレルゲン, IgE, 肥満細胞, 生理活性物質</li> <li>8. 食品添加物, 保存料, 酸化防止剤, 着色料, 発色剤, 甘味料</li> <li>9. 食品汚染 農薬 有機リン系農薬, 有機塩素系農薬, 有機フッ素系農薬, バラコート, 作用機構</li> <li>10. 環境汚染 重金属化合物 有機-無機金属化合物の毒性, メタロチオネイン</li> <li>11. 有機塩素化合物 PCB, ダイオキシン, クロロエチレン</li> <li>12. 生活用水 上水道, 原水の汚染, 浄水処理の問題点</li> <li>13. 水質汚濁 判定指標(BOD, COD), 環境基準, 廃水処理</li> <li>14. 大気汚染 汚染物質, 発生源, 自然環境への影響</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		

<p><b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b></p> <p>予習として、次回授業の範囲の教科書を読んでおくこと。各自、講義のまとめのレポート作成により知識の定着を図る。復習は教科書、プリント、講義ノートを活用して行うこと。予習・復習は各1時間。</p>
<p><b>成績評価の基準と方法 Grading System</b></p> <p>評価は期末試験およびレポート(90%)、授業への参加態度(10%)により総合的に決める。</p>
<p><b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b></p> <p>授業の複数回で、研究機関において公衆衛生の研究に携わる講師を招き、実務経験に基づいた講義を行う。</p>
<p><b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b></p>
<p><b>テキスト・教科書 Textbooks</b></p> <p>第7版 衛生薬学:健康と環境/原俊太郎(編集), 姫野誠一郎(編集), 吉成浩一(編集):丸善出版, 2025</p>
<p><b>講義指定図書 Reading List</b></p>
<p><b>参照ホームページ Websites</b></p>
<p><b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b></p> <p><a href="http://www.pharm.hokudai.ac.jp/eisei/index.html">http://www.pharm.hokudai.ac.jp/eisei/index.html</a></p>
<p><b>備考 Additional Information</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントを適宜配布</li> <li>・原則、再試験は行わない。</li> <li>・コアカリキュラムの対応項目:  A_2),3),4),5),6),10)  B-1-1(1),(2),(3),(4),(5),(10)  B-1-2(7),(8),(9),(10)  B-1-3(1),(2),(6)  B-3-1(1),(2),(4),(7),(8),(9)  B-5-1(1),(2),(3),(4)  C-1-2(1),(5),(6)  E-2-1(1),(2),(3),(4),(5),(6)  E-2-2(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7),(8),(9),(10)  E-3-1(1),(2),(3),(4),(5),(6)  E-3-2(1),(2),(4),(5),(6)</li> </ul>





























































<p><b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b>  講義形式、講義の各単元終了毎に小テストを行うので復習を求める。</p>
<p><b>成績評価の基準と方法 Grading System</b>  授業回数 の 2/3 以上の出席をもって単位取得試験を受けることができる。小テスト(10%)、学期末試験(90%)によって到達目標の達成度を評価する。</p>
<p><b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b>  病院薬剤部において薬剤師経験を有する教員が、実務経験に基づき講義を行う。</p>
<p><b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b></p>
<p><b>テキスト・教科書 Textbooks</b></p>
<p><b>講義指定図書 Reading List</b>  visual core pharma 薬物治療学／吉尾 隆:南山堂  新編 プログラム学習による病態と処方解析／井関・岡野・松山 編:廣川書店  やさしい臨床医学テキスト／大野・柴崎・平井・星・三木・山下:薬事日報社</p>
<p><b>参照ホームページ Websites</b></p>
<p><b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b></p>
<p><b>備考 Additional Information</b>  コアカリキュラムの対応項目:  A-1),(2),(5),(6),(7),(8),(10)  B-1-1(1),(2),(4)  B-1-2(3),(4),(7),(8)  B-1-3(6)  B-2-1(1),(2),(4)  C-7-3(1),(2),(3)  C-7-6(1),(2),(3)  C-7-8(6),(8)  C-7-10(1),(2),(3)  D-1-1(1),(4)  D-1-2(1),(2),(3)  D-1-3(1)  D-2-5(1),(2),(3)  D-2-6(1),(2),(3),(4),(5)  D-2-9(1),(2)  D-2-11(1),(2),(3)  D-2-13(1),(2)  D-2-14(1),(2),(3)  D-2-16(1),(2),(3),(4)  F-1-1(1),(2),(3),(4),(5),(6),(8),(9),(10),(11),(12),(13),(14),(15),(17)</p> <p>再試験は行わない。</p>

科目名 Course Title	薬物治療学Ⅲ[Pharmacotherapy III]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	小林 正紀 [KOBAYASHI Masaki] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025048
期間 Semester	1 学期 (春ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	4～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3560		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	5 医療系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	6 薬物治療学		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	1 該当する		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	症候、薬学的管理、医療面接、診断、検査、薬物療法、薬理学、生理学、解剖学		
授業の目標 Course Objectives	<p>薬物治療の基本的知識と適切な薬物療法を考案する能力を修得する。</p> <p>生殖器、感覚器、皮膚、運動器、精神、移植に関する基本的知識を修得する。</p> <p>生殖器、感覚器、皮膚、運動器、精神、移植の治療に用いられる代表的な医薬品に関する基本的知識を修得する。</p> <p>代表的な疾患とその疾患により生じる諸症状に関する基本的知識を習得する。</p>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物動態または薬力学に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。</li> <li>2. 代表的な疾患とその疾患により生じる諸症状について説明できる。</li> <li>3. 代表的な生殖器に生じる病態生理と、その薬物治療およびその使用上の注意について説明できる。</li> <li>4. 代表的な精神疾患の病態生理と、その薬物治療およびその使用上の注意について説明できる。</li> <li>5. 代表的な感覚器の病態生理と、その薬物治療およびその使用上の注意について説明できる。</li> <li>6. 代表的な運動器の病態生理と、その薬物治療およびその使用上の注意について説明できる。</li> <li>7. 代表的な移植の病態生理と、その薬物治療およびその使用上の注意について説明できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全身・皮膚・泌尿器に生じる症候(発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、痛み、脱水、浮腫、口渇、血尿、頻尿、排尿障害)と、それらを生じる原因および代表的疾患について</li> <li>2. 消化器・循環器、血液に生じる症候(悪心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、貧血、出血傾向)と、それらを生じる原因および代表的疾患について</li> <li>3. 呼吸器・神経・感覚器に生じる症候(呼吸困難、咳、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、視力障害、聴力障害、めまい)と、それらを生じる原因および代表的疾患について</li> <li>4. 生殖器疾患の病態生理とその薬物療法(前立腺肥大、前立腺癌、月経異常、異常妊娠、不妊、子宮内膜症、子宮がん)</li> <li>5. 精神疾患の病態生理とその薬物療法(統合失調症、うつ、躁鬱、心身症、依存症)</li> <li>6. 耳鼻咽喉、皮膚の病態生理とその薬物療法(アレルギー、めまい、感染症、皮膚炎)</li> <li>7. 眼、運動器、移植の病態生理とその薬物療法(緑内障、白内障、骨粗鬆症、免疫抑制薬)</li> <li>8. 総合まとめ</li> </ol>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	講義形式、講義の各単元終了毎に課題の提出を求める。資料としてまとめたプリントを配布。		
成績評価の基準と方法 Grading System	授業回数の 2/3 以上出席した者について、小テスト(10%)、学期末試験(90%)によって到達目標の達成度を評価する。		
有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes	病院薬剤部において薬剤師経験を有する教員が、実務経験に基づき講義を行う。		

<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>
<b>テキスト・教科書 Textbooks</b>
<b>講義指定図書 Reading List</b> visual core pharma 薬物治療学／吉尾 隆：南山堂 新編 プログラム学習による病態と処方解析／井関健ほか：廣川書店 やさしい臨床医学テキスト／星恵子ほか：薬事日報社
<b>参照ホームページ Websites</b>
<b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b>
<b>備考 Additional Information</b> コアカリキュラムの対応項目： A_1,2,5,8,10) B-1-1(1),(2),(4),(7) B-1-2(2),(3),(4),(7),(8),(10) B-1-3(6) B-2-1(1),(2),(4) C-7-2(1),(2),(3),(4),(5),(6) C-7-4(1),(2) C-7-5(1),(2) C-7-6(1),(2),(3) C-7-8(2),(5),(7) C-7-12(1),(2),(3),(4) C-7-13(1),(2),(3),(4) D-1-1(1),(4) D-1-2(1),(2),(3) D-1-3(1),(3) D-2-2(1),(2) D-2-3(1) D-2-5(1),(2),(3) D-2-6(1),(2),(3),(4),(5) D-2-7(1),(2),(3) D-2-8(1),(2) D-2-10(1),(2),(3) D-2-17(1),(2) D-3-5(1),(2) F-1-1(1),(2),(3),(4),(5),(6),(8),(9),(10),(11),(12),(14)  再試験は行わない

科目名 Course Title	生薬学・漢方医学[Pharmacognosy & Kampo Medicine]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	脇本 敏幸 [WAKIMOTO Toshiyuki] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	大西 俊介[OHNISHI Shunsuke](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025049
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	3～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3610		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	6 臨床系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 生薬学・漢方医学		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	1 該当する		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	生薬 薬用植物 漢方薬		
授業の目標 Course Objectives	<p>・薬として用いられる動物・植物・鉱物由来の生薬の基本的性質を理解するために、それらの基原、性状、含有成分、生合成、品質評価、生産と流通、歴史的背景などについての基本的知識、およびそれらを活用するための基本的技能を習得する。</p> <p>・現代医療で使用される生薬・漢方薬について理解するために、漢方医学の考え方、代表的な漢方処方の適用、薬効評価法についての基本的知識と技能を修得する</p>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。</li> <li>2. 生薬の歴史、および生産と流通について概説できる。</li> <li>3. 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。</li> <li>4. 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。</li> <li>5. 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。</li> <li>6. 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。</li> <li>7. 漢方薬の特徴、民間薬や代替医療との相違について説明できる。</li> <li>8. 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。</li> <li>9. 漢方処方と「証」との関係について概説できる。</li> <li>10. 代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。</li> <li>11. 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。</li> <li>12. 代表的な疾患に用いられる生薬および漢方処方の応用、使用上の注意を概説できる。</li> <li>13. 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。</li> <li>14. 漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生薬および漢方薬の特徴、歴史、生産、流通</li> <li>2. 薬用植物の形態、学名、薬用部位</li> <li>3. 生薬有効成分の化学構造および用途(1)</li> <li>4. 生薬有効成分の化学構造および用途(2)</li> <li>5. 生薬有効成分の化学構造および用途(3)</li> <li>6. 生薬有効成分の化学構造および用途(4)</li> <li>7. 生薬有効成分の化学構造および用途(5)</li> <li>8. 総合演習(1)</li> </ol>		

<p>9. 漢方医学総論</p> <p>10. 現代医療における漢方製剤の位置付け(1)</p> <p>11. 現代医療における漢方製剤の位置付け(2)</p> <p>12. 重要方剤(1)</p> <p>13. 重要方剤(2)</p> <p>14. 漢方製剤の薬理(1)</p> <p>15. 漢方製剤の薬理(2)</p>
<p><b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b></p> <p>授業は講義形式で行う。プリント、講義ノート等を活用して、十分に予習・復習を行うこと。 なお、生薬学の教科書・参考図書については下記参照。</p>
<p><b>成績評価の基準と方法 Grading System</b></p> <p>授業回数の2/3以上の出席を成績評価の条件とする。期末試験もしくはレポート(80%)、出席態度(20%)によって評価する。</p>
<p><b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b></p> <p>病院において診療に携わっている教員が、実務経験に基づき漢方医学について講義を行う。</p>
<p><b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b></p>
<p><b>テキスト・教科書 Textbooks</b></p> <p>パートナー生薬学 改訂第4版／木内文之、小松かつ子、三巻 祥浩:南江堂, 2022</p>
<p><b>講義指定図書 Reading List</b></p> <p>薬学生のための漢方医薬学 改訂第3版／山田陽城、花輪寿彦、金成俊、小林義典:南江堂, 2017</p> <p>生薬学・天然物化学 第2版／吉川雅之:化学同人, 2012</p>
<p><b>参照ホームページ Websites</b></p>
<p><b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b></p>
<p><b>備考 Additional Information</b></p> <p>再試験は行わない。</p> <p>コアカリキュラムの対応項目: A_4,5) C-5-1(1),(2),(3) D-2-1(1),(2)</p>

科目名 Course Title	臨床生化学[Clinical Biochemistry]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	大久保 直登 [OKUBO Naoto] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025050
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	3～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3620		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	6 臨床系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 臨床生化学		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	疾患 健康 生化学 臨床検査値		
授業の目標 Course Objectives	<p>病気や健康と生化学の関連を明らかにする。そのために、臨床的に重要な生体成分の生化学的意義や代謝的機能を学び、種々の病態における生体成分や臓器・組織の異常を理解する。この講義を通して、「生化学」、「生理学」、「薬理学」などで修得した知識について更に理解を深める。また、臨床検査項目(生化学的、血液学的、免疫学的検査)の値と疾患の関係について学ぶ。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>疾病に伴う症状と臨床検査値の変化などの確かな患者情報を取得し、患者個々に応じた薬の選択、用法・用量の設定および各々の医薬品の「使用上の注意」を考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、薬物治療に関する基本的知識とそれを応用する能力を修得する。</p> <p>1: 血漿タンパク質や血液細胞の機能、病態との関連について説明できる。</p> <p>2: 組織や臓器の主な生化学的機能とその異常について説明できる。</p> <p>3: 臨床的に重要な酵素や生体必須元素についてその生理的意義、病態との関連を説明できる。</p> <p>4: 主要な臨床検査値とその異常が示す意味を説明できる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>1: 臨床検査概要, 血液の生化学 1 血液概論・赤血球</p> <p>2: 血液の生化学 2 鉄代謝と貧血</p> <p>3: 血液の生化学 3 白血球と血小板</p> <p>4: 血液の生化学 4 血液凝固系</p> <p>5: 血液の生化学 5 血漿タンパク質と逸脱酵素</p> <p>6: 血液の生化学 6 血糖と糖尿病</p> <p>7: 血液の生化学 7 リポタンパクと脂質異常症</p> <p>8: 腎臓と尿の生化学</p> <p>9: 体液と無機質の生化学と臨床・カルシウム調節と疾患・必須微量元素</p> <p>10: 消化器官疾患</p> <p>11: 呼吸器官疾患</p> <p>12: 心臓・血管系疾患</p> <p>13: 先天性代謝異常症</p> <p>14: 腫瘍・腫瘍マーカー</p> <p>15: 免疫疾患・アレルギー・バイタルサイン</p>		

**準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework**

毎回の予習は講義に先立って配布される資料を用いて行うこと。復習は教科書、講義ノート、配布資料を活用して行うこと。講義内容の復習と理解度確認のために適宜小テストが実施される。

**成績評価の基準と方法 Grading System**

成績は講義中の小テスト(20%)および定期試験(80%)から総合的に判定する。10回以上の講義に出席することが成績評価の要件となる。

**有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes****他学部履修の条件 Other Faculty Requirements****テキスト・教科書 Textbooks**

臨床検査データブック／黒川清ほか:医学書院, 2021

**講義指定図書 Reading List**

カラー図解 臨床生化学／アラン・ゴー:メデイカル・サイエンス・インターナショナル, 1999

薬学生のための病態検査学／三浦雅一:南江堂, 2023

毎回講義資料を配付

**参照ホームページ Websites****研究室のホームページ Websites of Laboratory****備考 Additional Information**

この科目では再試験は実施しない。

コアカリキュラムの対応項目:

A\_1),4),5)

C-6-1(2)

C-6-4(2)

C-6-5(1),(2),(5),(6),(7),(8),(9),(10),(11),(12)

C-6-6(1),(3),(4),(5)

C-7-3(3)

C-7-6(3)

C-7-8(1),(2),(5),(6),(8)

C-7-10(1),(2),(3)

C-7-11(1),(2),(3)

C-7-12(1),(2),(3),(4)

C-7-13(1),(2),(3),(4)

D-1-2(1),(2),(3)

D-2-6(1),(2),(3),(4)

D-2-8(1)

D-2-9(1),(2)

D-2-11(1)

D-2-12(1)

D-2-13(1)

D-2-16(1)

E-2-1(1),(2)

科目名 Course Title	医薬品情報学[Drug Informatics]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	武隈 洋 [TAKEKUMA Yoh] (新病院・薬剤部)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025051
期間 Semester	2学期(秋ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	3～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3630		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	6 臨床系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	3 医薬品情報学		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	1 該当する		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
<b>キーワード Key Words</b>	医薬品情報、薬剤疫学、医療情報、Evidence-based medicine (EBM)		
<b>授業の目標 Course Objectives</b>	薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供するために、医薬品情報ならびに患者から得られる情報の収集、評価、加工などに関する基本的知識を修得し、それらを活用するための能力を修得する。		
<b>到達目標 Course Goals</b>	<p>(1) 医薬品の適正使用に必要な医薬品情報を理解し、正しく取り扱うことができるようになるために、医薬品情報の収集、評価、加工、提供、管理に関する基本的事項や方法を説明できる。</p> <p>(2) 個々の患者への適正な薬物治療に貢献できるようになるために、EBM (Evidence-based Medicine) の基本的な概念およびその実践に必要な基本的事項を説明できる。</p> <p>(3) 地域住民のセルフメディケーション実践のために、一般用医薬品や保健機能食品を取り巻く業種や環境を把握し、薬剤師が果たす役割を担うために必要な基本的事項を説明できる。</p>		
<b>授業計画 Course Schedule</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品情報学総論(医薬品情報の歴史、必要性、倫理)</li> <li>2. 医薬品情報の発生過程(開発過程で得られる情報、市販後に得られる情報)</li> <li>3. 医薬品の情報源(厚生労働省、医薬品医療機器等総合機構、製薬企業)</li> <li>4. 医薬品情報の加工と提供</li> <li>5～7. 医薬品情報の評価および EBM (Evidence Based Medicine) と臨床研究</li> <li>8. 患者情報(情報源と収集・評価・管理)とセルフメディケーション、デジタル技術・データサイエンス</li> </ol>		
<b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b>	<p>予習は必要ない。</p> <p>授業の最初に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、特に配布した資料の内容は理解しておくこと。小テストの正答は次の回の授業で伝え、正答率および間違いの多かった問題については解説を加える。</p>		
<b>成績評価の基準と方法 Grading System</b>	<p>毎回の小テストおよび定期試験により評価する。</p> <p>小テスト 25%、定期試験 75%。</p> <p>なお、単位の取得には、2/3 以上の出席を必要とするので留意すること。</p>		
<b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b>	大学病院薬剤部所属の教員が、実務経験に基づき、現場の薬剤師に求められる薬学知識について講義する。		
<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>			

**テキスト・教科書 Textbooks**

コンパス医薬品情報学-理論と演習- 改訂第3版／小林道也・中村 仁 編:南江堂, 2022

**講義指定図書 Reading List**

医薬品情報学 (Crosslink 薬学テキスト)／真野 泰成 編集:メジカルビュー社, 2024

図解 医薬品情報学 改訂5版／折井孝男 編集:南山堂, 2023

**参照ホームページ Websites**

<https://www.pmda.go.jp/index.html>

**研究室のホームページ Websites of Laboratory****備考 Additional Information**

再試験は行わない。

コアカリキュラムの対応項目:

A\_4),5),6),8)

B-1-1(3),(4),(6)

B-1-2(1),(5),(6)

B-1-3(1),(2),(3),(4),(5)

B-4-1(1),(2),(4),(5)

B-4-2(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7),(8)

B-4-3(2)

B-4-4(2),(3)

B-5-2(1),(2),(3),(4),(5)

D-2-20(2),(3)

D-3-1(1),(2)

D-3-2(1),(2),(3),(4),(5)

D-3-3(1),(2),(3),(4),(5),(6)

D-3-4(1),(2),(4)

D-3-5(1),(2),(3),(4)

科目名 Course Title	薬物代謝学[Drug Metabolism]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	菅原 満 [SUGAWARA Mitsuru] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025008
期間 Semester	2学期(秋ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	3～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3640		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	6 臨床系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	4 薬物代謝・臨床薬剤・医薬品安全性学		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	1 該当する		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	薬物代謝, 個体差, 相互作用		
授業の目標 Course Objectives	<p>作用部位に達した薬物の量と作用により薬効が決まることを理解するために, 薬物の生体内における動きと作用に関する基本的知識を修得する。</p> <p>薬物の生体内運命を理解するために, 薬物代謝過程に関する基本的知識を修得する。</p>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。</li> <li>2. 薬物の体内動態および薬効に個人差が生じる要因を説明できる。</li> <li>3. 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。</li> <li>4. 代謝活性化について概説できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物代謝概論</li> <li>2. 薬物代謝に関わる酵素(1)酸化</li> <li>3. 薬物代謝に関わる酵素(2)還元, 加水分解</li> <li>4. 薬物代謝に関わる酵素(3)抱合</li> <li>5. 薬物動態への代謝酵素とトランスポーターの関与</li> <li>6. 薬物代謝の個体差と遺伝的多型</li> <li>7. 薬物代謝に起因する毒性と薬物相互作用</li> </ol>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	教科書と配布する資料を読むなどして予習し, 資料や講義ノートを活用して復習する。		
成績評価の基準と方法 Grading System	レポート及び小テスト(30%), 定期試験の成績(70%)。試験の難易度により得点調整を行うことがある。定期試験を受けるためには2/3以上の出席回数が必要。再試験は実施しない。		
有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes	病院薬剤師としての経験を有する教員が, 実務経験に基づいて薬物代謝とその体内動態への影響に関する講義を行う。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			

<b>テキスト・教科書 Textbooks</b> 適宜資料を配布
<b>講義指定図書 Reading List</b> 医療薬物代謝学(第2版)／山崎浩史, 小澤正吾編集:テコム出版事業部, 2018 Crosslink 薬学テキスト 薬物動態学／永田将司 編集:メジカルビュー社, 2025 生物薬剤学 改訂第4版／谷川原祐介、井上勝央 編集:南江堂, 2024
<b>参照ホームページ Websites</b>
<b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b>
<b>備考 Additional Information</b> コアカリキュラムの対応項目: A_4),5),6),7) D-1-3(1) D-4-1(1),(2),(3)

科目名 Course Title	臨床薬剤学[Clinical Pharmaceutics]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	菅原 満 [SUGAWARA Mitsuru] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025052
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	4～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3640		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	6 臨床系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	4 薬物代謝・臨床薬剤・医薬品安全性学		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	1 該当する		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	チーム医療, 医療安全, 服薬指導, TDM		
授業の目標 Course Objectives	<p>病院と薬局での薬剤師業務の概要と社会的使命を理解する。</p> <p>調剤を正確に実施できるようになるために、処方せん授受から服薬指導までの流れに関連する基本的知識を修得する。</p> <p>患者の安全確保と QOL 向上に貢献できるようになるために、服薬指導や薬物投与計画に関する基本的知識、技能を修得する。</p>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。</li> <li>2. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。</li> <li>3. 患者に適した剤形を選択できる。</li> <li>4. 患者の特性に適した用量を計算できる。</li> <li>5. 代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<p>講義およびグループ討論形式で行う。マークシートを利用した小テストやレポートで理解度を確認する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬分業とチーム医療(1)</li> <li>2. 医薬分業とチーム医療(2)</li> <li>3. 医療安全</li> <li>4. 薬物動態の重要事項</li> <li>5. 腎障害時の薬物投与</li> <li>6. 肝障害時の薬物投与</li> <li>7. 小児, 高齢者への薬物投与</li> <li>8. 妊婦, 授乳婦への薬物投与</li> <li>9. 医薬品の相互作用</li> <li>10. 水・電解質異常と輸液(1)</li> <li>11. 水・電解質異常と輸液(2)</li> <li>12. 栄養療法</li> <li>13. TDMと投与計画(1)</li> <li>14. TDMと投与計画(2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		

<p><b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b></p> <p>配布する資料を読むなどして予習し、資料や講義ノートを活用して復習する。</p>
<p><b>成績評価の基準と方法 Grading System</b></p> <p>グループ討論への参加態度、レポート及び小テスト(30%)、定期試験の成績(70%)。試験の難易度により得点調整を行うことがある。定期試験を受けるためには2/3以上の出席日数が必要。再試験は実施しない。</p>
<p><b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b></p> <p>病院薬剤師としての経験を有する教員が、実務経験に基づいて医薬品の適正使用に関する講義を行う。</p>
<p><b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b></p>
<p><b>テキスト・教科書 Textbooks</b></p> <p>講義資料を配布する</p>
<p><b>講義指定図書 Reading List</b></p> <p>コンパス 調剤学 改訂第4版／八重徹司、緒方憲太郎、高取真吾 編集:南江堂, 2024  臨床薬物動態学 改定第5版／加藤隆一(監修)ほか:南江堂, 2017  Crosslink 薬学テキスト 薬物動態学／永田将司 編集:メジカルビュー社, 2025</p>
<p><b>参照ホームページ Websites</b></p>
<p><b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b></p>
<p><b>備考 Additional Information</b></p> <p>コアカリキュラムの対応項目:  A_5),6),7),9)  D-1-3(1)  D-4-1(1),(2),(3),(4)  D-4-2(2),(3),(5)  D-6-1(2),(3),(4)  F-3-3(2)</p>

科目名 Course Title	医薬品安全性学[Drug Safety and Toxicology]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	菅原 満 [SUGAWARA Mitsuru] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025007
期間 Semester	1 学期 (春ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	4～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3640		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	6 臨床系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	4 薬物代謝・臨床薬剤・医薬品安全性学		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	1 該当する		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	有害事象, 副作用, 中毒		
授業の目標 Course Objectives	医薬品を安全に使用するために, 副作用の種類や症状, 原因薬剤及び発生機序を理解する。また, 薬物中毒とその対処法を理解する。		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 有害事象と副作用について説明できる。</li> <li>2. 各臓器に障害を引き起こす薬剤とその発生機序を説明できる。</li> <li>3. 急性薬物中毒とその対処法を説明できる。</li> <li>4. 医薬品による健康被害に対する救済制度について説明できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<p>講義形式で行う。マークシートを利用した小テストで理解度を確認する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総論</li> <li>2. 臓器毒性各論(1)肝臓, 腎臓</li> <li>3. 臓器毒性各論(2)循環器, 呼吸器</li> <li>4. 臓器毒性各論(3)消化器, 骨格筋・骨</li> <li>5. 臓器毒性各論(4)神経系, 血液・造血器,</li> <li>6. 臓器毒性各論(5)皮膚・粘膜, 感覚器, その他の臓器</li> <li>7. 急性薬物中毒とその処置法</li> </ol>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	配布する資料を読むなどして予習し, 資料や講義ノートを活用して復習する。		
成績評価の基準と方法 Grading System	レポート及び小テスト(30%), 定期試験の成績(70%)。試験の難易度により得点調整を行うことがある。定期試験を受けるためには 2/3 以上の出席回数が必要。再試験は実施しない。		
有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes	病院薬剤師としての経験を有する教員が, 実務経験に基づいて医薬品の副作用や中毒に関する講義を行う。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			

**テキスト・教科書 Textbooks**

適宜資料を配布

**講義指定図書 Reading List**

図解 薬害・副作用学 改訂3版／川西正祐、小野秀樹、賀川義之 編集：南山堂, 2023

**参照ホームページ Websites****研究室のホームページ Websites of Laboratory****備考 Additional Information**

コアカリキュラムの対応項目：

A\_5),6),7),10)

B-4-2(5),(7)

D-1-3(1),(2),(3)

科目名 Course Title	医療概論[Introduction of Medical Care]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	小林 正紀 [KOBAYASHI Masaki] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025053
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	4～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3650		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	6 臨床系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	5 医療概論・薬事関連法規・病院薬局管理論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	1 該当する		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	薬剤師、コミュニティファーマシー、医薬分業、セルフメディケーション、地域医療、補完代替医療、漢方医療		
授業の目標 Course Objectives	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬学生として学習に対するモチベーションを高めるために、卒業生の活躍する現場の状況を理解する。</li> <li>・コミュニティファーマシー(地域薬局)のあり方と業務を理解するために、薬局の役割や業務内容、医薬分業の意義、セルフメディケーションなどに関する基本的知識と、それらを活用するための基本的態度を修得する。</li> <li>・医薬分業のしくみとその意義について理解する。</li> <li>・薬局の業務運営を理解する。</li> <li>・セルフメディケーションなどに関する基本的な事柄と薬剤師の役割を理解する。</li> </ul>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめることができる。</li> <li>2. 保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議することができる。</li> <li>3. 保健、福祉の重要性を説明できる。</li> <li>4. 地域薬局の役割を列挙できる。</li> <li>5. 在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。</li> <li>6. 学校薬剤師の役割を説明できる。</li> <li>7. 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。</li> <li>8. 調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)について説明できる。</li> <li>9. 医薬分業、かかりつけ薬局の意義を説明できる。</li> <li>10. 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議することができる。</li> <li>11. 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニティファーマシーの役割</li> <li>2. 医薬分業のしくみ</li> <li>3. 医薬分業の現状とかかりつけ薬局の意義</li> <li>4. 調剤過誤とその防止策</li> <li>5. 在宅医療における薬局と薬剤師の役割</li> <li>6. 医薬分業と在宅医療</li> <li>7. 薬局の業務と運営(1)</li> <li>8. 薬局の業務と運営(2)</li> <li>9. 調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)</li> <li>10. セルフメディケーション</li> <li>11. 漢方相談薬局の現場から (1)</li> <li>12. 漢方相談薬局の現場から (2)</li> <li>13. 学校薬剤師と学校環境衛生</li> </ol>		

14. 日常生活とくすり
15. 医薬分業の将来像についての展望
<b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b> 薬局業務の概要について各々が調べてから講義に臨むことが望ましい。 復習は配布されたプリント等の資料をより深く勉強すること。
<b>成績評価の基準と方法 Grading System</b> 各薬局の経営者の立場、責任者の立場から複数の薬剤師による講義を受けた後、課題レポートを提出する。 授業回数の 2/3 以上出席した者について、(1)授業への参加態度(10%)、(2)学期末レポートの内容(90%)を総合して、到達目標の達成度を評価する。
<b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b> 薬剤師経験を有する教員が、講義をコーディネートする。
<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>
<b>テキスト・教科書 Textbooks</b>
<b>講義指定図書 Reading List</b> 調剤薬局運営パーフェクトマニュアル:日経BP社, 2006 「スタンダード薬学シリーズⅡ 薬学総論 Ⅱ.薬学と社会」/日本薬学会編:東京化学同人, 2016 薬学と社会「医療経済・多職種連携とチーム医療・地域医療・在宅医療」/乾賢一監修・望月真弓担当編集:中山書店, 2017
<b>参照ホームページ Websites</b>
<b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b>
<b>備考 Additional Information</b> コアカリキュラムの対応項目: A_1),2),3),4),5),6),7),8),9),10) B-1-1(1),(2) B-1-2(2),(3),(4),(7),(8) B-1-3(1),(2),(3) B-2-1(1),(2),(3) B-2-2(1),(2) B-3-1(2),(3),(4),(5),(6),(7),(8),(9),(10),(11) B-5-2(3) B-5-3(1) C-5-1(1) C-5-2(4) D-2-19(1),(2) D-2-20(1) D-3-5(1),(3),(5) D-4-1(4) D-6-1(3),(4),(5) E-2-1(5) F-1-1(1),(2),(5),(6),(8),(10),(11),(12),(13),(16) F-2-1(1),(3),(4),(5),(6),(7),(8),(9),(10) F-3-2(1),(2),(6) F-3-3(2) F-4-1(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7) F-4-2(3),(4),(5),(6)  コア・カリキュラム以外の独自の内容: 外部講師がオムニバス方式でそれぞれの現場の実際の状況と最新の話題について、薬剤師の立場から講義を実施している点  再試験は行わない

科目名 Course Title	薬事関連法規[Drug Regulatory Affairs Laws]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	柴山 良彦 [SHIBAYAMA Yoshihiko] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	小林 正紀[KOBAYASHI Masaki](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025054
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	4～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3650		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	6 臨床系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	5 医療概論・薬事関連法規・病院薬局管理論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	1 該当する		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	医薬品医療機器等法、薬剤師法、社会保障・医療制度、医療法、麻薬・向精神薬、毒劇物取締法、救済制度、個人情報保護		
授業の目標 Course Objectives	<p>1. 医薬品は、その品質、有効性、安全性を確保するために、開発・製造・供給ならびに使用の各段階において種々の法令によって規制されている。これら各段階において薬剤師が果たすべき責任・義務を正しく理解するために医療制度や薬事関連法規を学び、薬剤師業務の遂行に必要な知識や技能を修得するとともに、国民の医療を担う薬剤師としての社会的使命と倫理観を培う。</p> <p>2. 患者の権利を考慮し、責任をもって医療に参画できるようになるために、医薬品医療機器等法、薬剤師法などの医療および薬事関係法規、制度の精神とその施行に関する基本的知識を修得し、それらを遵守する態度を身につける。</p> <p>3. 公平で質の高い医療を受ける患者の権利を保障するしくみを理解するために、社会保障制度と薬剤経済の基本的知識とそれを応用する能力を修得する。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>1. 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚できる。</p> <p>2. 医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。</p> <p>3. 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。</p> <p>4. 医薬品医療機器等法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。</p> <p>5. 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。</p> <p>6. 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。</p> <p>7. 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。</p> <p>8. 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。</p> <p>9. 製造物責任法を概説できる。</p> <p>10. 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。</p> <p>11. 覚醒剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。</p> <p>12. 大麻取締法およびあへん法を概説できる。</p> <p>13. 毒物及び劇物取締法を概説できる。</p> <p>14. 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準(放射性医薬品基準など)および制度について概説できる。</p> <p>15. 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>1. 社会薬学の概要</p> <p>2. 薬剤師の倫理と法的責任</p> <p>3. 医薬品医療機器等法の概要、薬害と医療倫理</p> <p>4. 医薬品医療機器等法(医薬品の定義、薬局、医薬品の製造)</p> <p>5. 医薬品医療機器等法(生物製剤、指定薬物、放射性医薬品)</p> <p>6. 医薬品医療機器等法(医薬品等の製造承認、治験、医薬品の審査、医薬品副作用被害救済制度)</p> <p>7. 薬剤師法</p>		

<p>8. 診療・調剤報酬制度(健康保険法)、社会保障制度</p> <p>9. 毒劇物取締法</p> <p>10. 個人情報保護法、製造物責任法、血液製剤関連法規、医療安全</p> <p>11. 麻薬および向精神薬取締法</p> <p>12. 覚醒剤取締法、大麻取締法、あへん法</p> <p>13. 医事関連法規(医療法、医師法、保助看法)</p> <p>14. 地域薬局の機能と役割、介護保険法</p> <p>15. これまでの講義のまとめ</p>
<p><b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b></p> <p>薬学概論、医療概論、病院薬局管理論を履修しておくことが望ましい。練習問題として薬剤師国家試験の過去問を配布するので、授業後に1時間程度復習すること。</p>
<p><b>成績評価の基準と方法 Grading System</b></p> <p>授業回数の2/3以上出席した者について、学期末試験等によって到達目標の達成度を評価する。</p>
<p><b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b></p> <p>病院薬剤部および保険薬局において薬剤師経験を有する教員が講義を行う。</p>
<p><b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b></p>
<p><b>テキスト・教科書 Textbooks</b></p> <p>資料を配布する。</p>
<p><b>講義指定図書 Reading List</b></p> <p>スタンダード薬学シリーズⅡ「薬学総論 Ⅱ.薬学と社会」/日本薬学会編集:東京化学同人, 2022</p> <p>薬事衛生研究会編集『薬事法規・制度及び倫理 解説』:薬事日報社</p> <p>三輪 亮寿 編著『薬事関連法規 改訂第4版』:南江堂</p>
<p><b>参照ホームページ Websites</b></p> <p>関係法令はデジタル庁 e-Gov: <a href="https://www.e-gov.go.jp/">https://www.e-gov.go.jp/</a> に公開されている。</p>
<p><b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b></p>
<p><b>備考 Additional Information</b></p> <p>講義は柴山 良彦(北海道医療大学薬学部教授)が担当する。合格基準に達しない場合は再試験を本試験の翌週に行う。</p> <p>コアカリキュラムの対応項目:</p> <p>A_1),10)</p> <p>B-1-1(1),(2),(3),(6),(7)</p> <p>B-1-2(1),(6)</p> <p>B-1-3(1),(2),(3),(4),(5),(6)</p> <p>B-3-2(1),(2),(3),(4),(5),(6)</p> <p>B-4-2(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7),(8)</p> <p>B-4-4(1),(2),(3)</p> <p>C-2-8(6)</p> <p>D-3-5(4)</p> <p>F-3-1(1),(2),(3)</p> <p>F-3-3(1),(2),(3),(4),(5),(6)</p>

科目名 Course Title	病院薬局管理論[Hospital Pharmacy Management]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	菅原 満 [SUGAWARA Mitsuru] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025055
期間 Semester	1 学期 (春ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	4～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3650		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	6 臨床系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	5 医療概論・薬事関連法規・病院薬局管理論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	1 該当する		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	病院薬剤部、医薬品安全管理、病棟業務、セーフティマネジメント、社会貢献活動		
授業の目標 Course Objectives	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤師業務は法律を遵守し、整った設備の中で適正な管理のもとに行われなければならないことを理解する。</li> <li>・生涯にわたって医療を通して社会に貢献できるように必要なこころ構えを身につける。</li> <li>・病院薬局の役割を理解し、管理運営に必要な知識を身につける。</li> </ul>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.病院薬局の役割とそこで働く薬剤師の使命を理解できる。</li> <li>2.病院薬局の機構、構造、設備を説明できる</li> <li>3.薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。</li> <li>4.薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を説明できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院薬局管理論～導入</li> <li>2. 病院薬剤師とくすりのサイエンス</li> <li>3. 薬剤師の養成及び資質向上等</li> <li>4. スポーツ薬理学・スポーツにおける薬物治療(社会貢献活動)</li> <li>5. 病院における薬剤師業務</li> <li>6. 薬学的管理</li> </ol>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	病院薬剤師業務の概要について各々が調べてから講義に臨むことが望ましい。復習は配布されたプリント等の資料により深く勉強すること。		
成績評価の基準と方法 Grading System	各担当者の講義形式ですすめ、課題レポートの提出を求める。授業回数の 2/3 以上出席した者について、授業への参加態度およびレポートの内容を総合して、到達目標の達成度を評価する。		
有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes	病院薬剤部門の管理経験者が、薬剤師の役割および薬剤部の管理運営に関する講義を行う。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			

**講義指定図書 Reading List**

**参照ホームページ Websites**

**研究室のホームページ Websites of Laboratory**

**備考 Additional Information**

コアカリキュラムの対応項目:

A\_5),9),10)

B-1-1(1),(2)

B-2-2(1)

B-3-1(4),(5),(9)

D-1-3(4)

コア・カリキュラム以外の独自の内容:

医療施設における薬剤部門の管理・運営

科目名 Course Title	臨床統計学[Clinical Statistics]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	原島 秀吉 [HARASHIMA Hideyoshi] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025056
期間 Semester	2学期(秋ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	3～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3660		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	6 臨床系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	6 臨床統計学		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	正規分布、t-分布、F-分布、分散分析、ノンパラメトリック、回帰、相関、多変量解析、実験計画法		
授業の目標 Course Objectives	臨床統計学では、確率論を復習し、統計の基礎理論(各種検定法)を理解し、演習問題を通して実際に解析できる技術を修得する。また、回帰と相関や多変量解析についてもその原理を学ぶ。さらに、非臨床、臨床の現場でどのように統計解析が行われるかを理解することを最終目的とする。		
到達目標 Course Goals	1. 統計学の基礎理論を説明できる。 2. 統計学の解析法を活用できる。 3. 非臨床、臨床で用いられる統計を説明できる。		
授業計画 Course Schedule	1. 臨床統計学概論 2. 検定の原理 3. 分散分析 4. ノンパラメトリック法 5. 回帰と相関 6. 多変量解析、実験計画法		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	予習は、次回授業の範囲に相当する教科書を予め読んでおき、不明な点は授業中に積極的に質問すること。復習は、教科書、プリント、講義ノートの確認とともに、計算問題を自ら解く事により、基礎概念の理解を深めること。		
成績評価の基準と方法 Grading System	期末試験の結果に基づいて評価を行う。		
有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	バイオサイエンスの統計学/市原 清志:南江堂, 1990		
講義指定図書 Reading List	統計学を拓いた異才たち/デイヴィット サルツブルグ:日本経済新聞社, 2006 統計学が最強の学問である/西内啓:ダイヤモンド社, 2013		

**参照ホームページ Websites**

**研究室のホームページ Websites of Laboratory**

<http://www.pharm.hokudai.ac.jp/yakusetu/index.html>

**備考 Additional Information**

コアカリキュラムの対応項目：

A\_4),6)

B-5-1(2)

D-3-3(4),(5)

D-3-4(3)

E-1-2(3)

G-1-1(2)

G-2-1(2)

G-2-2(2)

再試験は行わない。

科目名 Course Title	医療コミュニケーション論[Health Communication]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	柏木 仁 [KASHIWAGI Hitoshi] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	関口 詩乃[SEKIGUCHI Shino](さんぼうよし)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025057
期間 Semester	2学期(秋ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	4～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3670		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	6 臨床系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	7 医療コミュニケーション論		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	1 該当する		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	コミュニケーション、自己理解、他者理解、相互理解		
授業の目標 Course Objectives	<p>自分の『コミュニケーション』の癖を知り、他者との違いを知ることで、自己理解と他者理解を深め、対人スキルを向上させる。「知識を伝えること」が『コミュニケーション』ではないことを理解し、医療人として患者及び医療スタッフと『コミュニケーション』を取るために必要な基本的な知識とそれを応用する能力を修得する。</p>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「聴く」ことの大切さを知り、実行できる</li> <li>2. 人と人との信頼関係を構築する方法について説明できる</li> <li>3. 「フィードバック」ができる</li> <li>4. 「医療コミュニケーション」に必要な事柄について説明できる</li> <li>5. 患者心理を学び、必要なコミュニケーションをとる方法について説明できる</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己理解 コミュニケーションとは何か。なぜコミュニケーションのためには自己理解が必要なのか。自分が取りがちな態度は何か。それは相手にどう影響するか。</li> <li>2. 他者理解 患者がわからない(知らない)言葉とその伝え方。言語・非言語による伝え方・伝わり方。</li> <li>3. 相互理解 医療人と患者の感じ方の違いおよび患者心理に配慮した会話の仕方。コーチングテクニックの活用、支援のダイナミクス。</li> <li>4. 患者支援のための介入方法 医療コミュニケーションで特に注意が必要なことは何か。コンプライアンスからコンコーダンス、服薬指導から服薬サポートへの変化。</li> <li>5. 話し込みが必要な症例を用いたロールプレイ</li> </ol>		

<p>問題の隠れている疑似症例を用いてロールプレイを行い、実際にコミュニケーションスキルを使ってみると同時に、患者役として「聞かれる側」の体験をする。</p>
<p><b>準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework</b>          ロールプレイのシナリオに出てくる処方については予習してくる。          実務実習事前実習の服薬指導のセクションで行われた講義内容や資料を復習してこの講義に参加すること。その日気づいたこと、感じたことの振り返りが重要なので、必ず当日中に内容の振り返りをする。</p>
<p><b>成績評価の基準と方法 Grading System</b>          参加姿勢・発言回数(30%)、レポート(20%)、試験(50%)により総合的に評価する。2/3 以上の出席がない場合は単位を認定しない。</p>
<p><b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b>          コーチングやカウンセラーのアドバイザーとして経験を有する教員が、コミュニケーションについて講義を行う。</p>
<p><b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b></p>
<p><b>テキスト・教科書 Textbooks</b>          適宜プリントを配布</p>
<p><b>講義指定図書 Reading List</b></p>
<p><b>参照ホームページ Websites</b></p>
<p><b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b></p>
<p><b>備考 Additional Information</b>          講義だけでなくロールプレイなど演習も交えて進めていく。          合格基準に達しない場合は、原則として再試験を本試験の翌週に行う。</p> <p>コアカリキュラムの対応項目：          A_2),8),9)          B-1-1(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7),(8),(9)          B-1-2(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7),(8),(9),(10),(11)          B-1-3(1),(2),(3),(4)          B-2-1(1),(2),(3),(4),(5)          B-2-2(1),(2),(3),(4)          B-3-1(7)          B-5-3(3)          D-3-5(4)          D-6-1(3),(4),(5)          F-1-1(6),(11),(16)          F-2-1(1),(9)          F-3-2(2)          F-4-1(1),(3),(4)          F-5-1(1),(3),(4),(7)          G-2-2(5)</p>

科目名 Course Title	薬剤経済学[Pharmacoeconomics]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	小林 正紀 [KOBAYASHI Masaki] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025058
期間 Semester	2学期(冬ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Student	4～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3680		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	6 臨床系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	8 薬剤経済学		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	1 該当する		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	3 遠隔授業科目《一部対面》		
キーワード Key Words	医療経済、医療制度、費用対効果、医療保険		
授業の目標 Course Objectives	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公平で質の高い医療を受ける患者の権利を保障するしくみを理解するために、社会保障制度と薬剤経済の基本的知識とそれを応用する能力を修得する。</li> <li>・医療保険をはじめとするわが国の社会保障制度の歴史、仕組みや費用について理解する。</li> <li>・他国の制度との比較によりわが国の社会保障制度が抱える課題について考察する。</li> <li>・「費用対効果」の観点からの薬物治療コストの経済評価に関する知識とそれを応用する能力を習得する。</li> </ul>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会保障制度の仕組みと課題を理解できる。</li> <li>2. 日本における社会保障制度のしくみを説明できる</li> <li>3. 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。</li> <li>4. 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。</li> <li>5. 医療保険のしくみを説明できる。</li> <li>6. 医療保険の種類を列挙できる。</li> <li>7. 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。</li> <li>8. 国民医療費の動向を概説できる。</li> <li>9. 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。</li> <li>10. 診療報酬と薬価基準について説明できる。</li> <li>11. 医療費の内訳を概説できる。</li> <li>12. 薬物治療の経済評価手法を概説できる。</li> <li>13. 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。</li> <li>14. わが国の社会保障制度が抱える課題を列挙できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会保障制度とは(歴史と仕組み)</li> <li>2. 医療保険を中心とした社会保険について</li> <li>3. 他国の社会保障制度との比較</li> <li>4. わが国の社会保障制度の課題</li> <li>5. 薬剤経済学とは</li> <li>6. 費用－便益分析</li> <li>7. 費用－効果分析</li> <li>8. 薬剤経済分析に必要なモデル技法について</li> </ol>		

<p><b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b>  復習は配布されたプリント等の資料をより深く勉強すること。</p>
<p><b>成績評価の基準と方法 Grading System</b>  各担当者の講義形式ですすめ、出席状況と課題レポートの成績を総合的に判断する。  授業回数の 4/5 以上出席した者について、授業への参加態度(10%)、レポートの内容(90%)を総合して、到達目標の達成度を評価する。</p>
<p><b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b>  薬剤師経験を有する教員が、講義をコーディネートする。</p>
<p><b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b></p>
<p><b>テキスト・教科書 Textbooks</b></p>
<p><b>講義指定図書 Reading List</b>  実践 薬剤経済学:治療目標の設定と薬剤選択および費用-効果分析の方法/Lorne E. Basskin 著、池田、坂巻 監訳:じほう  スタンダード薬学シリーズⅡ「薬学総論 Ⅱ.薬学と社会」/日本薬学会編:東京化学同人, 2016  薬学と社会「医療経済・多職種連携とチーム医療・地域医療・在宅医療」/乾賢一監修・望月真弓担当編集:中山書店, 2017</p>
<p><b>参照ホームページ Websites</b></p>
<p><b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b></p>
<p><b>備考 Additional Information</b>  コアカリキュラムの対応項目:  A_10)  B-3-2(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7)  B-3-3(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7)  B-5-1(1),(2),(3),(4)  E-1-1(4)</p> <p>コア・カリキュラム以外の独自の内容:  外部講師(国の機関)による最新の社会情勢や情報を盛り込んだ講義を実施している点</p> <p>再試験は行わない。</p>

科目名 Course Title	ドラッグデザイン演習[Drug Design]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	山本 一貴 [YAMAMOTO Kazuki] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	森崎 一宏[MORISAKI Kazuhiro](薬学研究院), 吉村 彩[YOSHIMURA Aya](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025084
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	演習	対象年次 Year of Eligible Student	3～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬科学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3380		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 化学系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	8 化学系演習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	ドラッグデザイン、シミュレーション、安定配座、立体構造、分子力場計算、標的生体分子、医薬品、NMR、ChemDraw、Chem3D、Macromodel、SciFinder、Reaxys、Web of Science、Protein Data Bank		
授業の目標 Course Objectives	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品の作用を化学構造と関連づけて理解するために、医薬品に含まれる代表的な構造とその性質に関する基本的知識と技能を修得する。</li> <li>・ ドラッグ デザインの科学的な考え方を理解するために、標的生体分子との相互作用および基盤となるサイエンスと技術に関する基本的知識と技能を修得する。</li> <li>・ 代表的な医薬品と生体分子の相互作用を理解した上で、標的分子に対する親和性の高い化合物をデザインできる。</li> </ul>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品の化学構造を調べ、ChemDraw を用いて描画できる。</li> <li>2. 分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。</li> <li>3. コンピューターソフトを用いて医薬品の最安定配座を探索できる。さらに、医薬品の構造の一部分を変えて最安定配座を探索し、比較することができる。</li> <li>4. 標的生体分子の構造を インターネットを利用してデータベースからダウンロードできる。</li> <li>5. ダウンロードした標的生体分子の構造を、コンピューターソフトを利用して立体的に表示できる。</li> <li>6. 医薬品と標的生体分子の相互作用を化学的観点から説明できる。</li> <li>7. コンピューターソフトを利用して、標的生体分子に対してより親和性の高い化合物をデザインできる。</li> <li>8. NMR スペクトルデータの解析により化合物の立体化学を含む構造を推定できる。</li> <li>9. 演習課題に取り組み、レポートしてまとめることができる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ChemDraw を用いての医薬品の構造式およびその合成反応式の描画</li> <li>2. 分子模型や Chem3D を利用しての医薬品の立体表示、局所安定配座の探索</li> <li>3. SciFinder、Reaxys および Web of Science 等を利用しての文献検索</li> <li>4. NMR 演習 1: <sup>13</sup>C NMR および DEPT スペクトルデータの解析</li> <li>5. NMR 演習 2: 2D NMR (HMQC および HMBC)スペクトルデータの解析法</li> <li>6. NMR 演習 3: 改良 Mosher 法および Rychnovsky のルール</li> <li>7. 基礎分子力場計算</li> </ol>		

<p>8. MacroModel を用いての医薬品および類似化合物の立体表示</p> <p>9. MacroModel を用いての医薬品および類似化合物の最安定配座の探索</p> <p>10. Protein Data Bank からの標的生体分子の構造のダウンロードおよび表示</p> <p>11. 標的生体分子と医薬品および類似化合物との相互作用のシミュレーション</p> <p>12. 演習: 標的生体分子との相互作用のシミュレーションに基づいた新規薬剤の設計</p>
<p><b>準備学習 (予習・復習)等の内容と分量 Homework</b></p> <p>本演習は、各自がコンピューターソフトを操作する事で必要な知識と技能を修得する。演習カリキュラム前半は主にコンピューターソフトの操作について説明するので、操作方法を忘れないようしっかり復習すること。後半はスペクトルデータによる構造解析の演習を行う。その後、演習前半で修得した知識と技能を利用して演習課題をレポートとしてまとめる。</p>
<p><b>成績評価の基準と方法 Grading System</b></p> <p>4/5 以上の出席を前提とし、小テスト(1 回)とレポート(2 回)により評価する。それぞれの比率は、小テストが 25%、レポート(1回目)が 25%、およびレポート(2回目)が 50%とする。</p>
<p><b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b></p>
<p><b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b></p>
<p><b>テキスト・教科書 Textbooks</b></p> <p>特になし。適宜プリントを配布する。</p>
<p><b>講義指定図書 Reading List</b></p> <p>コンピューターで分子の形をみる／榊原和久:裳華房, 2005  ベーシック有機構造解析／森田博史、石橋正巳:化学同人, 2011  よくある質問 NMR スペクトルの読み方／福士江里:講談社, 2009  有機化合物のスペクトル解析入門／L. M. ハーウッド、T. D. W. クラリッジ:化学同人, 1999  有機化学のためのスペクトル解析法(第 2 版)／M. Hesse, H. Meier, B. Zeeh:化学同人, 2010</p>
<p><b>参照ホームページ Websites</b></p>
<p><b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b></p>
<p><b>備考 Additional Information</b></p> <p>本講義は「Protein Data Bank からの標的生体分子の構造のダウンロードおよび表示」、「標的生体分子と医薬品および類似化合物との相互作用のシミュレーション」、「標的生体分子との相互作用のシミュレーションに基づいた新規薬剤の設計」といったコアカリキュラム以外の独自性に高い内容を含みます。</p>

科目名 Course Title	有機化学問題演習[Exercise of Organic Chemistry]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	島川 典 [SHIMAKAWA Tsukasa] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025085
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	演習	対象年次 Year of Eligible Student	3～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬科学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3380		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 化学系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	8 化学系演習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	反応機構、有機電子論、論文購読、プレゼンテーション		
授業の目標 Course Objectives	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習問題を通して、これまで学んできた有機化学の講義内容に関する俯瞰的視野を得る。</li> <li>・主な有機反応の機構を矢印を用い説明する。</li> <li>・少数のグループ単位による論文購読を行い、有機合成化学の最近の進歩に関するプレゼンテーションを行う。</li> </ul>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な有機反応(置換, 付加, 脱離, 転位)の特徴を概説できる。</li> <li>2. 有機反応を, 電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。</li> <li>3. 代表的な炭素-炭素結合生成反応について概説できる。</li> <li>4. 代表的な位置選択的反応を列挙し, その機構と応用例について説明できる。</li> <li>5. 代表的な立体選択的反応を列挙し, その機構と応用例について説明できる。</li> <li>6. 官能基毎に代表的な保護基を列挙し, その応用例を説明できる。</li> <li>7. 最近の有機合成化学分野(高選択的反応開発, 天然物合成)の論文購読を行い, 内容を説明できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 反応機構・官能基変換:カルボニル1</li> <li>2. 反応機構・官能基変換:カルボニル2</li> <li>3. 反応機構・官能基変換:アルケン・アルキン</li> <li>4. 反応機構・官能基変換:芳香族化合物の反応</li> <li>5. 反応機構・官能基変換:酸化・還元反応</li> <li>6. 反応機構・官能基変換:転位反応</li> <li>7. 総合問題1</li> <li>8. 総合問題2</li> <li>9. 総合問題3</li> <li>10. 総合演習(論文購読・文献検索 1)</li> <li>11. 総合演習(論文購読・文献検索 2)</li> <li>12. 総合演習(論文購読・文献検索 3)</li> <li>13. 総合演習(文献紹介 1)</li> <li>14. 総合演習(文献紹介 2)</li> <li>15. 総合演習(文献紹介 3)</li> </ol>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>授業は演習形式で行う。既に学んだ有機化学 I～V および有機合成化学演習等の内容が理解されていることを前提に進める。小テストは, 出席状況の把握に加え前回授業の理解度を確認するために実施する。従って, 演習の内容について毎回復習を行うこと。論文購読は 3～4 名のグループで指定された課題論文を購読し(必要に応じて文献検索を行い, 参考文献の購読も行う), パワーポイントファイルに概要をまとめ文献紹介で発表を行い, 全体で討論を行う。</p>		

<b>成績評価の基準と方法 Grading System</b> 授業回数 の 2/3 以上の出席を成績評価の条件とする。成績は小テスト，総合演習の内容によって決定する。
<b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b>
<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>
<b>テキスト・教科書 Textbooks</b>
<b>講義指定図書 Reading List</b> 有機化学演習／吉原正邦ら：三共出版，1993 演習で学ぶ有機反応機構／有機合成化学協会編：化学同人，2005 人名反応に学ぶ有機合成戦略／Kurtiら著，富岡清訳：化学同人，2006 大学院講義有機化学 II (第2版)／野依良治ら編：東京化学同人，2015
<b>参照ホームページ Websites</b>
<b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b>
<b>備考 Additional Information</b> 独自内容：論文購読 (3～4名のグループで指定された課題論文を講読し、必要に応じて文献検索を行う)。文献紹介(パワーポイントファイルに購読した論文の概要をまとめ発表を行い，全体で討論を行う)。

科目名 Course Title	先端生物科学実験法 I [Methods in Life Science I]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	米田 宏 [MAITA Hiroshi] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	永沼 達郎[NAGANUMA Tatsuro](薬学研究院), 大久保 直登[OKUBO Naoto](薬学研究院), 佐藤 悠介[SATO Yusuke](薬学研究院), 城島 啓佑[JOJIMA Keisuke](薬学研究院), 中川 真一[NAKAGAWA Shinichi](薬学研究院), 黒木 喜美子[KUROKI Kimiko](薬学研究院), 喜多 俊介[KITA Shunsuke](薬学研究院), 勝山 彬[KATSUYAMA Akira](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025086
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	演習	対象年次 Year of Eligible Student	3~
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬科学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3460		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 生物系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	6 先端生物科学実験法		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	3 条件付き可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	2 対面授業科目《一部遠隔》		
キーワード Key Words			
授業の目標 Course Objectives	<p>薬学部では、「生命を分子の言葉で理解する」ことを目標に、構造研究から行動研究まで、幅広い分野で研究が進められている。「先端生物科学実験法」では、様々な解析対象が、それぞれの目的に応じて、具体的にどのように取り扱われているのかについて、実際的な見地から解説する。「I」では、これまでの講義で学んできた各種生体物質の特性についての理解を踏まえて、これらを解析対象として取り扱うにあたっての具体的な方法論について学ぶと共に、その応用としての新薬探索法についての理解を深める。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>1: 各種生体物質の特性に応じた取り扱いについて説明できる  2: 各種生体物質の検出・単離法および活性測定法とその原理について説明できる  3: 各種生体物質の検出・活性測定に用いられる主要な機器について、その利用目的と測定原理について説明できる  4: 各種生命現象の主要な検出・測定・観察法について説明できる  5: それぞれの実験法の利点・限界・問題点について説明できる</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>1. 核酸の調製と解析(PCR、マイクロアレイ、次世代シーケンサー)  2. タンパク質の検出と解析1(サンプルの調製法・抗体を用いた検出・解析法)  3. タンパク質の検出と解析2(タンパク質間相互作用および翻訳後修飾の検出と解析)  4. タンパク質の検出と解析3(各種組み換え発現系・結晶化)  5. 脂質・糖質の調製と解析(抽出・検出・解析)  6. R の基礎  7. R を用いた統計解析  8. R を用いた階層クラスタリング解析  9. R を用いたグラフの作成  10. タンパク質結合分子・ペプチドの同定とその応用(細胞標的化リガンドの探索など)  11. 生体分子間相互作用の物理化学的解析法(SPR, ITC, DSC など)  12. 生体分子の構造解析  13. Structure Based Drug Design の実際と戦略  14. 各種公開データベースとその利用  15. 学習した実験法を含めた研究計画立案の実践</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	毎回の予習は配布される資料を用いて行うこと(30 分程度)。生化学 I・II、分子細胞学 I・II、分析化学 I・II、物理化学 I・		

<p>II、細胞生物学 I・II、薬剤学 I・II、薬理学 I・IIなどで履修した内容の理解が不十分である場合は講義前にそれらの復習をしておくこと。 講義で配布されたプリントや講義ノートを活用して授業の復習すること(30分程度)。</p>
<p><b>成績評価の基準と方法 Grading System</b> 各回の授業参加態度(10%)、提出課題等に基づく採点(90%)を総合して評価する。10回以上の講義に出席することが成績評価の要件となる。</p>
<p><b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b></p>
<p><b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b> 他学部履修を希望するものは担当教員の承諾が必要</p>
<p><b>テキスト・教科書 Textbooks</b> 特に指定しない。</p>
<p><b>講義指定図書 Reading List</b> 各回ごとに教示する。</p>
<p><b>参照ホームページ Websites</b></p>
<p><b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b></p>
<p><b>備考 Additional Information</b> この独自科目では、各種生体物質の特性の理解を踏まえそれらを幅広い分野で解析対象として取り扱うにあたっての実際の・具体的な方法論について学ぶと共に、その応用としての新薬探索法についての理解を深める。</p>

科目名 Course Title	先端生物科学実験法Ⅱ [Methods in Life Science II]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	米田 宏 [MAITA Hiroshi] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	永沼 達郎[NAGANUMA Tatsuro](薬学研究院), 中田 一彰[NAKATA Kazuaki](薬学研究院), 多留 偉功[TARU Hidenori](薬学研究院), 家田 直弥[IEDA Naoya](薬学研究院), 佐藤 悠介[SATO Yusuke](薬学研究院), 天野 大樹[AMANO Taiju](薬学研究院), 山田 勇磨[YAMADA Yuma](薬学研究院), 木村 生[KIMURA Iku](薬学研究院), 城島 啓佑[JOJIMA Keisuke](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025087
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	演習	対象年次 Year of Eligible Student	3~
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬科学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3460		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 生物系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	6 先端生物科学実験法		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	3 条件付き可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words			
授業の目標 Course Objectives	<p>薬学部では、代謝制御から情動発現機構まで様々な生命現象の分子機構の解明を目指した研究が進められている。「先端生物科学実験法Ⅱ」では、こうした種々の生命現象の解析によく用いられているモデル系と方法論について概説するとともに、生体内での分子動態の各種解析法について解説する。「生きている」対象を利用して解析を進めていく上で留意すべき各種規制を含め、こうしたモデル生物の取り扱いについての理解を深めると共に、このようにして得られた知見を創薬・医療に活かしていく試みについて議論する。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>1: 生命現象の解析に頻用されている各種モデル生物の特徴について説明できる  2: 各種モデル系の利点・限界・問題点について説明できる  3: モデル生物等を用いた実験をおこなう上で留意すべき規制とその必要性について説明できる  4: 細胞・組織・個体などの生体内における分子動態の各種解析法について説明できる</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>1. 培養細胞の取り扱いとその利用1(株化細胞・初代培養細胞・遺伝子導入と発現抑制)  2. 培養細胞の取り扱いとその利用2(ES細胞・iPS細胞・遺伝子改変・分化と個体化)  3. モデル生物とその取り扱い1(遺伝子組み換え体, 病原性微生物等の取扱い・大腸菌・酵母・ウイルス)  4. モデル生物とその取り扱い2(線虫・ハエ・ツメガエル・ニワトリなど)  5. モデル生物とその取り扱い3(動物愛護管理法・マウス・ラット・サル)  6. 組織染色法とその応用(各種固定法・組織染色・免疫組織化学・ISH)  7. 各種顕微鏡の原理と蛍光イメージング法  8. フローサイトメトリーとその応用  9. 個体内分子動態の解析(コンパートメントモデル・PET)  10. 電気生理学的解析法とその応用  11. モデル動物の行動解析(行動遺伝学・行動薬理学)  12. 生体シグナルの計測  13. 生体機能の制御  14. ナノDDS技術とその応用例  15. 学習した実験法を含めた研究計画立案の実践</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	毎回の予習は配布される資料を用いて行うこと(30分程度)。生化学Ⅰ・Ⅱ、分子細胞学Ⅰ・Ⅱ、分析化学Ⅰ・Ⅱ、物理化学Ⅰ・		

<p>Ⅱ、細胞生物学Ⅰ・Ⅱ、薬剤学Ⅰ・Ⅱ、薬理学Ⅰ・Ⅱなどで履修した内容の理解が不十分である場合は講義前にそれらの復習をしておくこと。</p> <p>講義で配布されたプリントや講義ノートを活用して授業の復習すること(30分程度)。</p>
<p><b>成績評価の基準と方法 Grading System</b></p> <p>各回の授業参加態度(10%)、提出課題等に基づく採点(90%)を総合して評価する。10回以上の講義に出席することが成績評価の要件となる。</p>
<p><b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b></p>
<p><b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b></p> <p>他学部履修を希望するものは担当教員の承諾が必要</p>
<p><b>テキスト・教科書 Textbooks</b></p> <p>特に指定しない。</p>
<p><b>講義指定図書 Reading List</b></p> <p>各回ごとに教示する。</p>
<p><b>参照ホームページ Websites</b></p>
<p><b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b></p>
<p><b>備考 Additional Information</b></p> <p>この独自科目では、種々の生命現象の解析に用いられるモデル生物の取り扱いと方法論について学ぶとともに生体内での分子動態の各種解析法についての知識を修得し、創薬・医療に活かしていく試みについて理解を深める。</p>

科目名 Course Title	有機合成化学演習 I [Synthetic Organic Chemistry I]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	佐藤 美洋 [SATO Yoshihiro] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025088
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	演習	対象年次 Year of Eligible Student	3～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬科学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3380		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 化学系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	8 化学系演習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	3 条件付き可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	2 対面授業科目《一部遠隔》		
キーワード Key Words	ヘテロ重原子, HSAB, Umpolung, 典型金属, 遷移金属, 有機金属化学		
授業の目標 Course Objectives	生物活性化合物や機能性分子などの様々な化合物を実際に合成するためには、これまでの「有機化学」の授業で学んだ知識を土台に、更に幅広い知識が要求される。この演習では、ヘテロ重原子、典型金属、遷移金属などの電子配置、電子密度、化学結合の性質などに関する基本的知識を修得する。また、医薬品を含む目的化合物を合成するために、これらの元素が実際にどのように利用されているかを系統だてて理解するとともに、代表的な炭素骨格の構築法などに関する基本的知識、技能、態度を修得する。		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。</li> <li>2. 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。</li> <li>3. リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の構造と化学的性質を説明できる。</li> <li>4. ホウ素およびケイ素を含む化合物の反応性を説明でき、それらの化合物が関与する代表的な反応を列挙できる。</li> <li>5. 遷移金属錯体によって進行する代表的な反応を列挙し、その反応機構を「素反応」に基づき説明できる。</li> <li>6. 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヘテロ重原子の基本的性質(d-軌道、軌道の形、P<math>\pi</math>-d<math>\pi</math> 共役)</li> <li>2. S(イオウ)の関わる反応(スルフィド、スルフォキシドを利用した反応)</li> <li>3. Hard and Soft Acid and Base(HSAB 則)</li> <li>4. Umpolung(極性転換)</li> <li>5. P(リン)の関わる反応(イリド、Wittig 反応)</li> <li>6. B(ホウ素)の関わる反応(Hydroboration)</li> <li>7. Si(ケイ素)の関わる反応 I (<math>\alpha</math>-効果)</li> <li>8. Si(ケイ素)の関わる反応 II (<math>\beta</math>-効果)</li> <li>9. Sn(スズ)の関わる反応</li> <li>10. 有機金属錯体化学の基礎 I (配位子と錯体の電子状態)</li> <li>11. 有機金属錯体化学の基礎 II (酸化付加、還元脱離、挿入反応、<math>\beta</math>-脱離、トランスメタリゼーションなどの素反応)</li> <li>12. Pd(パラジウム)の化学 I (0 価 Pd 錯体の関与する反応)</li> <li>13. Pd(パラジウム)の化学 II (2 価 Pd 錯体の関与する反応)</li> <li>14. 有機合成化学への応用 I</li> <li>15. 有機合成化学への応用 II</li> </ol>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	予習及び復習は教科書、講義ノート、及び参考資料として適宜配布するプリントを活用して行うこと。		

<p><b>成績評価の基準と方法 Grading System</b></p> <p>授業回数の 2/3 以上出席した者について、授業の参加態度(10%)および学期末試験(90%)によって評価する。          なお、学期末試験の不合格者で授業に 2/3 以上出席した者を対象に再試験を行う。</p>
<p><b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b></p>
<p><b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b></p> <p>本講義は「アドバンスドな有機化学」であるため、理系学部で基本的な有機化学の講義を受講済の学生のみ受講を認める。なお、履修を希望するものは担当教員の内諾を必要とする。</p>
<p><b>テキスト・教科書 Textbooks</b></p> <p>ウォーレン有機化学 下(第2版) / Paula Y. Bruice 他: 東京化学同人, 2015</p>
<p><b>講義指定図書 Reading List</b></p> <p>大学院講義 有機化学 I / 野依良治(編集): 東京化学同人, 2019          大学院講義 有機化学 II / 野依良治(編集): 東京化学同人, 2015          遷移金属による有機合成(第3版) / ヘゲダス: 東京化学同人, 2011          有機合成のための遷移金属触媒反応 / 辻二郎: 東京化学同人, 2008</p>
<p><b>参照ホームページ Websites</b></p>
<p><b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b></p> <p><a href="https://hokudaigouka.main.jp">https://hokudaigouka.main.jp</a></p>
<p><b>備考 Additional Information</b></p> <p>本演習は、主な受講対象を有機系研究室所属の3年生とし、これまで学習してきた有機化学の知識の上に、代表的な元素化学と有機金属化学の最新の知識を身につけることを目的として設定されたものである。          従って、本演習は「薬学教育モデル・コア・カリキュラム(2022年版)」に準拠していない、独自の内容となっている。</p>

科目名 Course Title	有機合成化学演習 II [Synthetic Organic Chemistry II]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	長友 優典 [NAGATOMO Masanori] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025089
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	演習	対象年次 Year of Eligible Student	3～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬科学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3380		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 化学系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	8 化学系演習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
<b>キーワード Key Words</b>	位置選択性, 官能基選択性, 立体選択性, 不斉反応, 光学活性体		
<b>授業の目標 Course Objectives</b>	<p>薬学部における有機合成化学は、創薬研究の根底を支える極めて重要な学問領域である。有機合成を実践の場で活用するためには、多種多様な化学反応の特性を深く洞察するだけでなく、それらを論理的に組み合わせた合理的な合成計画(レトロシンスェンを含む)を立案する能力が求められる。</p> <p>近年の有機化学の進展は目覚ましく、こうした高度な要求に応えるためには、従来の学部レベルを超えた最新の知識と理論的背景の理解が不可欠となっている。</p> <p>本講義では、合成化学において特に重要視される「炭素-炭素結合形成反応」を取り上げ、その最新の進歩について概説する。特に、複雑な分子構築において鍵となる「立体選択性」の発現機構について、最新の理論や様々なアプローチを学習し、高度な合成戦略を立案するための基盤を構築する。</p>		
<b>到達目標 Course Goals</b>	<p>本講義では以下の応用力を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. エノラートのアルキル化について説明できる。</li> <li>2. エノラートの生成における選択性について説明できる。</li> <li>3. アルドール反応の立体化学を説明できる</li> <li>4. Claisen 縮合について説明できる。</li> <li>5. Felkin-Anh モデルについて説明できる。</li> <li>6. キレーションモデルについて説明できる。</li> <li>7. 半イス形配座に基づいた立体選択性発現について説明できる。</li> <li>8. アリルひずみに基づいた立体選択性発現について説明できる。</li> <li>9. 環状化合物の立体選択性発現について説明できる。</li> <li>10. アノマー効果について説明できる。</li> <li>11. Thorp-Ingold 効果について説明できる。</li> <li>12. Baldwin 則について説明できる。</li> <li>13. 光学活性化合物を得るための代表的な手法(光学分割, 不斉合成など)を説明できる。</li> <li>14. 標的化合物の合成法を提案できる。</li> </ol>		
<b>授業計画 Course Schedule</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. エノラートのアルキル化(1): エノラートの生成と強塩基, 速度論支配と熱力学支配</li> <li>2. エノラートのアルキル化(2): 位置選択性, 立体化学</li> <li>3. エノラートのアルキル化(3): エノラート等価体</li> <li>4. アルドール反応</li> <li>5. Claisen 縮合</li> <li>6. 前半部のまとめと演習(1)</li> </ol>		

7. ジアステレオ選択的反応(1): Felkin-Anh モデル
8. ジアステレオ選択的反応(2): キレーションモデル、アリルひずみ
9. ジアステレオ選択的反応(3): 半イス形配座
10. ジアステレオ選択的反応(4): 環状化合物
11. ジアステレオ選択的反応(5): 二環式化合物
12. アノマー効果、Thorp-Ingold 効果、Baldwin 則
13. 不斉合成(1): 光学分割、キラルプール、不斉補助基
14. 不斉合成(2): 触媒的不斉合成
15. まとめ および総合演習

#### 準備学習 (予習・復習)等の内容と分量 Homework

本講義の範囲は、『ウォーレン有機化学 第2版』の第25、26、31、32、33、および41章である。受講生は各自のペースで計画的に予習を行い、該当する章を通読しておくこと。各講義後には、配布プリントを活用して徹底的な復習を行い、課された課題(宿題)を完遂すること。これらの章で扱う「エノラートの化学」や「立体選択的反応」、「合成計画」は、創薬化学を理解する上で不可欠な要素である。教科書の精読と演習の反復により、高度な有機化学反応を論理的に考察できる能力を養うことが強く求められる。

#### 成績評価の基準と方法 Grading System

以下の配分に基づき、総合的に評価する。

課題提出状況および小テスト: 10%

中間テスト(演習)2回: 50%(各25% × 2回)

定期試験: 40%

【重要】本講義では、原則として再試験は実施しない。日々の課題および中間テストを含め、計画的に学習に取り組むこと。

#### 有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes

#### 他学部履修の条件 Other Faculty Requirements

#### テキスト・教科書 Textbooks

ウォーレン／有機化学(上) 第2版/S. Warren[ほか]著; 野依良治[ほか]訳: 東京化学同人, 2015

ウォーレン／有機化学(下) 第2版/S. Warren[ほか]著; 野依良治[ほか]訳: 東京化学同人, 2015

適宜プリントを配付する。25、26、31、32、33、および41章が講義範囲である

#### 講義指定図書 Reading List

ウォーレン／有機化学(上・下) / S. Warren[ほか]著; 野依良治[ほか]訳: 東京化学同人, 2003

ウォーレン第2版／有機化学(上・下) / S. Warren[ほか]著; 野依良治[ほか]訳: 東京化学同人

ウォーレン有機合成 : 逆合成からのアプローチ / Stuart Warren, Paul Wyatt 著; 柴崎正勝, 橋本俊一監訳: 東京化学同人, 2014

天然有機化合物の合成戦略 / 鈴木啓介: 岩波書店, 2007

有機合成の戦略—逆合成のノウハウ / C. L. ウィリス, M. ウィリス著; 富岡清訳: 化学同人, 1998

最新有機合成法(第2版) 設計と戦略 / G.S.Zweifel 著 M.H.Nantz 著 Peter Somfai 著 檜山 爲次郎 訳: 化学同人, 2018

#### 参照ホームページ Websites

#### 研究室のホームページ Websites of Laboratory

[https://www.pharm.hokudai.ac.jp/tengo\\_105/](https://www.pharm.hokudai.ac.jp/tengo_105/)

#### 備考 Additional Information

本講義は、既習の「有機化学 I ~ V」の内容を十分に理解していることを前提に進行する。各自、未習得または理解が不十分な箇所がある場合は、速やかに自習して補っておくこと。

知識の確実な定着を促すため、計2回の中間テストおよび期末テストを実施する。また、全体の習熟度に応じて、必要があれば追加演習の場を設ける。受講生には、予習・復習のために十分な学習時間を確保することが強く求められる。

【独自カリキュラムの性質について】本講義の内容は、原則として全てモデル・コア・カリキュラム(コアカリ)の範囲を超えた独自の発展的内容である。適宜、コアカリ範囲である「有機化学 I ~ V」の基礎を復習しつつ解説を行うが、本講義の真の目的は、最先端の有機合成化学研究を実践するための強固な理論的基盤を構築することにある。

科目名 Course Title	認定MR演習/認定CRC演習[Practice of MR(Medical Representative)/CRC(Clinical Research Coordinator) specialty]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	小林 正紀 [KOBAYASHI Masaki] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025079
期間 Semester	2学期(冬ターム)	単位数 Number of Credits	0.3
授業形態 Type of Class	演習	対象年次 Year of Eligible Student	4～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3730		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	7 実務実習事前学習		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	3 認定MR演習/認定CRC演習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	1 該当する		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	2 対面授業科目《一部遠隔》		
キーワード Key Words	臨床治験、医薬品開発、ヘルシンキ宣言、インフォームド・コンセント		
授業の目標 Course Objectives	<p>・医薬品開発において治験がどのように行われるかを理解するために、治験に関する基本的知識とそれを実施する上で求められる適切な態度を修得する。</p> <p>・医薬品開発、薬剤疫学、薬剤経済学などの領域において、プロトコル立案、データ解析、および評価に必要な統計学の基本的知識とそれを応用する能力を修得する。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>1)治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。</p> <p>2)医薬品開発および創薬における治験の役割を説明できる</p> <p>3)治験(第I、II、およびIII相)の内容を説明できる。</p> <p>4)公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。</p> <p>5)治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議できる。</p> <p>6)治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。</p> <p>7)治験における薬剤師の役割(治験薬管理者など)を説明できる。</p> <p>8)治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。</p> <p>9)治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。</p> <p>10)インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議できる。</p> <p>11)臨床試験の代表的な研究デザイン(症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験)の特色を説明できる。</p> <p>12)MR業務に必要な基本的知識(疾病と治療、薬剤学、薬理学、倫理、流通、法制度、市販後調査)を概説できる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>1. MR業務に必要な基本的知識 疾病と治療、薬剤学、薬理学、倫理、流通、法制度、市販後調査</p> <p>2. CRC業務に必要な基本的知識 医薬品の開発と臨床試験、臨床試験に必要な体制、臨床試験の進め方、CRCの役割</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>特に予習のためのテキストは指定しないが、「臨床治験」に関する予備知識を各自学習しておくこと。</p> <p>復習は配布されたプリント等の資料をより深く勉強すること。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>各担当者の講義形式ですすめ、各講義毎に課題レポートの提出を求める。</p> <p>授業回数の4/5以上出席した者について、(1)授業への参加態度(10%)、(2)学期末レポートの内容(90%)を総合して、到達目標</p>		

の達成度を評価する。
<b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b> 病院薬剤部において薬剤師経験を有する教員が、講義をコーディネートする。
<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>
<b>テキスト・教科書 Textbooks</b>
<b>講義指定図書 Reading List</b>
<b>参照ホームページ Websites</b>
<b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b>
<p><b>備考 Additional Information</b>  コアカリキュラムの対応項目：  A_1),4),10)  B-1-1(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7)  B-1-2(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7)  B-2-1(4),(5)  B-4-1(1),(2),(3),(4),(5)  B-4-2(1),(2),(3),(4),(6),(7),(8)  B-4-3(1),(2),(3)  D-3-1(1),(2)  D-3-3(2)  D-3-5(1),(3),(4)  F-1-1(1),(2)  F-3-2(3),(5),(6)</p> <p>コア・カリキュラム以外の独自の内容：  外部講師（製薬企業・病院）による最新の社会情勢や情報を盛り込んだ講義を実施している点</p> <p>再試験は行わない。</p>

科目名 Course Title	OSCE 対応演習[Practice for OSCE]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	鳴海 克哉 [NARUMI Katsuya] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	柏木 仁[KASHIWAGI Hitoshi](薬学研究院), 佐藤 夕紀[SATO Yuki](薬学研究院), 岡本 敬介[OKAMOTO Keisuke](薬学研究院), 加藤 いづみ[KATO Izumi](薬学研究院), 前原 経 [MAEHARA Osamu](薬学研究院), 梨本 俊亮[NASHIMOTO Shunsuke](薬学研究院), 柘植 厚志[TSUGE Atsushi](薬学研究院), 上田 一奈太[UEDA Hinata](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025005
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	演習	対象年次 Year of Eligible Student	4～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3720		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	7 実務実習事前学習		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 OSCE 対応演習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	1 該当する		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	客観的臨床能力試験(OSCE)		
授業の目標 Course Objectives	薬学生が「臨床実習に参加する上で一定の能力を有する事を社会に保証する」ために行われる共用試験の一つである OSCE (Objective Structured Clinical Examination) に臨むにあたり必要な技能・態度を修得する。		
到達目標 Course Goals	<p>1. OSCE の目的・必要性やその方法・評価項目を理解し、説明できる。</p> <p>2. OSCE に臨むにあたり、制限時間内に必要な接遇(医療面接)、基本的調剤および調剤薬監査、注射薬混合などができる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>1. オリエンテーション OSCE の目的や実施方法などを講義形式で解説する。</p> <p>2. 実習及びロールプレイ OSCE において予想される課題(医療面接、錠剤・散剤・水剤の調剤、軟膏の混合、注射薬混合、手洗い、調剤薬監査など)を実習またはロールプレイ形式で行い、相互に評価し問題点や解決方法を討論する。</p> <p>1日90分x3コマを1項目として以下の5項目を5日間で実施する。学生は5グループに分かれて、5日間ですべての項目を履修する。</p> <p>実施項目</p> <p>①計量調剤(軟膏の混合、水剤の調剤)</p> <p>②計量調剤(散剤の秤量・調剤), 計数調剤(錠剤, 点眼剤など)</p> <p>③手洗い, ガウンの着脱, 注射剤の無菌的混合調製</p> <p>④医療面接(薬局での初回面談・薬剤交付時の服薬指導, 病棟での初回面談・服薬指導, 一般用医薬品の情報提供, 医療従事者への情報提供)</p> <p>⑤調剤薬監査, 疑義照会, 在宅(服薬状況の確認), 持参薬チェック</p> <p>なお、当年実施される OSCE の実施課題範囲を踏まえ、内容は適宜変更する場合がある。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework			

1 週間の集中演習で行う。予め、実務実習事前実習で教示された注意点や実技の手順等を復習しておくこと。
<b>成績評価の基準と方法 Grading System</b> 総時間数の 4/5 以上の出席を持って単位認定の評価対象とし、OSCE 形式の試験により可否を評価する。
<b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b> 病院薬剤部等において薬剤師経験を有する教員が、実務経験に基づき演習を行う。
<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>
<b>テキスト・教科書 Textbooks</b> 新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 下 調剤業務の基本[技能]第 4 版／【監修】上村直樹、武田泰生 【編集】下平秀夫、鹿村恵明、根岸健一：羊土社、2025 実務実習事前実習時に配布した資料(薬学共用試験 OSCE 学習・評価項目および医薬品リスト等)を参照のこと。
<b>講義指定図書 Reading List</b>
<b>参照ホームページ Websites</b>
<b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b>
<b>備考 Additional Information</b> 1 週間の集中開講 OSCE に準ずる身だしなみを整えて臨むこと。なお、最終日は OSCE 本番と同様の身だしなみとする。  コアカリキュラムの対応項目： A_1),2),7),8),9),10) B-1-1(1),(2),(8) B-1-2(6),(7) B-2-1(1),(3),(4),(5) B-2-2(1) D-6-1(1),(2),(3),(4),(5),(6) F-1-1(1),(5),(6),(16) F-2-1(9),(10) F-3-4(1),(2) F-5-1(1),(2),(7)

科目名 Course Title	臨床薬学事前演習[Pre-Practice for Clinical Pharmacy Practice]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	柏木 仁 [KASHIWAGI Hitoshi] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	加藤 いづみ[KATO Izumi](薬学研究院), 小林 正紀[KOBAYASHI Masaki](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025006
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	演習	対象年次 Year of Eligible Student	4～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3710		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	7 実務実習事前学習		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 臨床薬学事前演習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	1 該当する		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	共用試験、CBT、在宅医療、災害時医療、多職種連携		
授業の目標 Course Objectives	実務実習に向け、これまで学んできた薬学関連科目の全項目を網羅的に復習する。 在宅医療・災害時医療における薬剤師の役割を総合的に学習する。		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実務実習に必要とされる基礎知識について説明できる。</li> <li>2. 在宅医療の現状と薬剤師の役割を説明できる。</li> <li>3. 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。</li> <li>4. 災害時医療における薬剤師の役割とその重要性について説明できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現状把握のための実力テスト</li> <li>2. ゾーン1・物理系薬学</li> <li>3. ゾーン1・化学系薬学</li> <li>4. ゾーン1・生物系薬学</li> <li>5. 実力テスト(ゾーン1)</li> <li>6. ゾーン2・薬と疾病Ⅰ</li> <li>7. ゾーン2・薬と疾病Ⅱ</li> <li>8. ゾーン2・薬と疾病Ⅲ</li> <li>9. 実力テスト(ゾーン2)</li> <li>10. ゾーン3・ヒューマニズム／イントロダクション、薬学と社会、実務実習事前学習</li> <li>11. ゾーン3・健康と環境</li> <li>12. 模擬試験(全ゾーン)</li> <li>13. 実力テスト(最終・全ゾーン)</li> <li>14. 在宅医療における薬剤師の役割および他職種との連携(講義)</li> <li>15. 災害時医療における薬剤師の役割および他学部との合同講義(講義・討論)</li> </ol>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	時間内で網羅できなかった分は、各自時間を設けて学習する必要がある。		
成績評価の基準と方法 Grading System	授業回数の 2/3 以上出席かつ最終実力テストの結果 60%以上正解した者について、参加態度(30%)、初回を除く実力テストの成績の平均(70%)によって評価する。		
有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes	在宅医療、災害時医療に関して実際の現場に携わる講師を招き、在宅医療や災害時医療における薬剤師の役割について講		

義を行う。

### 他学部履修の条件 Other Faculty Requirements

#### テキスト・教科書 Textbooks

コアカリ・マスター Vol.1「物理系薬学、化学系薬学、生物系薬学」[改訂第9版]:薬学ゼミナール, 2024

コアカリ・マスター Vol.2「医療薬学」[改訂第9版]:薬学ゼミナール, 2024

コアカリ・マスター Vol.3「基本事項、薬学と社会、衛生薬学、薬学臨床」[改訂第9版]:薬学ゼミナール, 2024

コアカリ・マスターは最新版を使用する。

(2,3年おきの年度明け頃に改訂版が発行される)

#### 講義指定図書 Reading List

#### 参照ホームページ Websites

#### 研究室のホームページ Websites of Laboratory

#### 備考 Additional Information

合格基準に達しない場合は再試験を最終実力テストの翌週に行う。

コアカリキュラムの対応項目 A\_4),7),10)B-1-1(3,5,6)B-1-2(1,6,8,9)B-1-3(3,4)B-2-1(1)B-2-2(1,2)B-3-1(1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11)B-3-2(1,2,3,4,5,6)B-3-3(1,4,7)B-4-1(2,4,5)B-4-2(1,2,4)B-4-3(2)B-4-4B-5-1(1)C-1-1C-1-2C-1-3(1,2,3,4,5,6,7,8,9,12,13,14)C-1-4C-2-1(1)C-2-2(1,2,3,4,5,6,7,8)C-2-3 C-2-4(1,2,3,4,5,6)C-2-5(1,2,3)C-2-6(1,2,3)C-2-8(6)C-3-1C-3-2(1,2)C-3-3C-3-4(1,2,3)C-3-5(1,2,3)C-4-1(1,2,3)C-4-2(1,2,3,4)C-4-3(3)C-4-4(1,2,3,4)C-4-5(1,2,3,4,5,6,7,8)C-5-1(1,2)C-5-2(2)C-6-1C-6-2C-6-3(1,2,3,5,8,9)C-6-4C-6-5(1,2,3,4,5,6,7,8,10,11,12)C-6-6C-6-7C-7-1(2)C-7-2C-7-3(1,2,3)C-7-5(2)C-7-6(3)C-7-7C-7-8C-7-9(1,2,3,4,5,6,7) C-7-10C-7-11(1,3)C-7-12C-7-13(1,2,3)C-7-14(1,3)C-7-15(2,3)D-1-1(1,2,3,4,5)D-1-2(3)D-1-3(1)D-2-1(2)D-2-2(1,2)D-2-3(1)D-2-4(1,2)D-2-5 D-2-6(1,2,3,5)D-2-7D-2-8(1,2)D-2-9(1,2)D-2-10D-2-11(1,3)D-2-12(1,2)D-2-13(1,2)D-2-14(1,2)D-2-15(1,3,4,5)D-2-16(1,2,3)D-2-17(1,2)D-2-18(2)D-2-20(1,2,3)D-3-2(1,2,3)D-4-1(1,2,3)D-4-2(1,5)D-5-1D-5-2(1,2,3,4)E-1-2(1)E-3-1(1)F-3-4(2)F-4-2(5)(6)

科目名 Course Title	医療情報解析演習[Practice of Medical Information Analysis]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	小林 正紀 [KOBAYASHI Masaki] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	岡本 敬介[OKAMOTO Keisuke](薬学研究院), 柏木 仁[KASHIWAGI Hitoshi](薬学研究院), 佐藤 夕紀[SATO Yuki](薬学研究院), 梨本 俊亮[NASHIMOTO Shunsuke](薬学研究院), 上田 一奈太[UEDA Hinata](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025080
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	演習	対象年次 Year of Eligible Student	4～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3740		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	7 実務実習事前学習		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	4 医療情報解析演習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	1 該当する		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	医薬品情報、薬害、統計、医薬品情報の評価、批判的吟味、薬物血中濃度、個別化医療、治療薬物モニタリング(TDM)		
授業の目標 Course Objectives	多種多様な医療情報を収集・整理して、専門的・科学的に評価し、医療チームや第三者に伝達、提供する方法を修得する。		
到達目標 Course Goals	<p>(1)過去に発生した薬害から、医薬品情報の重要性を説明できる。</p> <p>(2)医薬品に関する情報を収集・加工・提供できる。</p> <p>(3)臨床研究の論文について、その研究デザイン、統計解析の手法と妥当性を評価、解析することができる。</p> <p>(4)個々の患者に応じた投与計画を立案するために、薬効や副作用を体内の薬物動態から定量的に理解し、薬物動態の理論的解析をすることができる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>1. 過去に発生した薬害の検証(4コマ) 過去に発生した代表的な薬害について調査、発表し、発生要因や医薬品情報の重要性について討論する。</p> <p>2. 医薬品情報の収集・評価・加工・提供(16コマ) 能動的情報提供の一つであるDI(医薬品情報)ニュースを作成およびプレゼンテーションし、相互に評価する。 同種同効薬や一般用医薬品を薬効の強さ、副作用の発生頻度、患者の病態やニーズによって、最も適していると考えられる薬剤を選択する。 医療現場において実際に問合せのあった事例を中心に、その回答を作成し、提供方法をシミュレートする。 これらの作業を通じて、状況に応じて必要な医薬品情報を収集、評価、加工、提供する方法を習得する。</p> <p>3. 臨床研究論文の研究デザインおよび統計解析の評価(6コマ) 数多く存在する論文には相反する結果を示すものや、ときとして内容が偏向しているものがある。これらの論文を批判的吟味するために必要な統計学的な知識とそれを応用する能力を演習形式で習得する。さらに、実際に報告された臨床研究に関する論文を取り上げ、試験デザインの妥当性、患者の選択、データ解析(統計解析)の妥当性、結果の解釈におけるバイアスなどの観点から批判的吟味をする。</p> <p>4. 個別化投与のシミュレーション(TDM解析)(4コマ) 個々の患者に応じた投与計画を立案できるようになるために、薬物治療の個別化に関する基本的知識とそれを応用する能力を</p>		

修得する。与えられた血中濃度や臨床検査値から解析ソフトを利用して、投与計画を立案する。また、個々に立案した計画について、全体でその妥当性を討論する。

#### 準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework

インターネットによる文献・情報の検索ができるよう少なくともパソコンの操作は習熟しておくこと。臨床論文を授業で用いるときは事前に指示するので、各自読んでから参加すること。プレゼンテーションの作成などが演習時間外にも必要となる。

#### 成績評価の基準と方法 Grading System

2/3 以上の出席が必須。討論への参加姿勢(10%)、プレゼンテーション(50%)、レポート(小テスト含む)(40%)によって総合的に評価する。

#### 有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes

病院薬剤部において薬剤師経験を有する教員が、実務経験に基づき演習を行う。

#### 他学部履修の条件 Other Faculty Requirements

#### テキスト・教科書 Textbooks

適宜プリントを配布

#### 講義指定図書 Reading List

医薬品情報学 第4版／山崎幹夫 監：東京大学出版会，2016

医薬品情報・評価学 改訂第3版／河島 進・政田幹夫・松山賢治・内田享弘 編：南江堂，2011

実例で学ぶ 薬剤疫学の第一歩／くすりの適正使用協議会 著／藤田 利治 編著：レーダー出版センター(丸善出版事業部)，2008

#### 参照ホームページ Websites

#### 研究室のホームページ Websites of Laboratory

#### 備考 Additional Information

コアカリキュラムの対応項目：

A\_1),(2),(4),(6)

B-1-1(1),(2),(3),(4),(6),(7),(9)

B-1-2(1),(5)

B-1-3(6)

B-2-2(2)

B-3-1(10)

B-4-1(4)

B-4-2(1),(3),(5),(6),(7),(8)

D-1-3(2)

D-2-20(1)

D-3-2(1),(2),(3),(4),(5)

D-3-3(1),(2),(3),(4),(5)

D-3-4(1),(2),(3),(5)

D-3-5(1)

D-4-1(4)

D-4-2(3)

F-1-1(1),(2),(5),(6),(13)

F-3-2(1),(2),(3),(5),(6)

F-4-1(4)

コア・カリキュラム以外の独自の内容：

臨床現場で実際に使用される TDM ソフトウェアを活用し、患者背景に応じた投与設計の立案を学習している点

再試験は行わない。

科目名 Course Title	臨床薬物動態解析演習[Practice of Clinical Pharmacokinetics]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	小林 正紀 [KOBAYASHI Masaki] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	鳴海 克哉[NARUMI Katsuya](薬学研究院), 加藤 いづみ[KATO Izumi](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025081
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	演習	対象年次 Year of Eligible Student	4~
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3750		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	7 実務実習事前学習		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	5 臨床薬物動態解析演習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	1 該当する		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	体内動態、薬物治療、相互作用、処方解析、処方立案		
授業の目標 Course Objectives	<p>1. 吸収、分布、代謝、排泄の過程に関する基本的知識とそれらを解析するための能力を修得する。</p> <p>2. 個々の患者に応じた投与計画を立案できるようになるために、薬物治療の個別化に関する基本的知識とそれを応用する能力を修得する。</p> <p>3. 神経系、循環器系、呼吸器系に作用する薬物に関する基本的知識を修得し、その作用を検出するための能力を身につける。</p> <p>4. 内分泌系、消化器系、腎、血液・造血器系、代謝系、炎症、アレルギーに作用する薬物に関する基本的知識を修得する。</p> <p>5. 細菌、ウイルスおよび悪性新生物に対する薬物治療の適正化を図るために、抗菌薬、抗悪性腫瘍薬などの体内動態に関する基本的知識を修得する。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>1. 薬物の代表的な投与方法(剤形、投与経路)を列挙し、その意義を説明できる。</p> <p>2. 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化を説明できる。</p> <p>3. 医薬品の臨床使用における剤形の選択理由が理解できる。</p> <p>4. 薬物の相互作用・有害作用を体系的に学ぶことで未知の副作用発現に対する予測やその対応策の考え方を理解できる。</p> <p>5. 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。</p> <p>6. 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。</p> <p>7. 代表的な心疾患治療薬を挙げ、薬理作用機序、主な副作用について説明できる。</p> <p>8. 代表的な呼吸器疾患治療薬を挙げ、薬理作用機序、主な副作用について説明できる。</p> <p>9. 代表的な消化器疾患治療薬を挙げ、薬理作用機序、主な副作用について説明できる。</p> <p>10. 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。</p> <p>11. 代表的な脂質異常症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。</p> <p>12. 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。</p> <p>13. 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。</p> <p>14. 副作用軽減のための対処法を説明できる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>1. 薬物動態の基礎知識確認(1)</p> <p>2. 薬物動態の基礎知識確認(2)</p> <p>3. 呼吸器疾患1: 薬剤調査(相互作用・注意点) SGD</p> <p>4. 呼吸器疾患2: 治療方法の決定・発表資料作成 SGD</p> <p>5. 呼吸器疾患3: プレゼンテーションと集合討論</p> <p>6. 呼吸器疾患4: 確認テスト</p> <p>7. 悪性腫瘍1: 薬剤調査(相互作用・注意点) SGD</p> <p>8. 悪性腫瘍2: 治療方法の決定・発表資料作成 SGD</p> <p>9. 悪性腫瘍3: プレゼンテーションと集合討論</p>		

<p>10.悪性腫瘍4:確認テスト</p> <p>11.感染症1:薬剤調査(相互作用・注意点)SGD</p> <p>12.感染症2:治療方法の決定・発表資料作成 SGD</p> <p>13.感染症3:プレゼンテーションと集合討論</p> <p>14.感染症4:確認テスト</p> <p>15.総合討論</p>
<p><b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b></p> <p>各講義で話題となるテーマについて、あらかじめこれまでの知識を自分なりに整理しておくことが望ましい。 グループワーク(Small Group Discussion:SGD)が中心となるので、配布された課題(症例)についての調査、プレゼンテーションのための準備が必要となる。</p>
<p><b>成績評価の基準と方法 Grading System</b></p> <p>授業回数の 4/5 以上出席した者について、授業への参加態度(10%)、各グループワークでのプレゼンテーション(30%)とレポート内容(60%)を総合して、到達目標の達成度を評価する。</p>
<p><b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b></p> <p>病院薬剤部において薬剤師経験を有する教員が、実務経験に基づき演習を行う。</p>
<p><b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b></p>
<p><b>テキスト・教科書 Textbooks</b></p>
<p><b>講義指定図書 Reading List</b></p> <p>新編 プログラム学習による病態と処方解析／井関健ほか:廣川書店, 2013 症例で身につける 臨床薬学ハンドブック改訂第2版／越前宏俊・鈴木孝:羊土社, 2014 症例から考える代表的な8疾患／京都府薬剤師会 編:じほう, 2017 やさしい臨床医学テキスト／大野、柴崎、平井、星、三木、山下:薬事日報社, 2008 シナリオ 症例解析ー医療の現場で今ー／高山 明(総編集):京都広川書店, 2009</p>
<p><b>参照ホームページ Websites</b></p>
<p><b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b></p>
<p><b>備考 Additional Information</b></p> <p>コアカリキュラムの対応項目:</p> <p>A_1),2),5),6),7),8),9)</p> <p>B-1-1(1),(2),(4)】</p> <p>B-1-2(1),(3),(4),(8)</p> <p>B-1-3(2),(6)</p> <p>B-2-1(1),(2),(4)</p> <p>B-2-2(2)</p> <p>B-4-2(8)</p> <p>B-5-3(3)</p> <p>D-1-2(1),(2),(3)</p> <p>D-1-3(1),(4)</p> <p>D-2-6(1),(5)</p> <p>D-2-12(1),(2)</p> <p>D-2-15(1),(2),(3),(4)</p> <p>D-2-16(1),(2),(3),(4)</p> <p>D-2-20(4)</p> <p>D-3-2(1),(2),(3),(4),(5)</p> <p>D-3-3(5),(6)</p> <p>D-3-4(3)</p> <p>D-3-5(1),(2),(3)</p> <p>D-4-1(1),(2),(3),(4)</p> <p>D-6-1(2)</p> <p>F-1-1(1),(2),(3),(4),(5),(6),(10),(11),(12),(13),(14),(15)</p> <p>F-2-1(1),(8),(10)</p> <p>F-3-1(2)</p> <p>F-3-2(2),(5),(6)</p> <p>F-5-1(1)</p> <p>コア・カリキュラム以外の独自の内容:</p>

代表的ながん種について、診療ガイドライン・患者背景に基づいた適切な治療レジメンの選択とその薬学的管理について学習する点

再試験は行わない。

科目名 Course Title	基礎実習[Basic Laboratory Exercise]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	多留 偉功 [TARU Hidenori] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	野村 尚生[NOMURA Takao](薬学研究院), 西岡 蒼一郎[NISHIOKA Soichiro](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025003
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	0.5
授業形態 Type of Class	実験・実習	対象年次 Year of Eligible Student	2～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 2000		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	2 学部専門科目(基礎的な内容の科目)、全学教育科目(語学上級、高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	0 概論		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 基礎実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words			
授業の目標 Course Objectives	基礎実習では、物理化学実習、分析化学実習、有機化学実習、生化学実習、衛生化学実習、薬理学実習、薬剤学実習、および、RI 実習の際に必要とされる試薬の計量法、溶液の調整法、基礎的な実験器具の操作法を身につけることを目的とする。		
到達目標 Course Goals	1: 各種薬学研究に必要な試薬の秤量および溶液類の調製ができる。 2: 各種薬学研究に必要な基本的な実験器具の操作ができる。 3: 各種薬学研究の際に得られる数値データを適切に解釈できる。		
授業計画 Course Schedule	[授業内容] 1. 実習についての説明後、安全ピペット基本操作法、試薬の秤量および溶液の作製法、ガラス器具の洗浄方法を習得する 2. 分光光度法の原理を理解し、光度計の操作法を習得し、実験データの解析・考察について学ぶ 3. 試料溶液の調整に汎用されるマイクロピペットの操作法を習得し、秤量に伴う誤差の評価・考察法を学ぶ 4. pH メーターの原理と使用法を理解し、調製した緩衝液の pH を調整する  [授業の進め方] 実習テキストに基づき実習を行う。2 日目から 5 日目は 20 人前後のグループに分かれ、授業内容 2-4 の内容を行う。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	予習として予め実習書の当該部分を読んでおくこと。		
成績評価の基準と方法 Grading System	原則として全日程への出席および全課題の終了を評価の前提とする。各実習項目ごとの実施状況から達成度を評価し、それらを総合して成績評価とする。		
有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	実習書		
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			

**備考 Additional Information**

コアカリキュラムとの対応:

A\_4,5)

C-2-1(1),(2),(3)

C-2-2(1)

C-2-4(1),(2)

科目名 Course Title	物理化学実習[Laboratory Exercise of Physical Chemistry]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	多留 偉功 [TARU Hidenori] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	鷺見 正人[SUMI Masato](薬学研究院), 木村 生[KIMURA Iku](薬学研究院), 永沼 達郎[NAGANUMA Tatsuro](薬学研究院), 天野 大樹[AMANO Taiju](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025063
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	実験・実習	対象年次 Year of Eligible Student	2~
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3200		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 物理・分析系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 物理・分析系実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
<b>キーワード Key Words</b>			
反応速度論, 熱力学, 表計算			
<b>授業の目標 Course Objectives</b>			
本実習は、反応速度論および熱力学の基礎を学び、今後の実験に役立つ理論を修得し、データに基づく理論的考察の能力を醸成することを目的とする。また実験数値データの適切な解析手法および提示方法について、表計算ソフト Excel を用いたコンピューター実習で体得する。このように、本実習は基礎的な実験操作やコンピューターの操作の修得、原理の理解にとどまらず、[データ解釈]→[理論や法則の推論]→[実験的検証]といった研究には欠かせないプロセスについても体験する。			
<b>到達目標 Course Goals</b>			
1:自由エネルギー変化の原理および溶解に伴うエンタルピー変化が実験的に求められる理由を理論的に説明できる。熱力学量の持つ意味について説明できる。			
2:薬物の溶解を考える上で欠かせない pH 依存性および pKa について、実験結果をもとに説明することができる。			
3:コンピューターを用いて、得られたデータを適切な手法を用いて解析し、提示することができる。			
<b>授業計画 Course Schedule</b>			
1:実習についての説明、及び試薬、器具等の準備。			
2:テオフィリンの溶解度を測定し、溶解度に関する熱力学パラメーターを求める。			
3:溶解度に対する pH の作用を測定し、溶解度測定に関わる因子の考察を通じて、熱力学的観点を身につける。			
4:表計算ソフト Excel の基礎的な使用方法を学習し、与えられたデータを最適な方法で解析する。また、グラフを作成して、適切なデータの提示方法を学ぶ。			
5:後片づけ。器具の片づけに加え、精密機器の片づけ方についても学ぶ。			
<b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b>			
実習は薬学部実習室にて、25人前後のグループで2~3人を一組で行う。予め実習書が手渡されるので、実習前に予習しておくこと効率がよく実験ができる。実習開始時に行う実験の原理を解説し、実験を行ってもらおう。実験結果、考察が得られた後、各担当教員と話し合い、実験の意味を理解する。			
<b>成績評価の基準と方法 Grading System</b>			
原則として全日程への出席と全課題の提出を評価の前提とする。実習への取り組み態度(20%)およびレポート等の提出物の内容(80%)を各実習項目ごとに評価し、それらを総合して成績評価とする。			
<b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b>			
<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>			
<b>テキスト・教科書 Textbooks</b>			
実習書			
<b>講義指定図書 Reading List</b>			

### 参照ホームページ Websites

### 研究室のホームページ Websites of Laboratory

### 備考 Additional Information

コアカリキュラムの対応項目:

A\_4,5)

C-1-3(1),(2),(3),(5),(6),(12),(13)

C-2-1(1),(2),(3)

C-2-2(1),(2),(3),(4),(5),(6),(8),(9)

C-2-4(1),(2)

参考書:

D.アイゼンバーグ、D.クロサズ共著／アイゼンバーグ・生命科学のための物理化学

Barrow,G.M.著／バーロ・生命化学のための物理科学／東京化学同人

小笠原正明著／新しい物理化学実験／三共出版

岩澤・北川・濱口訳／化学・生命科学系のための物理化学／東京化学同人

大島・半田／物性物理化学／南江堂

あらかじめ実習書や日本薬局方解説書などを熟読し、個々の操作についてどのように行うかを充分理解しておく必要がある。初日に行われる実習講義について十分に理解・復習することは、安全・確実に効率的な実習のために必要である。実験ノートを作成し、実験記録をもらさず日々記入し、他人が見ても容易に理解できるように整理しておく習慣を身に付ける。

科目名 Course Title	分析化学実習[Laboratory Exercise of Analytical Chemistry]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	多留 偉功 [TARU Hidenori] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	喜多 俊介[KITA Shunsuke](薬学研究院), 佐藤 悠介[SATO Yusuke](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025064
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	実験・実習	対象年次 Year of Eligible Student	2～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3200		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 物理・分析系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 物理・分析系実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	定量分析, 状態分析, 日本薬局方		
授業の目標 Course Objectives	<p>分析化学は、目的とする対象物に、どのような化合物が(定性分析)、どのぐらい(定量分析)、どのような状態(状態分析)で含まれているかを正確に明らかにするための方法論に関する学問である。本実習では、分析化学の講義で学んだ知識を基に、医薬品の定性・定量分析について学習をする。具体的には、代表的な日本薬局方収載医薬品の確認試験に基づいて医薬品の定性分析法を学び、高速液体クロマトグラフィーを利用する純度試験を体験することによって医薬品の定量分析法を習得する。さらに pH メーターの原理および緩衝液の作用に関する実験をふまえてその原理を学ぶ。</p>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分析試料や分析試薬の調製法、測容器具の使用法など、分析実験における基本的な操作ができる。</li> <li>2. 医薬品に含まれる有効成分を、その特性に基づいて確認することができる。</li> <li>3. 高速液体クロマトグラフィーの分離機構や検出法を説明でき、基本的な操作ができる。</li> <li>4. 分析結果を正しく解釈し、適切に表現することができる。</li> <li>5. 日本薬局方に収載されている代表的な定量法、確認試験および純度試験の目的、原理、操作法が説明できる。</li> <li>6. pH メーターの測定および緩衝液の作用の原理について実験をふまえて説明できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本薬局方の概説</li> <li>2. 医薬品の確認試験の概説</li> <li>3. pH メーター測定における緩衝液 pH とガラス電極電位の関係を検証する。また弱酸の滴定曲線を作成し、緩衝作用について検討する。</li> <li>4. 医薬品の確認試験を行なう(13 種類の局方収載薬品のうちから 3 種類を受け取り、どの医薬品かを明らかにする)</li> <li>5. 医薬品の純度試験を行なう(アセトアミノフェンに含まれる類縁物質の含量を求め、純度を明らかにする)</li> <li>6. 純度試験を継続する</li> <li>7. 使用器具、精密機器、薬品などの後片付け</li> </ol>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>概説を除き実習形式。予習として予め実習書の当該部分を読んでおくこと。日本薬局方一般試験法の「3. 液体クロマトグラフ法」を読み、HPLC 法の分離理論、装置、操作法、定量法、用語などについて学習しておく。また、確認試験においては、対象となる薬物の確認試験法、ならびに、水・エタノール中における溶解度について調べておく。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>原則として全日程への出席と全課題の提出を評価の前提とする。実習への取り組み態度(20%)およびレポート等の提出物の内容(80%)を各実習項目ごとに評価し、それらを総合して成績評価とする。</p>		
有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes			

<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>
<b>テキスト・教科書 Textbooks</b> 実習書
<b>講義指定図書 Reading List</b>
<b>参照ホームページ Websites</b>
<b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b>
<p><b>備考 Additional Information</b>          コアカリキュラムの対応項目：          A_4),5)          C-1-3(5),(13)          C-2-1(1),(2),(3)          C-2-2(1),(2),(3),(4),(5),(6),(8),(9)          C-2-3(1),(2),(3)          C-2-4(1),(2)          C-2-6(1),(2)</p> <p>参考書：          日本薬局方解説書(廣川書店), 分析化学 I (南江堂), 「定量分析化学 改訂版」(培風館), 「第 2 版 機器分析の手引き」(化学同人)</p> <p>あらかじめ実習書や日本薬局方解説書などを熟読し, 個々の操作についてどのように行うかを充分理解しておく必要がある。初日に行われる実習講義について十分に理解・復習することは, 安全・確実に効率的な実習のために必要である。実験ノートを作成し, 実験記録をもらさず日々記入し, 他人が見ても容易に理解できるように整理しておく習慣を身に付ける。</p>

科目名 Course Title	有機化学実習 I [Laboratory Exercise of Organic Chemistry I]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	松田 研一 [MATSUDA Kenichi] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	渡邊 瑞貴[WATANABE Mizuki](薬学研究院), 勝山 彬[KATSUYAMA Akira](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025065
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	実験・実習	対象年次 Year of Eligible Student	3～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3300		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 化学系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 有機化学実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	有機化学実験, 基本的操作, ガラス細工, 蒸留, 再結晶, 混融試験, 薄層クロマトグラフィー, レポート		
授業の目標 Course Objectives	本実習では、有機化学実験の基礎となる薬品・器具などの取り扱いや種々の基本操作を通して、化学実験の基礎概念を学ぶ。簡単な有機化合物を検体とし、抽出、蒸留、再結晶といった分離精製法と、融点、薄層クロマトグラフィーなどによる化合物同定法の理論と実践など、簡単な合成反応に必要な技術の修得を目的とする。		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 有機化学実験において行われる基本的な操作の意味を理解できる。</li> <li>2. 有機化学実験に用いる基本的な器具の名称, 用途, 安全な使用方法が説明できる。</li> <li>3. ガラス細工により簡単な器具(キャピラリー、融点測定管、押しつけ棒、攪拌棒)を作製できる。</li> <li>4. 分液抽出操作、蒸留、再結晶による化合物の分離精製ができ、その原理を説明できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、器具点検</li> <li>2. ガラス細工(ガラス細工用バーナーを用いて、融点測定管やキャピラリー等、実験に最小限必要な簡単なガラス器具を自ら作製する。)</li> <li>3. 常圧蒸留(低沸点化合物の蒸留によりその原理と操作法を学ぶ。)</li> <li>4. 混合物の分離(分液操作により混合物を分離し、それらを薄層クロマトグラフィーや混融試験により同定する)</li> </ol>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	実習を行う前に、実習書を熟読しておくこと。また、実習の開始時にその日に実際行うことについて、説明またはデモンストレーションする。		
成績評価の基準と方法 Grading System	日々の実習における各学生の実験に対する姿勢(予習を行い、実験操作を良く理解しているか)、実験ノート(実験で観察された結果を正確に記録しているか)、教員とのディスカッション(実験内容および結果を理解しているか)、およびレポート(実験記録)の内容から総合的に判断する。		
有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	基礎化学実験・有機化学実験共通の実習書を配布		

**講義指定図書 Reading List**

第7版 実験を安全に行うために:事故・災害防止編/化学同人編集部:化学同人, 2006

第3版 続 実験を安全に行うために:基本操作・基本測定編/化学同人編集部:化学同人, 2007

**参照ホームページ Websites****研究室のホームページ Websites of Laboratory****備考 Additional Information**

コアカリキュラムの対応項目:

A-4),(5),(6),8)

C-1-1(1),(2),(3),(4),(5),(6)

C-2-2(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7),(8),(9)

C-2-4(4)

C-2-5(2)

C-2-6(1),(2),(4)

C-3-1(1),(2),(3),(4),(5),(6)

C-3-3(1),(2),(4),(9)

C-3-4(2)

C-4-1(2)

G-1-1(2),(3)

G-2-2(1),(2),(5)

科目名 Course Title	有機化学実習 II [Laboratory Exercise of Organic Chemistry II]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	松田 研一 [MATSUDA Kenichi] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	渡邊 瑞貴[WATANABE Mizuki](薬学研究院), 勝山 彬[KATSUYAMA Akira](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025066
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	実験・実習	対象年次 Year of Eligible Student	3～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3300		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 化学系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 有機化学実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	有機化学実験, 基本的操作, ガラス細工, 蒸留, 再結晶, 混融試験, 薄層クロマトグラフィー, 合成反応, レポート		
授業の目標 Course Objectives	本実習では、有機化学実験の基礎となる薬品・器具などの取り扱いや種々の基本操作を通して、化学実験の基礎概念を学ぶ。簡単な有機化合物を検体とし、抽出、蒸留、再結晶といった分離精製法と、融点、薄層クロマトグラフィーなどによる化合物同定法の理論と実践など、簡単な合成反応に必要な技術の修得を目的とする。		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 有機化学実験において行われる基本的な操作の意味を理解できる。</li> <li>2. 有機化学実験に用いる基本的な器具の名称, 用途, 安全な使用法が説明できる。</li> <li>3. 簡単な合成反応を行い、目的物を単離・同定できる。</li> <li>4. 実験結果をまとめ、レポートを作成できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガラス細工(ガラス細工用バーナーを用いて、融点測定管やキャピラリー等、実験に最小限必要な簡単なガラス器具を自ら作製する。)</li> <li>2. 減圧蒸留(常圧では蒸留できない高沸点化合物を減圧蒸留する。)</li> <li>3. アルドール反応によるジベンジリデンアセトンの合成(基礎化学実習の総括として、自ら精製した試薬を用いて実際に合成反応を行う。生成物を単離精製し同定する。)</li> </ol>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	実習を行う前に、実習書を熟読しておくこと。また、実習の開始時にその日に実際行うことについて、説明またはデモンストレーションする。		
成績評価の基準と方法 Grading System	日々の実習における各学生の実験に対する姿勢(予習を行い、実験操作を良く理解しているか)、実験ノート(実験で観察された結果を正確に記録しているか)、教員とのディスカッション(実験内容および結果を理解しているか)、およびレポート(実験記録)の内容から総合的に判断する。		
有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	基礎化学実験・有機化学実験共通の実習書を配布		
講義指定図書 Reading List			

第7版 実験を安全に行うために:事故・災害防止編/化学同人編集部:化学同人, 2006

第3版 続 実験を安全に行うために:基本操作・基本測定編/化学同人編集部:化学同人, 2007

**参照ホームページ Websites**

**研究室のホームページ Websites of Laboratory**

**備考 Additional Information**

コアカリキュラムの対応項目:

A-4),(5),(6),(8)

C-1-1(1),(2),(3),(4),(5),(6)

C-2-2(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7),(8),(9)

C-2-4(4)

C-2-5(2)

C-2-6(1),(2),(4)

C-3-1(1),(2),(3),(4),(5),(6)

C-3-3(1),(2),(4),(9)

C-3-4(2)

C-4-1(2)

G-1-1(2),(3)

G-2-2(1),(2),(5)

科目名 Course Title	有機化学実習Ⅲ[Laboratory Exercise of Organic Chemistry III]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	吉村 彩 [YOSHIMURA Aya] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	大西 英博[ONISHI Yoshihiro](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025067
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	実験・実習	対象年次 Year of Eligible Student	3～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3300		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 化学系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 有機化学実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	天然有機化合物、単離、機器分析、化学変換、メントール		
授業の目標 Course Objectives	<p>・ 薬として用いられる動物・植物・鉱物由来の生薬の基本的性質を理解するために、それらの基原、性状、含有成分、生合成、品質評価、生産と流通、歴史的背景などについての基本的知識、およびそれらを活用するための基本的技能を習得する。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>1. 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。 2. 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>1. ハッカからの精油の抽出(精油定量器を用いた精油の抽出方法を学ぶ) 2. メントールの精製(順相クロマトグラフィーによる有機化合物の分離法を学ぶ) 3. メンチルアセテートの調製(アセチル化の方法を学ぶ) 4. メントンセミカルバゾンの調製(酸化、セミカルバゾンの調製方法を学ぶ) 5. メントールのスペクトルによる同定(有機化合物のスペクトルによる同定法を学ぶ)</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>効率的かつ安全な実験の実施のためには、実習書の精読を通じた実験手法および目的についての事前の理解が非常に重要である。実習書、および対応する教科書を用いた十分な予習が望ましい。また一般的な有機化学における実験操作を種々行うため、基礎的な実験手法に関して実習前に再度確認しておくことと良い。実習書、板書、実験ノート等を活用した復習も行うこと。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>実験に対する姿勢(よく考えて実験操作を行っているか、実験結果・観察結果を正確に記録しているか等)、口頭試問、レポートを総合的に判断して評価する。</p>		
有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			

**テキスト・教科書 Textbooks**

薬学部作成実習書

**講義指定図書 Reading List**

パートナー天然物化学(改訂第2版):南江堂, 2012

パートナー生薬学(改訂第2版):南江堂, 2012

有機化合物のスペクトルによる同定法(第7版):東京化学同人, 2006

有機化学のためのスペクトル解析法(第2版):化学同人, 2010

**参照ホームページ Websites****研究室のホームページ Websites of Laboratory****備考 Additional Information**

コアカリキュラムの対応項目:

A\_1),4),5),6),8)

C-1-1(1),(2),(3),(4),(5),(6)

C-1-2(2),(3)

C-1-3(1),(2),(3),(5),(6)

C-1-4(2),(3)

C-2-1(1),(2)

C-2-2(3),(4),(5)

C-2-4(2),(4),(5)

C-2-5(1),(2)

C-2-6(1),(2)

C-3-1(1),(2),(3),(4),(5),(6)

C-3-2(1),(2)

C-3-3(7),(9)

C-3-4(1),(2)

C-4-1(1),(2),(3),(4)

C-5-1(1)

C-5-2(1),(2),(3),(4)

科目名 Course Title	有機化学実習IV[Laboratory Exercise of Organic Chemistry IV]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	吉村 彩 [YOSHIMURA Aya] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	大西 英博[ONISHI Yoshihiro](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025068
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	実験・実習	対象年次 Year of Eligible Student	3～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3300		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 化学系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 有機化学実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	生薬、抽出、再結晶、UV 可視吸収スペクトル		
授業の目標 Course Objectives	<p>・ 医薬品開発における天然物の重要性和多様性を理解するために、自然界由来のシーズ(医薬品の種)および抗生物質などに関する基本的知識と技能を習得する。</p>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。</li> <li>2. 代表的な生薬を鑑別できる。</li> <li>3. 代表的な生薬の確認試験を実施できる。</li> <li>4. 代表的な生薬の純度試験を実施できる。</li> <li>5. 生薬の同定と品質評価法について概説できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 有機溶媒を用いた植物成分の抽出方法を学ぶ</li> <li>2. 沈殿や結晶化による有機化合物の精製法を学ぶ</li> </ol>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	前日に実習の目的と内容を予習し、各実験操作の意味を理解しておく。実習中は実験操作および結果を記録するとともに、次に行う操作や他の学生の実験の進行状況を考えながら安全に効率良く実験を進めるよう心がける。実験終了後に、その日の実験結果を客観的に実験ノートにまとめ、考察を加えるようにする。		
成績評価の基準と方法 Grading System	実験に対する姿勢(よく考えて実験操作を行っているか、実験結果・観察結果を正確に記録しているか等)、口頭試問、レポートを総合的に判断して評価する。		
有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	薬学部作成実習書		

**講義指定図書 Reading List**

パートナー天然物化学(改訂第2版):南江堂, 2012

パートナー生薬学(改訂第2版):南江堂, 2012

有機化合物のスペクトルによる同定法(第7版):東京化学同人, 2006

有機化学のためのスペクトル解析法(第2版):化学同人, 2010

**参照ホームページ Websites****研究室のホームページ Websites of Laboratory****備考 Additional Information**

コアカリキュラムの対応項目:

A-1),4),5),6),8)

C-1-1(1),(2),(3),(4),(5),(6)

C-1-2(2),(3)

C-1-3(1),(2),(3),(5),(6)

C-1-4(2),(3)

C-2-1(1),(2)

C-2-2(3),(4),(5)

C-2-4(2),(4),(5)

C-2-5(1),(2)

C-2-6(1),(2)

C-3-1(1),(2),(3),(4),(5),(6)

C-3-2(1),(2)

C-3-3(7),(9)

C-3-4(1),(2)

C-4-1(1),(2),(3),(4)

C-5-1(1)

C-5-2(1),(2),(3),(4)

科目名 Course Title	有機化学実習 V [Laboratory Exercise of Organic Chemistry V]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	浅野 圭佑 [ASANO Keisuke] (触媒科学研究所)		
担当教員 Other Instructors	森崎 一宏[MORISAKI Kazuhiro](薬学研究院), 山本 一貴[YAMAMOTO Kazuki](薬学研究院), 島川 典[SHIMAKAWA Tsukasa](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025069
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	実験・実習	対象年次 Year of Eligible Student	3~
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3300		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 化学系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 有機化学実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	カルボニル化合物、Grignard 反応、混合 Claisen 反応、求核置換反応、付加反応、分離・精製、構造決定、赤外分光、核磁気共鳴スペクトル		
授業の目標 Course Objectives	本実習では、有機化学反応を行う上で基本となる、反応操作から目的化合物の分離・精製を経て分子構造の確認に至るまでの一連の過程を体得する。本実習に含まれる反応を通して、同じカルボニル基を含むエステル、アルデヒドとケトンの反応性の相違、金属とハロゲン化合物の反応、有機金属化合物のカルボニル基への付加反応、ケトンエノラートの生成とエステルへの求核置換反応に対する理解を深めると同時に、官能基を保護することの重要性を認識する。また、有機化合物の構造解析に用いられる赤外分光光度計や核磁気共鳴スペクトルを含めたデータの解析法も修得する。		
到達目標 Course Goals	1: 各種合成反応を行い、分離・精製の過程を経て目的の化合物を効率的に得ることができる。 2: 反応機構を考慮した上で各実験操作の意味を理解し、関連する反応の実験計画立案に応用できる。 3: 代表的な炭素炭素結合形成反応について概説できる。 4: 代表的な炭素酸の pKa と反応性の関係を説明できる。 5: 赤外スペクトルの主要な吸収を説明し、試料化合物が持つ官能基を同定できる。 6: 核磁気共鳴スペクトルの概要を説明できる。 7: 融点、沸点、赤外スペクトル、核磁気共鳴スペクトルから総合的に判断し、得られた化合物の化学構造を推定できる。		
授業計画 Course Schedule	以下の一連の反応を、得られた有機化合物の精製・構造解析を含めそれぞれ2~3日程度で行う。実験結果等はレポートにまとめて提出する。 1: ケトンカルボニル基の保護(ケトンのアセタール化) アセト酢酸エチルのエチレングリコールによるアセタール化 2: Grignard 反応 臭化フェニルマグネシウムの調製ならびに上記生成物との反応 3: 混合 Claisen 反応とアルデヒドのアセタール化 アセトンとギ酸エチルとの混合 Claisen 反応および酸性条件下での生成物のジメチルアセタール化 また、実習最終日にディスカッションを行う。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	効率よく実験を遂行するためには一つ一つの反応や操作の意味を理解することが極めて重要である。したがって、必ず実験内容を予習して実習に臨んでもらいたい。予習として、実習書とそれに対応する教科書を読んで理解を深めておくこと。復習は、実習書、プリント、板書、実習ノートを活用して行うこと。		
成績評価の基準と方法 Grading System	実験に対する姿勢(良く考えて実験操作を行っているか、実験結果・観察結果をノートへ正確に記録しているか等)、ディスカッ		

<p>シヨンの結果, レポートの成績を総合的に判断して評価する。</p> <p><b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b></p>
<p><b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b></p>
<p><b>テキスト・教科書 Textbooks</b> 薬学部作成実習書</p>
<p><b>講義指定図書 Reading List</b> ブルース有機化学 第7版【上】/P.Y.Bruice 著, 大船泰史他監訳:化学同人, 2014 ブルース有機化学 第7版【下】/P.Y.Bruice 著, 大船泰史他監訳:化学同人, 2015 総合有機化学実験Ⅰ/S.Hunig 他著, 吉村壽次他訳:森北出版, 1985 総合有機化学実験Ⅱ/S.Hunig 他著, 吉村壽次他訳:森北出版, 1985 有機化合物のスペクトルによる同定法/R.M.Silverstein 他著, 荒木峻他訳:東京化学同人, 2006</p>
<p><b>参照ホームページ Websites</b></p>
<p><b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b></p>
<p><b>備考 Additional Information</b> 全員が同時に実験を行うので, マナーを守って積極的に取り組んで欲しい。実習が進むにつれて個々の進度に差が生じることから, 人によって行う実験や操作が異なる状況が生まれる。そこで, 自分の実験だけではなく周囲にも十分気を配り, 実験が安全に行えるよう心がけて欲しい。</p> <p>コアカリキュラムの対応項目: C2(2)①2,3, C2(5)①2,5, C3(1)①9, C3(3)①2, C3(4)①1-5, C3(4)②1,2, C3(4)④1</p>

科目名 Course Title	有機化学実習VI[Laboratory Exercise of Organic Chemistry VI]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	浅野 圭佑 [ASANO Keisuke] (触媒科学研究所)		
担当教員 Other Instructors	森崎 一宏[MORISAKI Kazuhiro](薬学研究院), 山本 一貴[YAMAMOTO Kazuki](薬学研究院), 島川 典[SHIMAKAWA Tsukasa](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025070
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	実験・実習	対象年次 Year of Eligible Student	3～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3300		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 化学系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 有機化学実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	医薬品、サルファ剤、合成計画、多段階合成、酸性度		
授業の目標 Course Objectives	本実習は、サルファ剤を合成を通して多段階合成の考え方や技術を習得することを目標とする。個々の単位反応や実験操作への理解を深めるとともに、分子全体の構造を考えて合成をおこなうことの重要性を学ぶ。		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1: 多段階の反応を通して市販化合物から医薬品がどのように合成されることを説明できる。</li> <li>2: 有機化合物の酸性度や、酸性物質および塩基性物質の分離や取扱について説明できる。</li> <li>3: 各反応の諸条件や実験操作の意味について説明できる。</li> <li>4: 反応部位だけでなく分子全体の構造が合成計画立案にどのように影響を与えるかを説明できる。</li> <li>5: 簡単な化合物について、融点や IR、NMR スペクトルに基いて構造を推定することができる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<p>以下の一連の反応を、得られた有機化合物の精製・構造解析を含めそれぞれ2～3日程度で行う。実験結果等はレポートにまとめて提出する。</p> <p>1: スルファグアニジンの合成 p-アセトアミドベンゼンスルホニルクロリドとグアニジンの反応および生成物の脱アセチル化</p> <p>2: スルファメラジンの合成 上記生成物と 4,4-ジメトキシ-2-ブタノンの塩基性条件下での縮合反応</p> <p>また実習の最後に実験内容に関してディスカッションをおこなう。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	効率よく実験を遂行するためには一つ一つの反応や操作の意味を理解することが極めて重要である。したがって、必ず実験内容を予習して実習に臨んでもらいたい。予習として、実習書とそれに対応する教科書を読んで理解を深めておくこと。復習は、実習書、プリント、板書、実習ノートを活用して行うこと。		
成績評価の基準と方法 Grading System	実験に対する姿勢(良く考えて実験操作を行っているか、実験結果・観察結果をノートへ正確に記録しているか等)、ディスカッションの結果、レポートの成績を総合的に判断して評価する。		
有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes			

<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>
<b>テキスト・教科書 Textbooks</b> 薬学部作成実習書
<b>講義指定図書 Reading List</b> ブルース有機化学 第7版【上】／P.Y.Bruice 著, 大船泰史他監訳:化学同人, 2014 ブルース有機化学 第7版【下】／P.Y.Bruice 著, 大船泰史他監訳:化学同人, 2015 総合有機化学実験Ⅰ／S.Hunig 他著, 吉村壽次他訳:森北出版, 1985 総合有機化学実験Ⅱ／S.Hunig 他著, 吉村壽次他訳:森北出版, 1985 有機化合物のスペクトルによる同定法／R.M.Silverstein 他著, 荒木峻他訳:東京化学同人, 2006
<b>参照ホームページ Websites</b>
<b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b>
<b>備考 Additional Information</b> 目的, 操作, 結果, 考察等を客観的に記録することは実験の最も重要な要素である。観察記録, 結果のまとめをしっかりと行い, レポートへ反映させること。  コアカリキュラムの対応項目: C2(2)①2,3, C2(5)①2,5, C3(1)①9, C3(3)①2, C3(4)①1-5, C3(4)②1,2, C3(4)④1

科目名 Course Title	生化学実習 I [Laboratory Exercise of Biochemistry I]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	大久保 直登 [OKUBO Naoto] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	中田 一彰[NAKATA Kazuaki](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025071
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	実験・実習	対象年次 Year of Eligible Student	2～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3400		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 生物系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 生化学実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	タンパク質、アフィニティー精製、SDS-PAGE、クマシー染色、ELISA、抗体、抗原、タンパク質分子量、構造解析		
授業の目標 Course Objectives	生物系実習の基礎という観点から、生命活動の担い手であるタンパク質の分離分析法の原理を理解し、それらの基本的な操作・技術を修得する。具体的には、タンパク質のアフィニティー精製、精製タンパク質の定量、構造解析、分子量測定、免疫反応を利用した定性ー定量分析について実習を行う。これらの実験の原理を理解するとともに、タンパク質の取り扱いに関する基本的な操作、技術を身につける。		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明できる。</li> <li>2. 電気泳動法の原理を説明し、実施できる。</li> <li>3. タンパク質の定量を行える。</li> <li>4. 抗原抗体反応の原理を説明しできる。</li> <li>5. ELISA 法を用いて抗原を検出、定量できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習についての説明、試薬、器具などの準備</li> <li>2. タンパク質のアフィニティー精製</li> <li>3. タンパク質の定量(紫外部吸光法)</li> <li>4. ポリアクリルアミドゲル電気泳動によるタンパク質の構造解析</li> <li>5. ELISA 法(前半)</li> <li>6. ELISA 法(後半)</li> <li>7. 後片付け、レポート作成</li> </ol>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	実習は実習テキストに基づいて行う。予習として、実習テキストの次回範囲を読んでおくこと。(分量:テキスト 5 ページ以内程度)復讐として、レポートを、タンパク質のアフィニティー精製と電気泳動法に関するものと、ELISA 法に関するもので分けて提出する。(分量:レポート用紙平均 10 枚分程度)		
成績評価の基準と方法 Grading System	全日程に出席することが前提。実習への取り組み態度(20%)とレポート(80%)で成績を評価する。		
有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			

**テキスト・教科書 Textbooks****講義指定図書 Reading List**

ストライヤー生化学 / Jeremy M. Berg, John L. Tymoczko, Lubert Stryer: 東京化学同人, 2008

**参照ホームページ Websites****研究室のホームページ Websites of Laboratory****備考 Additional Information**

その他の参考書

新生化学実験講座 1 (東京化学同人)

タンパク実験プロトコル 1 (細胞工学別冊実験プロトコルシリーズ)(秀潤社)

抗体実験マニュアル (羊土社)

免疫学的プロトコル (羊土社)

タンパク質実験ノート 上、下 (羊土社)

基礎生化学実験法 第3巻 (東京化学同人)

タンパク質研究なるほど Q&A (羊土社)

電気泳動なるほど Q&A (羊土社)

コアカリキュラムの対応項目:

A-3),4),5),6)

C-6-4(1),(2),(3),(4)

G-1-1(1),(2),(3)

G-1-2(1),(2),(3),(4),(5),(6)

G-2-1(1),(2),(3),(4)

G-2-2(1),(2),(3),(4),(5)

科目名 Course Title	生化学実習Ⅱ[Laboratory Exercise of Biochemistry II]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	大久保 直登 [OKUBO Naoto] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	中田 一彰[NAKATA Kazuaki](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025072
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	実験・実習	対象年次 Year of Eligible Student	2～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3400		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 生物系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 生化学実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	酵素反応速度論、ミカエリス定数、最大速度、代謝回転数、阻害剤、阻害定数		
授業の目標 Course Objectives	本実習の目標は、酵素活性に関する研究を行う上での基本操作と技術、実験の進め方と考え方を修得することである。酵素反応速度論を理解するための基本操作と技術、実験計画の立て方、データの解析方法など基本的な実験操作を体験し、原理を理解する。		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的な酵素の活性を測定できる。</li> <li>2. 酵素の反応機構や阻害剤の作用機構について説明できるようになる。</li> <li>3. 実際の実験結果をもとにミカエリス定数、最大速度、ターンオーバーナンバー(代謝回転数)、阻害定数を求めることができるようになる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習についての説明、試薬、器具などの準備</li> <li>2. トリプシンによるBAPA加水分解実験</li> <li>3. ベンズアミジンによるトリプシンの阻害実験1</li> <li>4. ベンズアミジンによるトリプシンの阻害実験2</li> <li>5. 実験データの解析</li> <li>6. 後片付け、レポート作成</li> </ol>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	実習は実習テキストに基づいて行う。予習として、実習テキストの次回範囲を読んでおくこと。(分量:テキスト 5 ページ程度) 実験を行う日以外に、データの解析のみを行う日がある。復讐として、酵素反応速度論に関するレポートを提出する。(分量:レポート用紙平均 10 枚分程度)		
成績評価の基準と方法 Grading System	全日程に出席することが前提。実習への取り組み態度(20%)とレポート(80%)で成績を評価する。		
有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List	ストライヤー生化学/ Jeremy M. Berg, John L. Tymoczko, Lubert Stryer: 東京化学同人, 2008		

**参照ホームページ Websites**

**研究室のホームページ Websites of Laboratory**

**備考 Additional Information**

その他の参考書

酵素反応(岩波書店)

蛋白質の化学修飾(下)(学会出版センター)

酵素－反応速度論と機構(東京大学出版会)

酵素キネティクス(学会出版センター)

コアカリキュラムの対応項目:

A\_1),3),4),5),6)

C-6-4(1),(2),(3),(4)

G-1-1(1),(2),(3)

G-1-2(1),(2),(3),(4),(5),(6)

G-2-1(1),(2),(3),(4)

G-2-2(1),(2),(3),(4),(5)

科目名 Course Title	生化学実習Ⅲ[Laboratory Exercise of Biochemistry III]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	米田 宏 [MAITA Hiroshi] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025073
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	実験・実習	対象年次 Year of Eligible Student	2～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3400		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 生物系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 生化学実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	微生物, グラム染色, 薬剤感受性, 核酸		
授業の目標 Course Objectives	<p>人類は、古くから醸造・発酵など食糧生産に微生物を有効に利用してきた。一方で、多くの疾病が微生物の感染・寄生に起因することを解明し、克服する努力をしてきた。また、微生物は生物体として簡単な構造であり、増殖が速く容易なため基本的な生命現象の研究材料として好都合である。本実習では、微生物を取り扱う上で必須の無菌操作法、滅菌法、単離法、鑑別(同定)染色法、抗生物質の感受性試験を、数種の微生物を用いて修得する。また、本実習では、高分子核酸(染色体 DNA)の抽出・精製方法を習得し、核酸の生化学的性質、分光学的性質、構造に関する知識を修得する。</p>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1: 微生物実験に不可欠な無菌操作、滅菌法を実施することができる。</li> <li>2: 微生物の単離・培養を実施し、グラム染色法による微生物の鑑別を実施することができる。</li> <li>3: 抗生物質の作用機作、感受性の相違について説明できる。</li> <li>4: 核酸の調製法、精製法を実施することができる。</li> <li>5: 核酸の生化学的性質、分光学的性質について説明できる。</li> <li>6: 生物種間での染色体 DNA の構造の相違について説明できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<p>はじめに微生物培養に使用する培地作成法、滅菌法、無菌操作法を習得し、大腸菌、枯草菌、表皮ブドウ球菌など数種の微生物の培養を実施する。またその技能を応用し、未知試料から微生物の単離を行いグラム染色法などの鑑別法を実施する。更に、抗菌薬の作用機作、感受性について理解を深める実験を行う。また、細菌から染色体 DNA の抽出、精製を行う。得られた標品について、分光学的な性質、生化学的な性質を、各種の試験法を通して理解を深める。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>無菌操作の意味と代表的な微生物の性質、また、核内での DNA の存在形態について、あらかじめ実習書や微生物学教科書等から理解しておくことが望まれる。予習・復習は各1時間。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>実習中の実験実施状況やレポートにより実習内容の理解度を考慮して総合的に評価する。(レポート 90%, 技能課題 10%を原則とするが、実験への参加状況も考慮する)</p>		
有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			

<b>講義指定図書 Reading List</b>
<b>参照ホームページ Websites</b>
<b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b>
<b>備考 Additional Information</b> コアカリキュラムの対応項目： A-4,5,6、C-6-3(2)(4)(10)、D-2-15(4)(5)

科目名 Course Title	衛生化学実習[Laboratory Exercise of Hygienic Chemistry]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	中田 一彰 [NAKATA Kazuaki] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025074
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	実験・実習	対象年次 Year of Eligible Student	2～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3500		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	5 医療系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 医療系実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	公衆衛生, 生活環境		
授業の目標 Course Objectives	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康維持に必要な栄養を科学的に理解するために、栄養素、代謝、食品の安全性と衛生管理などに関する基本的知識を修得する。</li> <li>・公衆衛生の向上に貢献するために、感染症、生活習慣病、職業病等疾患の現状とその予防に関する基本的知識、態度を修得する。</li> <li>・人の健康にとってより良い環境の維持と向上に貢献するために、化学物質の人への影響、及び生活環境や地球生態系と人の健康との関わりについての基本的知識、態度を修得する。</li> </ul>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主な食品添加物の試験法の実際を説明できる。</li> <li>2. 動植物由来毒素や細菌による食中毒/感染症等の予防について説明できる。</li> <li>3. 食品汚染物質(残留農薬, 動物用医薬品, 容器包装由来化学物質等)による健康影響について説明できる。</li> <li>4. 環境(大気, 水, 土壌)汚染、室内環境を評価するための代表的な測定法の実際を説明できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習についての説明と準備</li> <li>2. 食中毒、食品添加物の法的規制や試験法の実際</li> <li>3. 細菌・ウイルス感染症とその予防についての実際</li> <li>4. 環境汚染と汚染物質測定の実際</li> <li>5. 討論、質疑と総括</li> </ol>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>予習: 事前に実習範囲の資料等を調査し関連する質問等を考えておくこと(1時間程度)。</p> <p>復習: 実習後の補足調査とレポート作成により知識の定着を図る。復習は教科書や資料プリント等も活用して行うこと(2時間程度)。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>レポート(80%)と実習への取り組み態度(20%)で成績を評価する。</p> <p>全日程に出席することを成績評価の条件とする。</p>		
有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			

<b>テキスト・教科書 Textbooks</b> 第 6 版 衛生薬学 健康と環境／永沼 章 (編集), 姫野 誠一郎 (編集), 平塚 明 (編集): 丸善出版, 2018
<b>講義指定図書 Reading List</b> 資料プリントを適宜配布
<b>参照ホームページ Websites</b>
<b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b>
<b>備考 Additional Information</b> コアカリキュラムの対応項目: A_4),5) E-1-2(1),(2),(3),(4) E-2-2(1),(2),(4) E-3-2(1),(3),(4)

科目名 Course Title	薬理学実習[Laboratory Exercise of Pharmacology]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	天野 大樹 [AMANO Taiju] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025075
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	実験・実習	対象年次 Year of Eligible Student	3～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3500		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	5 医療系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 医療系実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	薬理学		
授業の目標 Course Objectives	<p>医療は、ヒトの健康増進、疾患治療を目的として人体に適用されています。一個の個体として高度に組織化された人体は、複雑な機構を合理的に作動させ生命活動を営んでいます。ヒトの生命活動を支える生理的、生化学的機構は何か、それに薬物ほどのような機構で影響を及ぼし臨床的効果を発現するかを学びとることが本実習の目的です。実験動物は人体の優れたモデルであり、生理的機構および薬物応答機序の点で人体と多くの共通点を有しています。人体に対する医薬の作用を検討する重要な前段階として、多くの利点を持つ実験動物を使用して本薬理学実習を行い、薬物の作用動態を観察し、作用機序を考察する中で、生体の調節機構や薬物作用のダイナミズムについて理解します。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>薬理学実習では(1)薬物作用を自分の目で確かめ、生体情報伝達機構と関連付けて理解すること、(2)薬物の用量と反応の関係を薬物と受容体との相互作用において理解すること、(3)薬物適用時、予測と異なる結果が得られることもあります。この場合に何故そのような成績が得られたかを十分に解析・考察出来ることを目標とします。具体的な目標を以下に挙げました。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1:ラットやマウスなどの実験動物に対する注射を含めた取扱いができる。</li> <li>2:プロトコルを読み取ることで試薬調整計算を行い、試薬の調製ができる。</li> <li>3:薬物と受容体との相互作用を理論的に説明できる。</li> <li>4:実験動物の一般行動観察から中枢および自律神経系の働きを説明できる。</li> <li>5:薬効評価法としての二重盲検法の意義を説明できる。</li> <li>6:棄却検定と有意差検定を含めた統計学解析ができる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1:「二重盲検法」 カフェインレスコーヒーをプラセボに用いて学生が自ら被検者となり体験する二重盲検法。ここでは実際に得られたデータをもとに適切な統計的手法を用いて薬効評価を行い、薬効評価法としての二重盲検法の意義を理解する。実習についての説明</li> <li>2, 3:「自律神経による平滑筋運動の支配」 マグヌス装置を使用し摘出したラットの腸管にアセチルコリンやアトロピンなどの薬物を作用させ収縮や弛緩を観察する。</li> <li>4, 5:「マウスの一般症状観察と薬効評価(鎮痛効果の判別)」 マウスに中枢作用薬などの薬物を投与し、運動性などの一般行動を観察することにより、中枢神経系および自律神経系に対する作用態度などを学ぶ。また、モルヒネを投与し、鎮痛効果の有無について解析する。</li> <li>6:試薬、器具などの後片付け、実習のまとめ</li> </ol>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>本実習前に動物実験実施者等教育訓練を受講すること。事前に実習書を熟読し、背景や操作・手順について A4 用紙 1 ページ程度にポイントとなる箇所をまとめて把握しておくこと。実習後は目的や手法および結果のまとめについて A4 用紙 1 ページ程度を作成し、提出レポートの作成に役立てる。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>実習(動物実験実施者等教育訓練を含む)への参加姿勢およびレポート。</p>		

<b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b>
<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>
<b>テキスト・教科書 Textbooks</b> New 薬理学／田中千賀子・加藤隆一・成宮周：南江堂，2025
<b>講義指定図書 Reading List</b>
<b>参照ホームページ Websites</b>
<b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b> <a href="http://www.pharm.hokudai.ac.jp/yakuri/">http://www.pharm.hokudai.ac.jp/yakuri/</a>
<b>備考 Additional Information</b> 最低必要項目である実験日時，実験環境（騒音の程度や室温など），動物(species, strain, age, sex)，薬物（入手先，用量，投与ルート），個々の実験操作（標本の作製法など），薬物作用の詳細（定性的，定量的，時間的）を可能なかぎり記録し，レポートすること。  コアカリキュラムの対応項目： A_3),4),5) C-7-2(2),(5),(6) D-1-1(3),(4) D-2-2(1)

科目名 Course Title	薬剤学実習[Laboratory Exercise of Pharmaceutics]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	佐藤 悠介 [SATO Yusuke] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025076
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	実験・実習	対象年次 Year of Eligible Student	3～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3500		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	5 医療系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 医療系実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
<b>キーワード Key Words</b>	消化管吸収、pH 分配仮説、コンパートメントモデル、尿中排泄、粒子径		
<b>授業の目標 Course Objectives</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬物の生体内運命を理解するために、吸収・排泄の過程に関する基本的知識とそれらを解析するための基本的技能を修得する。</li> <li>・薬効や副作用を体内の薬物動態から定量的に理解できるようになるために、薬物動態の理論的解析に関する基本的知識と技能を修得する。</li> <li>・薬学研究や臨床現場での分析のための生体試料や実験動物の取り扱いに関する基本的知識と技能を修得する。</li> </ul>		
<b>到達目標 Course Goals</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受動拡散(単純拡散)、促進拡散の特徴を説明することができる。</li> <li>2. 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明することができる。</li> <li>3. 消化管での吸収過程における薬物の脂溶性の重要性について説明することができる。</li> <li>4. 消化管吸収での pH 分配仮説について説明することができる。</li> <li>5. 薬物の動態について説明することができる。</li> <li>6. 線形 1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算を行うことができる。</li> <li>7. 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。</li> <li>8. 動物実験における倫理について配慮することができる。</li> <li>9. 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。</li> <li>10. 実験動物での代表的な薬物投与法を説明することができる。</li> </ol>		
<b>授業計画 Course Schedule</b>	<p>実習期間は 6 日間で、実習生は 2 班に別れ、各班は下記の実習課題(課題 1 は 2 日間、課題 2 は 1 日間)を順次行う。各課題は 2-4 名のグループでの共同実験となる。</p> <p>(課題1) サルファ剤(スルフイソキサゾール)を用い、ラット小腸への吸収率と有機溶媒(オクタノール)に対する抽出率との関係を調べ、薬物の消化管吸収において薬物の脂溶性が重要な因子であることを理解する。</p> <p>(課題2) 被験者に経口投与されたビタミンの尿中排泄データから経口投与後の吸収速度定数、排泄速度定数を算出する。投与薬物の粒子径との関連性について考察する。</p>		
<b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b>	<p>実習では、多数の学生が能率よく多くの課題を行えるように、器具や実験手順等があらかじめ用意されていることが多いので、ややもすれば受け身の態度で実習に臨みがちである。本実習では詳細な実験手順を示さない課題があるので、用意された器具や測定器が適切なものであるか、精度よく測定するにはどうすればよいか等を各自(グループ)で吟味、考察したうえで実験を精度よく行うよう心掛けていただきたい。</p>		
<b>成績評価の基準と方法 Grading System</b>			

<p>原則として、全課題に関する実験を行った者に対して、(1)実習への参加態度、(2)レポートの内容を総合して、到達目標の達成度を評価する。それぞれの評価の比率は、(1)=30%、(2)=70%とする。</p>
<p><b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b></p>
<p><b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b></p>
<p><b>テキスト・教科書 Textbooks</b> 配布される実習書を使用する</p>
<p><b>講義指定図書 Reading List</b></p>
<p><b>参照ホームページ Websites</b></p>
<p><b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b></p>
<p><b>備考 Additional Information</b> コアカリキュラムの対応項目： A_4),5),6),8) C-7-1(4) D-1-1(6) D-4-1(1) D-4-2(5) D-5-1(1)</p>

科目名 Course Title	RI 実習[Laboratory Exercise of RI Experiments]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	家田 直弥 [IEDA Naoya] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	後藤 悠人[GOTO Yuto](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025077
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	実験・実習	対象年次 Year of Eligible Student	2～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学部		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3200		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 物理・分析系科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 物理・分析系実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	放射性同位元素、ラジオアイソトープ、アルファ線、ベータ線、ガンマ線、シンチレーション計数器、ガンマ計数器、ガイガーミュラー計数器、放射線防護、汚染除去法		
授業の目標 Course Objectives	原子核のなかには不安定な状態の原子核が存在する。この不安定な状態の原子が安定な状態になろうとしてエネルギーを放出する。このとき放出されるのが放射線であり、放射線を放出する元素は放射性同位元素(Radioisotope:RI)と呼ばれている。本実習では、RI の物理的、化学的性質を知り、RI が生化学・有機化学の研究に有用であることを学ぶ。さらに、RI を扱うにあたっては、特別に指定された実験室でゴム手袋等を着用するなどして、RI を含む放射性物質の汚染・被曝被害を防止するための知識、技術を修得する。		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体および実験器具が放射性物質に被曝・汚染しないためには、どのような注意・対策が必要かを説明できる。</li> <li>2. 生化学や有機化学の分野で汎用される核種について、放射線の種類、崩壊エネルギー強度を理解し、測定する方法と測定機種を選択することができる。さらに、同じ種類の放射線を出す放射性同位元素でも、エネルギー強度の違いにより、測定方法、測定機器が異なることを理解し説明できる。</li> <li>3. 各測定機器の原理を説明できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 放射性同位元素を扱う上での一般的注意を学ぶ。</li> <li>2. 汎用されている核種 3H, 32P, 14C, 125I について、核種の性質(放射線の種類-<math>\alpha</math>, <math>\beta</math> または <math>\gamma</math> 線と崩壊エネルギーなど)を学ぶ。</li> <li>3. 放射性物質を扱う実験室での、着衣、実験器具の使用法を学ぶ。</li> <li>4. 90Sr, 60Co の密封線源の放射線量を各種サーベイメーターを用いて測定し、放射線量と距離の関係や遮蔽について学ぶ。</li> <li>5. 3H, 32P, 14C, 125I を含む化合物の測定法(<math>\gamma</math> カウンター、液体シンチレーションカウンター、GM カウンター)を学ぶ。</li> <li>6. 液体シンチレーション法におけるクエンチングに関する知識を学ぶ。</li> <li>7. これらの実習を通して測定機器の原理と操作法を学ぶ。</li> </ol>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	代表的な放射性同位元素核種の性質やそれに応じた測定法、また、放射線からの防護法や除染法について、放射化学教科書等からあらかじめ理解を深めておくのが望ましい。		
成績評価の基準と方法 Grading System			

<p>実習に積極的に取り組む姿勢(30%)及び提出したレポート(70%)で評価する。</p> <p><b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b></p>
<p><b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b></p>
<p><b>テキスト・教科書 Textbooks</b>  実習書</p>
<p><b>講義指定図書 Reading List</b>  物理系薬学 I (スタンダード薬学シリーズII-2):東京化学同人  医用放射化学/福土政広, 大久保恭仁, 加藤真介:医療科学社  新放射化学・放射性医薬品化学/佐治英郎, 向高弘, 月本光俊:南江堂  薬学生の放射化学/馬場茂雄:広川書店  放射薬学テキスト/浦久保五郎:広川書店</p>
<p><b>参照ホームページ Websites</b></p>
<p><b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b></p>
<p><b>備考 Additional Information</b></p> <p>コアカリキュラムの対応項目:  A_4),5),6)  C-1-2(5),(6)</p>

科目名 Course Title	実務実習事前実習[Pre-training for Pharmacy Practices]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	鳴海 克哉 [NARUMI Katsuya] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	柏木 仁[KASHIWAGI Hitoshi](薬学研究院), 佐藤 夕紀[SATO Yuki](薬学研究院), 岡本 敬介[OKAMOTO Keisuke](薬学研究院), 加藤 いづみ[KATO Izumi](薬学研究院), 前原 経 [MAEHARA Osamu](薬学研究院), 梨本 俊亮[NASHIMOTO Shunsuke](薬学研究院), 柘植 厚志[TSUGE Atsushi](薬学研究院), 上田 一奈太[UEDA Hinata](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025078
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	4.5
授業形態 Type of Class	実習	対象年次 Year of Eligible Student	4~
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3700		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	7 実務実習事前学習		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 実務実習事前実習・救急救命実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	1 該当する		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	実務実習, 調剤, 医療面接, 服薬指導, 無菌操作, フィジカルアセスメント		
授業の目標 Course Objectives	卒業後, 医療に参画できるようになるために, 病院実務実習・薬局実務実習に先立って, 大学内で調剤および製剤, 服薬指導などの薬剤師職務に必要な基本的知識, 技能, 態度を習得する。		
到達目標 Course Goals	<p>(1) 事前学習に積極的に取り組むために, 病院と薬局での薬剤師業務の概要と社会的使命を説明できる。</p> <p>(2) 処方せん授受から服薬説明までの流れについて概説できる。</p> <p>(3) 処方せん上の問題点を指摘できる。</p> <p>(4) 用法・用量, 禁忌, 相互作用などを含む調剤上注意すべき事項を挙げて, 解決策を提示できる。</p> <p>(5) 抗ガン剤などの医療従事者への被ばくのリスクや針刺しのリスクを理解し, 安全に配慮して注射剤を混合することができる。</p> <p>(6) 院内製剤ならびに薬局製剤について理解し, 簡単な製剤を調製できる。</p> <p>(7) 患者が被る危険を回避できるようにするために, 医薬品の副作用, 調剤上の危険因子とその対策, 院内感染について説明できる。</p> <p>(8) 模擬患者を相手に情報を聞き取り, 医療従事者あるいは模擬患者に適切な情報を提供できる。</p> <p>(9) 薬効や副作用をモニタリングするために必要なフィジカルアセスメントを実践できる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>1. 薬剤師業務の概要と社会的使命について講義形式での解説および他の医療従事者との連携や責任範囲について小グループで討論</p> <p>2. 典型的な処方例を中心とした処方せんによる調剤および鑑査 計数調剤(錠剤), 散薬および水薬の計量調剤, 軟膏剤の混合, 調剤薬監査など 社会保障制度の講義および診療報酬の計算方法の演習</p> <p>3. 処方せん監査および疑義照会(ロールプレイ)</p> <p>4. 注射処方せん調剤(無菌的混合調製・相互作用・配合変化チェック) 劇毒物, 特定生物由来製剤などの特別な管理を必要とする医薬品の調剤・管理に関する講義</p> <p>5. 院内製剤・薬局製剤の調製および製剤試験</p> <p>6. ロールプレイ形式による患者インタビュー・服薬指導を演習およびその内容について, 問題点の抽出, 改善法などの討論</p> <p>7. フィジカルアセスメントの意義および評価方法に関する講義および血圧・脈拍・体温の測定, 呼吸音・心音・腸音の聴取, 心電図のモニター</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	実習で使用する医薬品リストを実習開始前に渡すので十分に予習しておくこと。		

実習開始後は、事前に予習を課された内容以外は復習を中心に行うこと。

#### 成績評価の基準と方法 Grading System

9/10以上の出席が必須。実習への参加姿勢・到達度(30%)、実習日誌(10%)、実技試験(20%)、演習問題(5%)および筆記試験(35%)により総合的に評価する。この5項目のうち、少なくとも3つで6割以上、かつ総合得点で6割以上を満たす場合に合格とする。なお、本実習の到達目標のうち、参加姿勢・到達度ならびに実習日誌は(1)～(9)、実技試験は(2)～(4)、演習問題は(3)、(4)、(7)、筆記試験は(2)～(9)の内容を含む。

#### 有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes

病院薬剤部等において薬剤師経験を有する教員が、実務経験に基づき実習を行う。

#### 他学部履修の条件 Other Faculty Requirements

#### テキスト・教科書 Textbooks

治療薬マニュアル 2026 / 【監修】矢崎義雄 【編集】上野文昭、越前宏俊:医学書院, 2026

新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 下 調剤業務の基本[技能]第4版 / 【監修】上村直樹、武田泰生 【編集】下平秀夫、鹿村恵明、根岸健一:羊土社, 2025

臨床検査データブック [コンパクト版] 第13版 / 【監修】黒川清 【編集】春日雅人、北村聖、大西宏明:医学書院, 2025

適宜プリントも配布する。治療薬マニュアルは毎年更新されるので、最新版を携行すること。

(なお、2026年度はすべての教科書が改訂されています)

#### 講義指定図書 Reading List

調剤指針 第十四改訂増補版 / 日本薬剤師会 編:薬事日報社, 2022

#### 参照ホームページ Websites

#### 研究室のホームページ Websites of Laboratory

#### 備考 Additional Information

科目等履修生は、履修資格試験に合格しなければ本実習の履修は認められない。

合格基準に達しない場合は、レポート提出または実習期間内に再試験を行うことがある。

コアカリキュラムの対応項目:

A\_1,2,5,7,8,9,10)

B-1-1(1)(2)(3)(4)(5)(6)(7),B-1-2(1)(2)(6)(7),B-1-3(1)(2)(3)(4)(5),B-2-1(1)(3)(5),B-2-2(2),B-3-1(1)(2)(3)(4)(5)(6)(7)(8)(9)(10),B-3-2(1)(2)(3)(4)(5)(6)(7),B-4-2(8),B-4-4(1)(2)(3),B-5-3(1)(2)(3)

C-7-1(1)(2),D-1-2(2)(3),D-1-3(1),D-2-1(2),D-2-2(2),D-2-3(1),D-2-4(2),D-2-5(3),D-2-6(2)(3)(4)(5),D-2-7(3),D-2-8(2),D-2-9(2),D-2-10(3),D-2-11(3),D-2-12(2),D-2-13(2),D-2-14(2),D-2-15(4)(5),D-2-16(3),(4)D-2-17(2)D-2-18(1)(2),D-2-20(2),D-3-2(1)(2),D-3-5(1)(2)(3)(4)(5),D-5-2(1)(2)(3)(4),D-6-1(1)(2)(3)(4)(5)(6)

E-1-2(1)(2),F-1-1(1)(3)(6)(7)(8)(9)(10),F-2-1(1)(3)(4),F-3-1(1)(2)(3),F-3-2(3),F-3-3(1)(2),F-3-4(1)(2),F-5-1(1)(2)(4)

コア・カリキュラム以外の独自の内容:

適応外処方の現状を理解する, 院内製剤を調製する, 溶出・崩壊試験を実践する

科目名 Course Title	救命救急実習[Emergency Medical Exercise]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	鳴海 克哉 [NARUMI Katsuya] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025004
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	0.2
授業形態 Type of Class	実習	対象年次 Year of Eligible Student	4～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 3700		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	3 学部専門科目(発展的な内容の科目)、全学教育科目(高年次対象科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	7 実務実習事前学習		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 実務実習事前実習・救急救命実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	1 該当する		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	救命救急、AED(体外式自動除細動器)		
授業の目標 Course Objectives	医療現場に身をおく薬剤師は、患者の容体急変に遭遇した場合、正しく対応出来る事が望ましい。本実習では医療従事者として必要と考えられる救命救急の処置方法の習得を目標とする。		
到達目標 Course Goals	1. 一次救命処置に必要な知識を説明できる。 2. AED を適切に使用できる。		
授業計画 Course Schedule	1. 心肺蘇生法 人工呼吸、胸骨圧迫 2. 異物除去法、止血法および搬送方法 胸部突き上げ法、背部叩打法、直接圧迫止血法、担架搬送法、徒手搬送法 3. AED を用いた除細動 対象となる傷病者、AED の使用方法		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	1日の集中実習で行う。 配布した資料を十分読み返し、不測のときにあわてず対応できるようにしておくこと。		
成績評価の基準と方法 Grading System	集中実習の出席を必須とし、受講態度(60%)およびレポート(40%)によって評価する。		
有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes	薬剤師経験を有する教員が、実習をコーディネートする。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

短期の実習なので原則として全過程に出席しなければ単位は取得できない。

コアカリキュラムの対応項目：

A\_1),2),5),6),8),10)

B-1-1(1)

B-1-2(8)

B-1-3(2)

B-2-1(1)

B-3-1(1)

F-1-1(3)

F-5-1(5),(6)

科目名 Course Title	病院実習[Hospital Pharmacy Practices]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	菅原 満 [SUGAWARA Mitsuru] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	小林 正紀[KOBAYASHI Masaki](薬学研究院), 柏木 仁[KASHIWAGI Hitoshi](薬学研究院), 鳴海 克哉[NARUMI Katsuya](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025082
期間 Semester	通年	単位数 Number of Credits	10
授業形態 Type of Class	実習	対象年次 Year of Eligible Student	5～5
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 4800		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	4 学部専門科目(卒業論文・卒業研究関連科目、医・歯・薬・獣5～6年科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	8 病院・薬局実習		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 病院実習・薬局実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	1 該当する		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	病院, 実務実習		
授業の目標 Course Objectives	病院薬剤師の業務と責任を理解し、チーム医療に参画できるようになるために、調剤および製剤、服薬指導などの薬剤師業務に関する基本的知識、技能、態度を修得する。		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院における調剤業務を実践できる。</li> <li>2. 一般製剤・無菌製剤を調製できる。</li> <li>3. 病棟薬剤業務および薬剤管理指導業務を実践できる。</li> <li>4. 医薬品情報を適切に入手・管理・提供できる。</li> <li>5. 医薬品を適切に管理・供給できる。</li> <li>6. 医療チームの一員として活動できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<p>小グループにわかれて病棟活動・医薬情報提供の基本・医薬品管理・調剤・一般製剤・無菌製剤(TPN製剤調製、抗癌剤混合)の実習を行う。</p> <p>〈調剤・服薬指導〉 病院調剤業務全体の流れ、計数・計量調剤・麻薬調剤、服薬指導の実際、注射剤調剤、院内製剤、安全対策</p> <p>〈製剤/医薬品管理・供給・保存〉 医薬品管理の流れと適正在庫、特別な配慮を要する医薬品(相互作用チェック)、医薬品の採用・使用中止、院内で調製する薬剤・TPN製剤の調製と使用の留意点、薬物モニタリング、中毒医療、抗がん薬の無菌調製およびその準備・安定性の調査</p> <p>〈医薬品情報管理〉 病院での情報提供、情報の入手・評価・加工(英語文献の検索・情報加工)、情報提供の実際(患者・医療スタッフ)</p> <p>〈薬剤師 病棟活動〉 病棟業務の概説、医療チームへの参画(病棟カンファレンス・NSTなど)、薬剤管理指導業務の実際、患者面談と適切な情報収集・提供</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	病院実習開始前に、事前実習での内容を十分に復習しておくこと。毎日実習日誌を記載し、一日に実習したことを振り返ること。		
成績評価の基準と方法 Grading System			

実習日総数の 9/10 以上の出席が必要。各部門での参加姿勢や修得状況(日誌および評価表), 最終実習報告書の内容, 報告会での発表内容により評価する。

**有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes**

受け入れ施設(病院)の薬剤師および薬剤師経験を有する教員が, 実務経験に基づいて実習を指導する。

**他学部履修の条件 Other Faculty Requirements**

**テキスト・教科書 Textbooks**

治療薬マニュアル: 医学書院

治療薬マニュアルは前年度の事前実習で使用したもので良い。

**講義指定図書 Reading List**

第十四改訂 調剤指針 増補版 / 日本薬剤会: 薬事日報社, 2022

**参照ホームページ Websites**

**研究室のホームページ Websites of Laboratory**

**備考 Additional Information**

本実習を通じて, 技術を修得するのみではなく医療専門職に最低限必要な「医薬品」の取り扱いに対する倫理的な考え方も学ぶ。そのため, 実際に患者の方々が出入りする病院で行われる本実習は, 常に実習を受ける側の姿勢・態度が一般社会から監視の下に行われる実習であるという自覚を持って望むことが肝要である。

コアカリキュラムの対応項目:

A\_1,(2),(3),(4),(5),(6),(7),(8),(9),(10)

F-1-1(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7),(8),(9),(10),(11),(12),(13),(14),(15),(16),(17)

F-2-1(1),(2),(3),(8),(9),(10)

F-3-1(1),(2),(3)

F-3-2(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7)

F-3-3(1),(2),(3),(4),(5),(6)

F-3-4(1),(2),(3),(4),(5),(6)

F-5-1(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7),(8),(9),(10),(11)

科目名 Course Title	薬局実習[Community Pharmacy Practices]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	小林 正紀 [KOBAYASHI Masaki] (大学院薬学研究院)		
担当教員 Other Instructors	菅原 満[SUGAWARA Mitsuru](薬学研究院), 柏木 仁[KASHIWAGI Hitoshi](薬学研究院), 鳴海 克哉[NARUMI Katsuya](薬学研究院)		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	025083
期間 Semester	通年	単位数 Number of Credits	10
授業形態 Type of Class	実習	対象年次 Year of Eligible Student	5～5
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 4800		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	4 学部専門科目(卒業論文・卒業研究関連科目、医・歯・薬・獣5～6年科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	8 病院・薬局実習		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 病院実習・薬局実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	1 該当する		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	薬学実務実習		
授業の目標 Course Objectives	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬局で取り扱うアイテム(品目)の医療、保健・衛生における役割を理解する。</li> <li>2. 医薬品の適正使用に必要な情報を提供できるようになるために、薬局における医薬品情報管理業務に関する基本的知識、技能、態度を修得する。</li> <li>3. 薬局調剤を適切に行うために、調剤、医薬品の適正な使用、リスクマネージメントに関連する基本的知識、技能、態度を修得する。</li> <li>4. 地域社会での健康管理における薬局と薬剤師の役割を理解するために、薬局カウンターでの患者、顧客の接遇に関する基本的知識、技能、態度を修得する。</li> <li>5. 地域に密着した薬剤師として活躍できるようになるために、在宅医療、地域医療、地域福祉、災害時医療、地域保健などに関する基本的知識、技能、態度を修得する。</li> <li>6. 調剤、服薬指導、患者・顧客接遇などの薬局薬剤師の職務を総合的に実習する。</li> </ol>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的な薬局製剤・漢方製剤について概説し、調製できる。</li> <li>2. 薬局におけるアイテムの管理、配列の概要を把握できる。</li> <li>3. 職務上知り得た情報について守秘義務を守ることができる。</li> <li>4. 処方内容、薬歴簿から得られる患者情報を的確に把握できる。</li> <li>5. 入手した患者情報を、必要に応じ、適正な手続きを経て他の医療従事者に提供できる。</li> <li>6. 保険調剤業務の全体の流れを理解できる。</li> <li>7. 薬歴簿を参照して処方内容の妥当性を判断できる。</li> <li>8. 疑義照会の行い方を理解し、実践できる。</li> <li>9. 異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。</li> <li>10. 調剤機器(秤量器、分包機など)の基本的取扱いができる。</li> <li>11. 薬歴管理の意義と重要性を説明できる。</li> <li>12. 薬歴簿を活用した服薬指導ができる。</li> <li>13. 調剤後の処方せんへの記入事項について説明できる。</li> <li>14. かかりつけ薬局・薬剤師の役割について指導薬剤師と討議できる。</li> <li>15. 患者、顧客に対して適切な態度で接することができる。</li> <li>16. セルフメディケーションのための一般用医薬品、医療用具、健康食品などを適切に選択・供給できる。</li> <li>17. 顧客に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。</li> <li>18. 訪問薬剤管理指導業務について説明できる。</li> <li>19. 病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。</li> </ol>		

20.緊急災害時における、当該薬局および薬剤師の役割について説明できる。

21.薬局業務を総合的に実践できる。

### 授業計画 Course Schedule

調剤、服薬指導、地域活動(在宅介護、学校薬剤師活動等)、患者・顧客接遇などの薬局薬剤師の職務を総合的に実習(11週)する。

〈薬局アイテムと管理〉

薬局製剤、薬局アイテムの管理・保存、特別な配慮を要する医薬品

〈情報のアクセスと活用〉薬剤師の心構え、情報の入手と加工・提供

〈薬局調剤〉

薬局調剤業務全体の流れ、処方箋の受付、処方箋の監査・疑義照会、

薬局窓口での服薬指導、調剤録と処方箋の保存・管理、調剤報酬、安全対策

〈薬局カウンターで学ぶ〉

患者接遇、一般用医薬品・医療用具・健康食品、カウンター実習

〈地域活動〉在宅医療、地域医療・地域福祉、災害時医療、地域保健・学校薬剤師

### 準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework

薬学共用試験(OSCE、CBT)の合格者が履修できる。

### 成績評価の基準と方法 Grading System

出席日数総数の 8/10 以上出席した者について、毎日の実習における日報・週報(30%)、ルーブリック評価(40%)、実習報告会での発表(15%)、提出された実習最終報告書の内容(15%)を総合して到達目標の達成度を評価する。

### 有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes

薬剤師経験を有する教員が、実習をコーディネートする。

### 他学部履修の条件 Other Faculty Requirements

### テキスト・教科書 Textbooks

### 講義指定図書 Reading List

調剤指針(日本薬剤師会編):薬業日報社

### 参照ホームページ Websites

### 研究室のホームページ Websites of Laboratory

### 備考 Additional Information

北海道大学薬学部にはこれらの実習を行える設備がないため、北海道内の薬局を実習施設として依頼し、当該薬局薬剤師の指導のもとに実施する。

実習中に職務上知り得た情報については守秘義務があることを徹底されたい。

コアカリキュラムの対応項目:

A\_1),(2),(3),(5),(6),(7),(8),(9)

B-1-1(1),(2),(4),(5),(6),(7),(9),(10)

B-1-2(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7),(8),(9),(10),(11)

B-1-3(1),(2),(3),(4),(5),(6)

B-2-1(1),(2),(3),(4),(5)

B-2-2(1),(2),(3),(4)

B-3-1(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7),(8),(9),(10),(11)

B-3-2(6)

B-4-2(2),(4)

B-4-3(1),(2),(4)

B-4-4(1),(2),(3)

B-5-3(1),(2),(3)

D-1-2(1),(2),(3)

D-1-3(1),(4)

D-2-20(1)

D-3-2(1),(2),(3),(4),(5)

D-3-5(1),(2),(3),(4),(5)

D-4-1(1),(2),(3),(4)

D-5-1(4)

D-5-2(1),(3)  
D-6-1(1),(2),(3),(4),(5)  
F-1-1(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7),(8),(9),(10),(11),(12),(13),(14),(15),(16),(17)  
F-2-1(1),(3),(4),(5),(6),(7),(8),(9),(10)  
F-3-1(1),(2),(3)  
F-3-2(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7)  
F-3-3(1),(2),(3),(4),(5),(6)  
F-3-4(1),(2),(4),(5),(6)  
F-4-1(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7)  
F-4-2(1),(2),(3),(5),(6)  
F-5-1(1),(2),(3),(4),(5),(7),(8),(9),(10),(11)

科目名 Course Title	薬科学演習[Practice of Pharmaceutical Sciences]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor			
担当教員 Other Instructors	研究室指導教員		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2025	時間割番号 Course Number	-
期間 Semester	3年次2学期, 4年次通年	単位数 Number of Credits	3
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	3年次2学期～4年次
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬科学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 4910		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	4 学部専門科目(卒業論文・卒業研究関連科目, 医・歯・薬・獣5～6年科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	9 卒業研究・その他		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 薬科学・薬学総合演習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
<b>キーワード Key Words</b>			
<b>授業の目標 Course Objectives</b> 各自の研究課題の背景や進捗状況をプレゼンテーション作成ソフトなどを利用して研究室単位でのセミナーにおいて発表し、効果的なプレゼンテーション方法などを習得し、研究課題の理解を深め適切な質疑応答を行う能力を涵養することを目標とする。			
<b>到達目標 Course Goals</b> 1. 研究テーマに関する背景を理解してスライドなどにまとめることができる。 2. 得られた実験結果について、適切にスライドなどにまとめることができる。 3. 適切に理論を組み立て、論旨を明確にして、理解しやすい発表をすることができる。 4. 適切に質疑応答を行うことができる。			
<b>授業計画 Course Schedule</b> 1. 研究テーマに関する背景、実験結果、今後の展望などをスライドなどにまとめる。 2. 研究の進捗状況に関する発表を行う。 3. 発表内容に関して議論を行う。			
<b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b> 日頃から研究テーマに関連した文献を読み、スライドの作成など発表の準備を行うこと。			
<b>成績評価の基準と方法 Grading System</b> セミナーへの参加姿勢(出席状況を含む)、到達目標の達成度から総合的に評価する。なお、到達目標の達成度に関して、令和5年度以降に研究室配属された学生には別添(巻末参照)のルーブリック評価を用いる。			
<b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b>			
<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>			
<b>テキスト・教科書 Textbooks</b>			
<b>講義指定図書 Reading List</b>			
<b>参照ホームページ Websites</b>			
<b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b>			
<b>備考 Additional Information</b>			

科目名 Course Title	薬科学論文講読演習[Practice for Analysis of Pharmaceutical Articles]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor			
担当教員 Other Instructors	研究室指導教員		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2025	時間割番号 Course Number	-
期間 Semester	3年次2学期, 4年次通年	単位数 Number of Credits	3
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	3年次2学期～4年次
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬科学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 4920		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	4 学部専門科目(卒業論文・卒業研究関連科目, 医・歯・薬・獣5～6年科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	9 卒業研究・その他		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 薬科学・薬学論文購読演習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
<b>キーワード Key Words</b>			
<b>授業の目標 Course Objectives</b> 特定のテーマに関する論文を検索・入手し、内容について理解・整理後、研究室単位でのセミナーにおいて発表する。これらの活動を通じて論文の検索方法、問題点の整理、発表の方法などを習得し、知識を深め、適切な質疑応答を行う能力を涵養することを目標とする。			
<b>到達目標 Course Goals</b> 1. 特定のテーマに関する論文の検索・入手ができる。 2. 論文を読み、実験方法、結果の内容、考察および結論の導き方を理解できる。 3. 論文に記載の内容について問題点を抽出し、自分の考えを導きだすことができる。 4. 研究室単位でのセミナーにおいて論文の内容をわかりやすく人に伝えることができる。 5. 自身の発表に関して適切に質疑応答を行うことができる。 6. 他の発表者に対する疑問点などを整理し、質疑できる。			
<b>授業計画 Course Schedule</b> 1. テーマを設定して関連の論文の検索を行う。 2. 論文を読み、書かれている研究の背景、方法、結果の内容、考察および結論の導き方などを理解する。 3. 特定のテーマに関してスライドやレジメに内容をまとめて発表を行い、セミナーで内容をわかりやすく伝える。 4. 発表内容に関して議論を行う。			
<b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b> 発表する論文だけでなく、関連する論文を読むこと。スライドの作成など発表の準備を行うこと。他の発表者の発表に関してもあらかじめ配布されたスライドなどを前もって読んで予習し、発表後には内容について不明な点を復習して理解に努めること。			
<b>成績評価の基準と方法 Grading System</b> セミナーへの参加姿勢(出席状況を含む)、到達目標の達成度から総合的に評価する。なお、到達目標の達成度に関して、令和5年度以降に研究室配属された学生には別添(巻末参照)のルーブリック評価基準により評価する。			
<b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b>			
<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>			
<b>テキスト・教科書 Textbooks</b>			

<b>講義指定図書 Reading List</b>
<b>参照ホームページ Websites</b>
<b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b>
<b>備考 Additional Information</b>

科目名 Course Title	薬科学卒業研究[Graduation Research for Pharmaceutical Sciences]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor			
担当教員 Other Instructors	研究室指導教員		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2025	時間割番号 Course Number	-
期間 Semester	3年次2学期, 4年次通年	単位数 Number of Credits	15
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	3年次2学期～4年次
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬科学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 4930		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	4 学部専門科目(卒業論文・卒業研究関連科目, 医・歯・薬・獣5～6年科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	9 卒業研究・その他		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	3 薬科学・薬学卒業研究		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
<b>キーワード Key Words</b>			
<b>授業の目標 Course Objectives</b> 各自の研究課題について研究計画・方法を立案し、実験の実施・解析・考察を行う。得られた研究成果をまとめ、研究発表会において口頭発表する。これらの活動を通じて、課題解決能力、論理的な思考、質疑応答能力、研究倫理を涵養することを目標とする。			
<b>到達目標 Course Goals</b> 1. 研究テーマに関連した文献を読み、自身の研究テーマに活かすことができる。 2. 実験計画に従って実験し、結果の解析を行うことができる。 3. 実験結果を指導教員(研究チーム)と適切に情報共有できる。 4. 実験結果を考察することができる。 5. 実験結果を基に次の実験計画や実験方法を立案することができる。 6. 研究発表会において研究成果を口頭発表し、適切に質疑応答することができる。 7. 研究倫理について理解し、実践できる。			
<b>授業計画 Course Schedule</b> 1. 研究テーマに関連する文献検索を行う。 2. 実験を行い、データを集積し、その結果を解析する。 3. 実験ノートの作成や、データの整理を行う。 4. 実験結果を指導教員(研究チーム)と情報共有し、議論する。 5. 研究の問題点、方向性を確認し、研究計画を立案する。 6. 卒業研究の内容をプレゼンテーション作成ソフトのスライドにまとめる。 7. 卒業研究発表会で研究成果を口頭発表する。 8. 研究倫理(データの捏造・改ざん・盗用の禁止、データの信頼性、適切な引用、研究対象者の保護など)について学ぶ。			
<b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b> 研究に関連した文献を読むこと。実験を開始する前に、指導教員と打ち合わせ、実験ノートを作成すること。得られたデータの整理や考察を行うこと。			
<b>成績評価の基準と方法 Grading System</b> 卒業研究に対する取り組み態度(出席状況を含む)と到達目標の到達度から総合的に評価する。なお、到達目標の到達度に関して、令和5年度以降に研究室配属された学生には別添(巻末参照)のルーブリック評価基準により評価する。			
<b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b>			
<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>			

テキスト・教科書 Textbooks
講義指定図書 Reading List
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information

科目名 Course Title	卒業研究準備実習 I [Pre-training for Graduation Research I]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor			
担当教員 Other Instructors	研究室指導教員		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2025	時間割番号 Course Number	-
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	3
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 4900		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	4 学部専門科目(卒業論文・卒業研究関連科目, 医・歯・薬・獣5~6年科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	9 卒業研究・その他		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 卒業研究準備実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
<b>キーワード Key Words</b>			
<b>授業の目標 Course Objectives</b>			
各自の研究課題の背景や進捗状況をプレゼンテーション作成ソフトなどを利用して研究室単位でのセミナーにおいて発表することで、基本的なプレゼンテーション方法や資料作成技術の習得と質疑応答を行う能力を涵養することを目標とする。また、得られた研究成果をまとめ、研究発表会において口頭発表するための課題解決能力、論理的な思考、質疑応答能力、研究倫理を涵養することを目標とする。			
<b>到達目標 Course Goals</b>			
1. 研究テーマに関連した文献を読み、背景を理解してスライドなどにまとめることができる。 2. 実験計画に従って実験し、得られた実験結果について解析・考察を行い、スライドなどにまとめることができる。 3. 理論を組み立て、論旨を明確にして、発表をすることができる。 4. 質疑応答を行い、指導教員や研究チームとの情報共有ができる。 5. 研究倫理について理解し、実践できる。			
<b>授業計画 Course Schedule</b>			
1. 研究テーマに関連する文献検索を行う。 2. 実験を行い、データを集積し、その結果を解析する。 3. 実験ノートの作成や、データの整理を行う。 4. 実験結果を指導教員(研究チーム)と情報共有し、議論する。 5. 研究の問題点、方向性を確認し、研究計画を立案する。 6. 研究倫理(データの捏造・改ざん・盗用の禁止、データの信頼性、適切な引用、研究対象者の保護など)について学ぶ。 7. 研究テーマに関する背景、実験結果、今後の展望などをスライドなどにまとめる。 8. 研究の進捗状況と今後の実験計画に関する発表を行う。 9. 発表内容に関して議論を行う。			
<b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b>			
日頃から研究テーマに関連した文献を読み、スライドの作成など発表の準備を行うこと。実験を開始する前に、指導教員と打ち合わせ、実験ノートを作成すること。得られたデータの整理や考察を行うこと。			
<b>成績評価の基準と方法 Grading System</b>			
セミナーへの参加姿勢(出席状況を含む)、卒業研究に対する取り組み態度(出席状況を含む)と到達目標の到達度から総合的に評価する。なお、到達目標の到達度に関して、令和5年度以降に研究室配属された学生には別添(巻末参照)のルーブリック評価基準により評価する。			
<b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b>			

<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>
<b>テキスト・教科書 Textbooks</b>
<b>講義指定図書 Reading List</b>
<b>参照ホームページ Websites</b>
<b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b>
<b>備考 Additional Information</b> コアカリキュラムの対応項目： A(5)①1, A(5)③2, A(5)④1, 2, G(1)1-4, G(2)1-3, G(3)1-6

科目名 Course Title	卒業研究準備実習Ⅱ [Pre-training for Graduation Research II]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor			
担当教員 Other Instructors	研究室指導教員		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2025	時間割番号 Course Number	-
期間 Semester	通年	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	4
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 4900		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	4 学部専門科目(卒業論文・卒業研究関連科目, 医・歯・薬・獣5～6年科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	9 卒業研究・その他		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 卒業研究準備実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
<b>キーワード Key Words</b>			
<b>授業の目標 Course Objectives</b>			
各自の研究課題の背景や進捗状況をプレゼンテーション作成ソフトなどを利用して研究室単位でのセミナーにおいて発表することで、効果的なプレゼンテーション方法や資料作成技術の習得と研究課題を理解した質疑応答を行う能力を涵養することを目標とする。また、得られた研究成果をまとめ、研究発表会において口頭発表するための課題解決能力、論理的な思考、適切な質疑応答能力、研究倫理を涵養することを目標とする。			
<b>到達目標 Course Goals</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマに関連した文献を読み、背景を理解してスライドなどにまとめることができる。</li> <li>2. 実験計画に従って実験し、得られた実験結果について解析・考察を行い、スライドなどにまとめることができる。</li> <li>3. 理論を組み立て、論旨を明確にして、理解しやすい発表をすることができる。</li> <li>4. 適切な質疑応答を行い、指導教員や研究チームとの情報共有ができる。</li> <li>5. 研究倫理について理解し、実践できる。</li> </ol>			
<b>授業計画 Course Schedule</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマに関連する文献検索を行う。</li> <li>2. 実験を行い、データを集積し、その結果を解析する。</li> <li>3. 実験ノートの作成や、データの整理を行う。</li> <li>4. 実験結果を指導教員(研究チーム)と情報共有し、議論する。</li> <li>5. 研究の問題点、方向性を確認し、研究計画を立案する。</li> <li>6. 研究倫理(データの捏造・改ざん・盗用の禁止、データの信頼性、適切な引用、研究対象者の保護など)について学ぶ。</li> <li>7. 研究テーマに関する背景、実験結果、今後の展望などをスライドなどにまとめる。</li> <li>8. 研究の進捗状況と今後の実験計画に関する発表を行う。</li> <li>9. 発表内容に関して議論を行う。</li> </ol>			
<b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b>			
日頃から研究テーマに関連した文献を読み、スライドの作成など発表の準備を行うこと。実験を開始する前に、指導教員と打ち合わせ、実験ノートを作成すること。得られたデータの整理や考察を行うこと。			
<b>成績評価の基準と方法 Grading System</b>			
セミナーへの参加姿勢(出席状況を含む)、卒業研究に対する取り組み態度(出席状況を含む)と到達目標の到達度から総合的に評価する。なお、到達目標の到達度に関して、令和5年度以降に研究室配属された学生には別添(巻末参照)のルーブリック評価基準により評価する。			
<b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b>			

<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>
<b>テキスト・教科書 Textbooks</b>
<b>講義指定図書 Reading List</b>
<b>参照ホームページ Websites</b>
<b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b>
<b>備考 Additional Information</b> コアカリキュラムの対応項目： A(5)①1, A(5)③2, A(5)④1, 2, G(1)1-4, G(2)1-3, G(3)1-6

科目名 Course Title	薬学論文講読演習 I [Practice for Analysis of Medical and Pharmaceutical Articles I]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor			
担当教員 Other Instructors	研究室指導教員		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2025	時間割番号 Course Number	-
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	3
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 4900		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	4 学部専門科目(卒業論文・卒業研究関連科目, 医・歯・薬・獣5~6年科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	9 卒業研究・その他		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 卒業研究準備実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
<b>キーワード Key Words</b>			
<b>授業の目標 Course Objectives</b> 特定のテーマに関する論文を検索・入手し、内容について理解・整理後、研究室単位でのセミナーにおいて発表する。これらの活動を通じて論文の検索方法、問題点の整理、発表の方法などを習得し、知識を深め、適切な質疑応答を行う能力を涵養することを目標とする。			
<b>到達目標 Course Goals</b> 1. 特定のテーマに関する論文の検索・入手ができる。 2. 論文を読み、実験方法、結果の内容、考察および結論の導き方を理解できる。 3. 論文に記載の内容について問題点を抽出し、自分の考えを導き出すことができる。 4. 研究室単位でのセミナーにおいて論文の内容をわかりやすく人に伝えることができる。			
<b>授業計画 Course Schedule</b> 1. テーマを設定して関連の論文の検索を行う。 2. 論文を読み、書かれている研究の背景、方法、結果の内容、考察および結論の導き方などを理解する。 3. 特定のテーマに関してスライドやレジメに内容をまとめて発表を行い、セミナーで内容をわかりやすく伝える。 4. 発表内容に関して議論を行う。			
<b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b> 発表する論文だけでなく、関連する論文を読むこと。スライドの作成など発表の準備を行うこと。他の発表者の発表に関してあらかじめ配布されたスライドなどを前もって読んで予習し、発表後には内容について不明な点を復習して理解に努めること。			
<b>成績評価の基準と方法 Grading System</b> セミナーへの参加姿勢(出席状況を含む)、到達目標の達成度から総合的に評価する。なお、到達目標の達成度に関して、令和5年度以降に研究室配属された学生には別添(巻末参照)のルーブリック評価基準により評価する。			
<b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b>			
<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>			
<b>テキスト・教科書 Textbooks</b>			
<b>講義指定図書 Reading List</b>			

**参照ホームページ Websites**

**研究室のホームページ Websites of Laboratory**

**備考 Additional Information**

コアカリキュラムの対応項目:

A(5)①1, A(5)③2, G(1)1-4, G(2)1-3, G(3)1-6

科目名 Course Title	薬学論文講読演習Ⅱ [Practice for Analysis of Medical and Pharmaceutical Articles II]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor			
担当教員 Other Instructors	研究室指導教員		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2025	時間割番号 Course Number	-
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	4
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 4900		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	4 学部専門科目(卒業論文・卒業研究関連科目, 医・歯・薬・獣5~6年科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	9 卒業研究・その他		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 卒業研究準備実習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
<b>キーワード Key Words</b>			
<b>授業の目標 Course Objectives</b>			
特定のテーマに関する論文を検索・入手し、内容について理解・整理後、研究室単位でのセミナーにおいて発表する。これらの活動を通じて論文の検索方法、問題点の整理、発表の方法などを習得し、知識を深め、適切な質疑応答を行う能力を涵養することを目標とする。			
<b>到達目標 Course Goals</b>			
1. 特定のテーマに関する論文の検索・入手ができる。 2. 論文を読み、実験方法、結果の内容、考察および結論の導き方を理解できる。 3. 論文に記載の内容について問題点を抽出し、自分の考えを導きだすことができる。 4. 研究室単位でのセミナーにおいて論文の内容をわかりやすく人に伝えることができる。 5. 自身の発表に関して適切に質疑応答を行うことができる。			
<b>授業計画 Course Schedule</b>			
1. テーマを設定して関連の論文の検索を行う。 2. 論文を読み、書かれている研究の背景、方法、結果の内容、考察および結論の導き方などを理解する。 3. 特定のテーマに関してスライドやレジメに内容をまとめて発表を行い、セミナーで内容をわかりやすく伝える。 4. 発表内容に関して議論を行う。			
<b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b>			
発表する論文だけでなく、関連する論文を読むこと。スライドの作成など発表の準備を行うこと。他の発表者の発表に関してあらかじめ配布されたスライドなどを前もって読んで予習し、発表後には内容について不明な点を復習して理解に努めること。			
<b>成績評価の基準と方法 Grading System</b>			
セミナーへの参加姿勢(出席状況を含む)、到達目標の達成度から総合的に評価する。なお、到達目標の達成度に関して、令和5年度以降に研究室配属された学生には別添(巻末参照)のルーブリック評価基準により評価する。			
<b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b>			
<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>			
<b>テキスト・教科書 Textbooks</b>			
<b>講義指定図書 Reading List</b>			

**参照ホームページ Websites**

**研究室のホームページ Websites of Laboratory**

**備考 Additional Information**

コアカリキュラムの対応項目:

A(5)①1, A(5)③2, G(1)1-4, G(2)1-3, G(3)1-6

科目名 Course Title	薬学論文講読演習Ⅲ[Practice for Analysis of Medical and Pharmaceutical Articles III]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor			
担当教員 Other Instructors	研究室指導教員		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2025	時間割番号 Course Number	-
期間 Semester	5年次2学期, 6年次通年	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	5年次2学期～6年次
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 4920		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	4 学部専門科目(卒業論文・卒業研究関連科目, 医・歯・薬・獣5～6年科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	9 卒業研究・その他		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 薬科学・薬学論文講読演習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
<b>キーワード Key Words</b>			
<b>授業の目標 Course Objectives</b> 特定のテーマに関する論文を検索・入手し、内容について理解・整理後、研究室単位でのセミナーにおいて発表する。これらの活動を通じて論文の検索方法、問題点の整理、発表の方法などを習得し、知識を深め、適切な質疑応答を行う能力を涵養することを目標とする。			
<b>到達目標 Course Goals</b> 1. 特定のテーマに関する論文の検索・入手ができる。 2. 論文を読み、実験方法、結果の内容、考察および結論の導き方を理解できる。 3. 論文に記載の内容について問題点を抽出し、自分の考えを導き出すことができる。 4. 研究室単位でのセミナーにおいて論文の内容をわかりやすく人に伝えることができる。 5. 自身の発表に関して適切に質疑応答を行うことができる。 6. 他の発表者に対する疑問点などを整理し、質疑できる。			
<b>授業計画 Course Schedule</b> 1. テーマを設定して関連の論文の検索を行う。 2. 論文を読み、書かれている研究の背景、方法、結果の内容、考察および結論の導き方などを理解する。 3. 特定のテーマに関してスライドやレジメに内容をまとめて発表を行い、セミナーで内容をわかりやすく伝える。 4. 発表内容に関して議論を行う。			
<b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b> 発表する論文だけでなく、関連する論文を読むこと。スライドの作成など発表の準備を行うこと。他の発表者の発表に関しあらかじめ配布されたスライドなどを前もって読んで予習し、発表後には内容について不明な点を復習して理解に努めること。			
<b>成績評価の基準と方法 Grading System</b> セミナーへの参加姿勢(出席状況を含む)、到達目標の達成度から総合的に評価する。なお、到達目標の達成度に関して、令和5年度以降に研究室配属された学生には別添(巻末参照)のルーブリック評価基準により評価する。			
<b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b>			
<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>			
<b>テキスト・教科書 Textbooks</b>			

**講義指定図書 Reading List**

**参照ホームページ Websites**

**研究室のホームページ Websites of Laboratory**

**備考 Additional Information**

コアカリキュラムの対応項目：

A(5)①1, A(5)③2, G(1)1-4, G(2)1-3, G(3)1-6

科目名 Course Title	薬学総合演習[Comprehensive Practice of Medical and Pharmaceutical Sciences]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor			
担当教員 Other Instructors	研究室指導教員		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2025	時間割番号 Course Number	-
期間 Semester	5年次2学期, 6年次通年	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	5年次2学期～6年次
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 4910		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	4 学部専門科目(卒業論文・卒業研究関連科目, 医・歯・薬・獣5～6年科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	9 卒業研究・その他		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 薬科学・薬学総合演習		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
<b>キーワード Key Words</b>			
<b>授業の目標 Course Objectives</b> 各自の研究課題の背景や進捗状況をプレゼンテーション作成ソフトなどを利用して研究室単位でのセミナーにおいて発表し、効果的なプレゼンテーション方法を習得し、研究課題の理解を深め適切な質疑応答を行う能力を涵養することを目標とする。			
<b>到達目標 Course Goals</b> 1. 研究テーマに関する背景を理解してスライドなどにまとめることができる。 2. 得られた実験結果について、適切にスライドなどにまとめることができる。 3. 適切に理論を組み立て、論旨を明確にして、理解しやすい発表をすることができる。 4. 適切に質疑応答を行うことができる。			
<b>授業計画 Course Schedule</b> 1. 研究テーマに関する背景、実験結果、今後の展望などをスライドなどにまとめる。 2. 研究の進捗状況に関する発表を行う。 3. 発表内容に関して議論を行う。			
<b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b> 日頃から研究テーマに関連した文献を読み、スライドの作成など発表の準備を行うこと。			
<b>成績評価の基準と方法 Grading System</b> セミナーへの参加姿勢(出席状況を含む)、到達目標の達成度から総合的に評価する。なお、到達目標の達成度に関して、令和5年度以降に研究室配属された学生には別添(巻末参照)のルーブリック評価を用いる。			
<b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b>			
<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>			
<b>テキスト・教科書 Textbooks</b>			
<b>講義指定図書 Reading List</b>			
<b>参照ホームページ Websites</b>			
<b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b>			

**備考 Additional Information**

コアカリキュラムの対応項目：

A(5)①1, A(5)③2, A(5)④1, 2, G(1)1-4, G(2)1-3, G(3)1-6

科目名 Course Title	薬学卒業研究[Graduation Research for Medical and Pharmaceutical Sciences]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor			
担当教員 Other Instructors	研究室指導教員		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year	2025	時間割番号 Course Number	-
期間 Semester	5年次2学期, 6年次通年	単位数 Number of Credits	8
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	5年次2学期～6年次
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 4930		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	4 学部専門科目(卒業論文・卒業研究関連科目, 医・歯・薬・獣5～6年科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	9 卒業研究・その他		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	3 薬科学・薬学卒業研究		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
<b>キーワード Key Words</b>			
<b>授業の目標 Course Objectives</b> 各自の研究課題について研究計画・方法を立案し、実験の実施・解析・考察を行う。得られた研究成果をまとめ、研究発表会において口頭発表する。これらの活動を通じて、課題解決能力、論理的な思考、質疑応答能力、研究倫理を涵養することを目標とする。			
<b>到達目標 Course Goals</b> 1. 研究テーマに関連した文献を読み、自身の研究テーマに活かすことができる。 2. 実験計画に従って実験し、結果の解析を行うことができる。 3. 実験結果を指導教員(研究チーム)と適切に情報共有できる。 4. 実験結果を考察することができる。 5. 実験結果を基に次の実験計画や実験方法を立案することができる。 6. 研究発表会において研究成果を口頭発表し、適切に質疑応答することができる。 7. 研究倫理について理解し、実践できる。 8. 研究成果を学術論文等によって発表することを目標とする。			
<b>授業計画 Course Schedule</b> 1. 研究テーマに関連する文献検索を行う。 2. 実験を行い、データを集積し、その結果を解析する。 3. 実験ノートの作成や、データの整理を行う。 4. 実験結果を指導教員(研究チーム)と情報共有し、議論する。 5. 研究の問題点、方向性を確認し、研究計画を立案する。 6. 卒業研究の内容をプレゼンテーション作成ソフトのスライドにまとめる。 7. 卒業研究発表会で研究成果を口頭発表する。 8. 研究倫理(データの捏造・改ざん・盗用の禁止、データの信頼性、適切な引用、研究対象者の保護など)について学ぶ。			
<b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b> 研究に関連した文献を読むこと。実験を開始する前に、指導教員と打ち合わせ、実験ノートを作成すること。得られたデータの整理や考察を行うこと。			
<b>成績評価の基準と方法 Grading System</b> 卒業研究に対する取り組み態度(出席状況を含む)と到達目標の到達度から総合的に評価する。なお、到達目標の到達度に関して、令和5年度以降に研究室配属された学生には別添(巻末参照)のルーブリック評価基準により評価する。			

<b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b>
<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>
<b>テキスト・教科書 Textbooks</b>
<b>講義指定図書 Reading List</b>
<b>参照ホームページ Websites</b>
<b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b>
<b>備考 Additional Information</b> コアカリキュラムの対応項目： A(5)①1, A(5)③2, G(1)1-4, G(2)1-3, G(3)1-6

科目名 Course Title	海外留学(短期)[Study Abroad (short-term)]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor			
担当教員 Other Instructors	学部長		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year		時間割番号 Course Number	-
期間 Semester	集中	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科・薬科学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 9990		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	9 その他		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	9 卒業研究・その他		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	9 その他		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information	進級及び卒業に必要な単位に算入不可		
<b>キーワード Key Words</b>			
<b>授業の目標 Course Objectives</b> それぞれの専門知識を国際的な場で生かす能力と、課題解決力等を社会に結びつける能力を涵養することを目的とする。異文化交流の体験を通してコミュニケーション力を向上させ、将来のキャリアパスの発見に活かす。			
<b>到達目標 Course Goals</b> 本科目の履修により 1.世界における現在の自分の位置を確認することができる。 2.世界における現在の自分の研究の位置・意識を確認することができる。 3.海外で研究を行うためのコミュニケーション力を向上できる。 4.留学先での研究文化・哲学・環境について説明できる。 5.海外の学生がどのようなキャリアパスを考えているのかを理解できる。 6.海外の研究者とのネットワークを構築できる。			
<b>授業計画 Course Schedule</b> 1.海外の大学研究機関に在籍する。 2.留学報告書を作成する。			
<b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b> 受け入れ先の指針によって授業を進める。本科目履修には一定以上の英語能力が必要である。可能な英語学習の機会を用いてコミュニケーション能力を向上させることが必須の準備である。さらに、自分の専門分野の世界的動向を把握しておくこと。			
<b>成績評価の基準と方法 Grading System</b> 受入先からの評価書等(35%)及び本人が提出する報告書(65%)により評価する。			
<b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b>			
<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>			
<b>テキスト・教科書 Textbooks</b>			
<b>講義指定図書 Reading List</b>			
<b>参照ホームページ Websites</b>			
<b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b>			
<b>備考 Additional Information</b>			

本科目の履修には、(1)指導教員の書面による明確な同意、(2)学生教育研究災害傷害保険付帯賠償保険(付帯賠償)及び海外旅行保険の加入が必要である。(1)(2)共に海外研究に先立って得ておくこと。

海外の大学・研究所等で行われているプロジェクト(サマースクール、スプリング・スクール、短期語学研修、海外調査、海外実習等)に一定期間(1週間以上の期間)の留学を対象とする。

コアカリキュラムの対応項目:

A(6)、A(8)、A(10)

科目名 Course Title	海外留学(長期)[Study Abroad (long-term)]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor			
担当教員 Other Instructors	学部長		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year		時間割番号 Course Number	-
期間 Semester	集中	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科・薬科学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 9990		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	9 その他		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	9 卒業研究・その他		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	9 その他		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information	進級及び卒業に必要な単位に算入不可		
<b>キーワード Key Words</b>			
<b>授業の目標 Course Objectives</b>			
それぞれの専門知識を国際的な場で生かす能力と、課題解決力等を社会に結びつける能力を涵養することを目的とする。異文化交流の体験を通してコミュニケーション力を向上させ、将来のキャリアパスの発見に活かす。			
<b>到達目標 Course Goals</b>			
本科目の履修により			
1.世界における現在の自分の位置を確認することができる。			
2.世界における現在の自分の研究の位置・意識を確認することができる			
3.海外で研究を行うためのコミュニケーション力を向上できる。			
4.留学先での研究文化・哲学・環境について説明できる。			
5.海外の学生がどのようなキャリアパスを考えているのかを理解できる。			
6.海外の研究者とのネットワークを構築できる。			
<b>授業計画 Course Schedule</b>			
1.海外の大学研究機関に在籍する。			
2.留学報告書を作成する。			
<b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b>			
受け入れ先の指針によって授業を進める。本科目履修には一定以上の英語能力が必要である。可能な英語学習の機会を用いてコミュニケーション能力を向上させることが必須の準備である。さらに、自分の専門分野の世界的動向を把握しておくこと。			
<b>成績評価の基準と方法 Grading System</b>			
受入先からの評価書等(35%)及び本人が提出する報告書(65%)により評価する。			
<b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b>			
<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>			
<b>テキスト・教科書 Textbooks</b>			
<b>講義指定図書 Reading List</b>			
<b>参照ホームページ Websites</b>			
<b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b>			
<b>備考 Additional Information</b>			

本科目の履修には、(1)指導教員の書面による明確な同意、(2)学生教育研究災害傷害保険付帯賠償保険(付帯賠償)及び海外旅行保険の加入が必要である。(1)(2)共に海外研究に先立って得ておくこと。

本学もしくは本学部と大学間(部局間)交流協定を締結している大学等において1セメスター以上の期間を有する留学を対象とする。

コアカリキュラムの対応項目:

A(6)、A(8)、A(10)

科目名 Course Title	ボランティア[Volunteer Work]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	学部長		
担当教員 Other Instructors	各研究室教員		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year		時間割番号 Course Number	-
期間 Semester	集中	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科・薬科学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 9990		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	9 その他		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	9 卒業研究・その他		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	9 その他		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information	進級及び卒業に必要な単位に算入不可		
キーワード Key Words			
授業の目標 Course Objectives	ボランティア活動を通じ、様々な人々と交流すること、地域社会に貢献すること、そして社会問題や課題の解決に自発的・主体的な行動をとることで、授業・実習で得られる知識とは違った新たな知見や価値観を発見する。		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティア活動を通じて、社会貢献のあり方、意義・必要性の理解に基づいて行動できる。</li> <li>2. チームワークの大切さを修得し、説明できる。</li> <li>3. 年齢の異なる人たちとコミュニケーションがとれる。</li> <li>4. 地域社会とは何かを実践的に学び、社会の仕組みを修得し、説明できる。</li> <li>5. 社会人としての基礎的マナーを学び、それを踏まえて行動できる。</li> </ol>		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 指導教員より派遣に先立って、受入れ先での対応マナー、安全確保及び保険加入の指導を行う。</li> <li>2. 受入先の指針に従い、ボランティア活動を行う。</li> <li>3. 活動報告および指導教員からの事後指導</li> </ol>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	自分自身で参加したいボランティア活動に関する予備調査、活動中の活動記録、終了後の報告書作成を必要とする。		
成績評価の基準と方法 Grading System	受入先からの活動証明書及び本人が提出する報告書により可否を評価する。		
有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

ボランティア活動時間は30時間以上

コアカリキュラムの対応項目：

A(6)、A(8)、A(10)

科目名 Course Title	インターンシップ[Internship]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	学部長		
担当教員 Other Instructors	各研究室教員		
科目種別 Course Type	薬学部専門科目		
開講年度 Year		時間割番号 Course Number	-
期間 Semester	集中	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	
対象学科・クラス Eligible Department/Class	薬学科・薬科学科		
ナンバリングコード Numbering Code	PHA 9990		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	PHA Pharmaceutical Sciences		
開講部局	薬学部		
レベルコード・レベル Level Code, Level	9 その他		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	9 卒業研究・その他		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	9 その他		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Courses taught by teachers with practical experience	0 該当しない		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information	進級及び卒業に必要な単位に算入不可		
<b>キーワード Key Words</b>			
<b>授業の目標 Course Objectives</b> 薬学に関連した専門領域にて、一定期間のプロジェクト参加を含む就業・研究体験をすることにより、専門の学問領域が実際に活用される現場と学部における勉学・研究との関係や意義を深め、専門知識を創造的且つ実践的に活かせる能力と、それを実社会へ活用する能力を持った人材を育成する。			
<b>到達目標 Course Goals</b> 1. インターンシップ参加の心構えを身につけ、それを踏まえて行動できる。 2. 実社会の現状と自分の専門領域との関わりを説明できる。 3. インターンシップを通じて薬剤師や研究者の社会的責任を自覚し、また自らの就業意識を高め、それを踏まえて行動できる。			
<b>授業計画 Course Schedule</b> 1. 指導教員からの指導により、インターンシップ参加の心構えを身につける。 2. 受入先の指導の下、インターンシップにおいて実社会の現状と自分の専門領域との関わりを把握する。 3. 活動記録書、報告書を作成する。			
<b>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</b> 1. 指導教員より派遣に先立って、受入れ先での対応マナー、安全確保及び保険加入の指導を行う。 2. 受入先の指針に従いインターンシップを行う。 3. 体験報告を行い、指導教員から事後指導を受ける。  なお、派遣先に関する予備調査、インターンシップ中の活動記録、終了後の報告書作成を必要とする。			
<b>成績評価の基準と方法 Grading System</b> 受入先からの評価書及び本人が提出する報告書により可否で評価する。			
<b>有する実務経験と授業への活用 Practical experience and utilization for classes</b>			
<b>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</b>			
<b>テキスト・教科書 Textbooks</b>			
<b>講義指定図書 Reading List</b>			
<b>参照ホームページ Websites</b>			
<b>研究室のホームページ Websites of Laboratory</b>			
<b>備考 Additional Information</b>			

実働5日間(30時間:6時間×5日間)以上。

コアカリキュラムの対応項目:

A(6)、A(8)、A(10)

薬学部専門科目のうちルーブリック評価を採用する授業科目における成績評価基準について

薬学部専門科目のうちルーブリック評価を採用する授業科目における成績評価は、実習科目における取扱いに準じ、「A+」、「A-」、「B」、「C」、「D」、「F」の6段階で評価する。

- (1) 当該授業科目の成績は、各評価項目における評定値の平均により、以下のとおりとする。
  - ① 平均値が4.0以上の場合は、「A+」と評価する。
  - ② 平均値が3.5以上4.0未満の場合は、「A-」と評価する。
  - ③ 平均値が2.5以上3.5未満の場合は、「B」と評価する。
  - ④ 平均値が1.5以上2.5未満の場合は、「C」と評価する。
  - ⑤ 平均値が1.5未満の場合は、「D」（不合格）と評価する。
  
- (2) 授業への出席回数が不足している等、学修成果を示す証拠が無い場合は「F」と評価する。

	5	4	3	2	1
文献整理能力	自発的に特定のテーマに関する複数の文献を整理して問題点（未解決な事象）の抽出や課題に対する答えを導きだせる。	基本的には自発的に、必要に応じて研究指導者の助言を得て特定のテーマに関する複数の文献を整理して問題点（未解決な事象）の抽出や課題に対する答えを導きだせる。	研究指導者の基本的な指導のもとで特定のテーマに関する複数の文献を整理して問題点（未解決な事象）の抽出や課題に対する答えを導きだせる。	研究指導者の綿密な指導のもとで特定のテーマに関する複数の文献を整理して問題点（未解決な事象）の抽出や課題に対する答えを導きだせる。	特定のテーマに関する複数の文献を整理して問題点（未解決な事象）の抽出や課題に対する答えを導きだすことができない。
研究計画能力	自発的に特定のテーマに関する実験方法の選択や研究計画をたてることができる。	基本的には自発的に、必要に応じて研究指導者の助言を得て特定のテーマに関する実験方法の選択や研究計画をたてることができる。	研究指導者の基本的な指導のもとで特定のテーマに関する実験方法の選択や研究計画をたてることができる。	研究指導者の綿密な指導のもとで特定のテーマに関する実験方法の選択や研究計画をたてることができる。	特定のテーマに関する実験方法の選択や研究計画をたてることができない。
論理構成能力	得られた結果について自発的に理論の組み立てや論旨の明確さを理解しまとめることができる。	基本的には自発的に、必要に応じて研究指導者の助言を得て得られた結果について理論の組み立てや論旨の明確さを理解しまとめることができる。	研究指導者の基本的な指導のもとで得られた結果について理論の組み立てや論旨の明確さを理解しまとめることができる。	研究指導者の綿密な指導のもとで得られた結果について理論の組み立てや論旨の明確さを理解しまとめることができる。	得られた結果について理論の組み立てや論旨の明確さを理解しまとめることができない。
口頭発表能力	自発的に資料を作成し、適切な発表形式および理解しやすい発表をすることができる。	基本的には自発的に、必要に応じて研究指導者の助言を得て資料を作成し、適切な発表形式および理解しやすい発表をすることができる。	研究指導者の基本的な指導のもとで資料を作成し、適切な発表形式および理解しやすい発表をすることができる。	研究指導者の綿密な指導のもとで資料を作成し、適切な発表形式および理解しやすい発表をすることができる。	資料を作成し、適切な発表形式および理解しやすい発表をすることができない。
質疑応答能力	自発的に発展的な質疑応答を行うことができる。	自発的に基本的な質疑応答を行うことができる。	発言を求められれば基本的な質疑応答を行うことができる。	研究指導者の助言を得て基本的な質疑応答を行うことができる。	研究指導者の助言を得ても適切な質疑応答を行うことができない。

	5	4	3	2	1
文献検索能力	特定のテーマに関する文献について、自発的に、関連分野も含め幅広く検索・入手ができる。	特定のテーマに関する文献に必要に応じて、自発的に、必要に応じて研究指導者の助言を得て、関連分野も含め幅広く検索・入手ができる。	特定のテーマに関する文献について、研究指導者の基本的な指導のもと、関連分野も含め幅広く検索・入手ができる。	特定のテーマに関する文献について、研究指導者の綿密な指導のもと、関連分野も含め幅広く検索・入手ができる。	特定のテーマに関する文献について、研究指導者の指導のもとでも、検索・入手をすることができない。
文献読解能力	文献を読み、その研究の方法、考察および結論の導き方について、自力で理解することができる。	文献を読み、その研究の方法、考察および結論の導き方について、必要に応じて研究指導者の助言を得て、理解することができる。	文献を読み、その研究の方法、考察および結論の導き方について、研究指導者の基本的な指導のもとで理解することができる。	文献を読み、その研究の方法、考察および結論の導き方について、研究指導者の綿密な指導のもとで理解することができる。	研究指導者の綿密な指導のもとでも、文献を読み、その研究の方法、考察および結論の導き方について理解することができない。
文献紹介能力	自力で文献の内容を理解し、わかりやすく人に伝えることができる。	必要に応じて研究指導者の助言を得て文献の内容を理解し、わかりやすく人に伝えることができる。	研究指導者の基本的な指導のもとで文献の内容を理解し、わかりやすく人に伝えることができる。	研究指導者の綿密な指導のもとで文献の内容を理解し、人に伝えることができる。	研究指導者の綿密な指導のもとでも、文献の内容を理解し、人に伝えることができない。
文献整理・応用能力	特定のテーマに関する複数の文献の整理や問題点の抽出、実験方法の選択をすることが自力でできる。	研究指導者の助言を得て特定のテーマに関する複数の文献の整理や問題点の抽出、実験方法の選択をすることができる。	研究指導者の基本的な指導のもとで特定のテーマに関する複数の文献の整理や問題点の抽出、実験方法の選択をすることができる。	研究指導者の綿密な指導のもとで特定のテーマに関する複数の文献の整理や問題点の抽出、実験方法の選択をすることができる。	研究指導者の綿密な指導のもとでも特定のテーマに関する複数の文献の整理や問題点の抽出、実験方法の選択をすることができない。
質疑応答能力	疑問点等を整理し、発展的な内容について自発的に質問された内容についての的確に回答することができる。	疑問点等を整理し、基本的な内容について自発的に質問された内容についての的確に回答することができる。	発言を求められたときは疑問点等を整理し、基本的な内容について質問するほか、質問された内容について的確に回答することができる。	研究指導者の助言があれば基本的な内容について質問された内容についての的確に回答することができる。	研究指導者の綿密な指導のもとでも基本的な内容について質問された内容について基本的な回答もできない。

	5	4	3	2	1
研究テーマに関連した緒論を書く能力	専門分野の研究背景の詳細を歴史的経緯や関連分野の研究を含めて総括的かつ明快に説明することができる。	専門分野の研究背景の詳細を明快に説明することができる。	専門分野の研究背景の概要に詳しい説明ができる。	専門分野の研究背景の概要について説明することができる。	専門分野の研究背景について十分な説明をすることができない。
研究計画を立てて、実験と文献検索を行う能力	研究計画の立案や関連文献の検索を自力で行うことができ、高度な技術を伴う実験を行うことができる。	研究指導者の基本的な指導のもとで研究計画の立案や関連文献の検索を行うことができ、高度な技術を伴う実験を行うことができる。	研究指導者の基本的な指導のもとで研究計画の立案や関連文献の検索を行うことができ、基本的な実験を行うことができる。	研究指導者の綿密な指導があれば研究計画の立案や関連文献の検索を行うことができ、基本的な実験を行うことができる。	研究指導者の綿密な指導のもとでも研究計画を立案することとができず、関連文献の検索もできない。実験能力が必要なしレベルに達していない。
実験あるいは文献検索の結果を整理して考察する能力	実験結果と研究テーマに関わる文献検索の結果を整理して統合的に理解し、自力で考察する能力を持つ。	実験結果と研究テーマに関わる文献検索の結果を整理して統合的に理解し、研究指導者の助言を得て自発的に考察する能力を持つ。	研究指導者の基本的な指導のもとで実験結果と研究テーマに関わる文献検索の結果を整理して統合的に理解し、考察する能力を持つ。	研究指導者の綿密な指導がなければ実験結果と研究テーマに関わる文献検索の結果を整理して統合的に理解し、考察することができる。	研究指導者の綿密な指導のもとでも実験の結果や文献検索として調べた結果を整理して考察することができない。
研究および考察内容を論文として纏める能力	自発的に考察内容をまとめ、自力で卒業論文を作成することができる。	研究指導者の助言を得れば自発的に考察内容をまとめ、卒業論文を作成することができる。	研究指導者の基本的な指導のもとで考察内容をまとめ、卒業論文を作成することができる。	研究指導者の綿密な指導がなければ考察内容をまとめ、卒業論文を作成することができる。	研究指導者の綿密な指導のもとでも考察内容をまとめ、卒業論文を作成することができない。
論文の内容を学内で口頭発表する能力	専門的な知識を持たない聴衆にもわかりやすい発表をすることで、自発的に発表をすることで、質疑応答において議論することができる。	専門的な知識を持たない聴衆にもわかりやすい発表をすることができ、質疑応答において質問された内容について返答できる。	専門的な知識を有する聴衆であれば理解できる口頭発表を行うことが出来、質疑応答において質問された内容について返答できる。	専門的な知識を有する聴衆であれば理解できる口頭発表を行うことが出来、最低限の質疑応答をする能力を持つ。	専門的な知識を有する聴衆でも理解が困難な発表しかすることが出来ず、質疑応答もできない。
学術雑誌に発表する能力	研究指導者の基本的な指導のもとで学術雑誌に投稿し、受理されるレベルの論文を作成することができる。	研究指導者の綿密な指導のもとで学術雑誌に投稿し、受理されるレベルの論文を作成することができる。	研究指導者の基本的な指導のもとで学術論文の図やテキストの一部を作成することができる。	研究指導者の綿密な指導のもとで学術論文の図やテキストの一部を作成することができる。	研究指導者の綿密な指導のもとでも学術論文に掲載できるような内容の図やテキストを作成することが出来ない。

卒業研究準備実習Ⅰ,Ⅱ

	5	4	3	2	1
論理的配慮	研究における倫理上の問題について列挙でき、精査・考慮して適切な対応方法を考案できている。	研究における倫理上の問題について列挙でき、精査・考慮している。	研究における倫理上の問題について列挙でき、精査・考慮しているが、不十分なところがある。	研究における倫理上の問題について列挙できるが、精査・考慮していない。	研究における倫理上の問題について列挙できない。
コミュニケーション	報告・連絡・相談の重要性を理解し、適切なタイミングに実施することができ、また自らの考察等の主張を伝えられ、かつ聞き手の質問に対応できる。	報告・連絡・相談の重要性を理解し、適切なタイミングに実施することができ、また自らの考察等の主張を伝えられる。	報告・連絡・相談の重要性を理解しているが、実施することができ、不十分なところがある。	報告・連絡・相談の重要性を理解しているが、実施できていない。	報告・連絡・相談の重要性を理解していない。
発表の内容	発表内容の分析(文献等からの情報収集を含む)・理論性ともに十分に、考察等において中心となる主張をわかりやすく明示している。	発表内容の分析(文献等からの情報収集を含む)・理論性を伴っており、考察等において中心となる主張を明示している。	発表内容は、理論性を伴って考察等において中心となる主張を明示しているが、分析(文献等からの情報収集を含む)は不十分なところがある。	発表内容は、考察等において中心となる主張はおおよそ明示されているが、分析(文献等からの情報収集を含む)・理論性に乏しい。	発表内容の分析(文献等からの情報収集を含む)が不十分に理論性に乏しく、考察等において中心となる主張も明示されていない。
スライドの構成	適切な構成であり、十分かつわかりやすい視覚資料(結果からの考察等)を含み、それらについての理解も十分である。また明確にその資料を説明している。	十分でわかりやすい視覚資料(結果からの考察等)を含み、それらについての理解も十分である。また明確にその資料を説明している。	十分でわかりやすい視覚資料(結果からの考察等)を含み、それらについての理解も説明しているが、不十分なところがある。	十分な視覚資料(結果からの考察等)を含み、それらについての理解はしているが、説明できていない。	視覚資料(結果からの考察等)が不十分であり、それらについての理解もしていない。
プレゼンテーション	十分な声量で話しており、研究過程の理解も十分である。聴衆とのアイコンタクトをとりながら発表内容を分かりやすく、かつ聞き手が理解できるように話している。	十分な声量で話しており、研究過程の理解も十分である。発表内容を分かりやすく、かつ聞き手が理解できるように話している。	十分な声量で話しており、研究過程の理解もしている。また発表内容を聞き手が理解できるように話そうとしているが不十分なところがある。	十分な声量で話しており、研究過程の理解はしているが、聞き手が発表内容について理解しにくい。	発表が聞こえにくく、自身の研究過程の理解が不十分で、聞き手も発表内容の理解がしにくい。

薬学論文講読演習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ 5 年次用Ⅲ 6 年次用

	5	4	3	2	1
文献検索	自発的に特定のテーマに関する文献について、関連分野も含め幅広く検索・入手ができる。	必要に応じて研究指導者の助言を得て、特定のテーマに関する文献について、関連分野も含め幅広く検索・入手ができる。	研究指導者の基本的な指導のもとで、特定のテーマに関する文献について、関連分野も含め幅広く検索・入手ができる。	研究指導者の綿密な指導のもとで、特定のテーマに関する文献について、関連分野も含め幅広く検索・入手ができる。	研究指導者の綿密な指導のもとでも、特定のテーマに関する文献について、検索・入手をすることができない。
文献読解	自力で文献を読み、その研究の方法、考察および結論の導き方について、理解することができる。	必要に応じて研究指導者の助言を得て、文献を読み、その研究の方法、考察および結論の導き方について、理解することができる。	研究指導者の基本的な指導のもとで、文献を読み、その研究の方法、考察および結論の導き方について、理解することができる。	研究指導者の綿密な指導のもとで、文献を読み、その研究の方法、考察および結論の導き方について、理解することができる。	研究指導者の綿密な指導のもとでも、文献を読み、その研究の方法、考察および結論の導き方について理解することができない。
文献紹介	自力で文献の内容を理解し、わかりやすく人に伝えることができる。	必要に応じて研究指導者の助言を得て、文献の内容を理解し、わかりやすく人に伝えることができる。	研究指導者の基本的な指導のもとで、文献の内容を理解し、わかりやすく人に伝えることができる。	研究指導者の綿密な指導のもとで、文献の内容を理解し、人に伝えることができる。	研究指導者の綿密な指導のもとでも、文献の内容を理解し、人に伝えることができない。
文献整理・応用	自力で特定のテーマに関する複数の文献の整理や問題点の抽出、実験方法の選択をすることができ。	必要に応じて研究指導者の助言を得て、特定のテーマに関する複数の文献の整理や問題点の抽出、実験方法の選択をすることができ。	研究指導者の基本的な指導のもとで、特定のテーマに関する複数の文献の整理や問題点の抽出、実験方法の選択をすることができ。	研究指導者の綿密な指導のもとで、特定のテーマに関する複数の文献の整理や問題点の抽出、実験方法の選択をすることができ。	研究指導者の綿密な指導のもとでも、特定のテーマに関する文献の整理や問題点の抽出、実験方法の選択をすることができない。
質疑応答	自力で疑問点等を整理し、発展的な内容について自発的に質問することができ。また質問された内容についての確かな応答をすることができ。	自力で疑問点等を整理し、基本的な内容について自発的に質問することができ。また質問された内容についての確かな応答をすることができ。	発言を求められた時は疑問点を整理し、基本的な内容について質問することができ。また質問された内容について応答することができる。	研究指導者の助言のもと、基本的な内容について質問された内容について基本的な応答をすることができ。	研究指導者の綿密な指導のもとでも、基本的な内容について質問された内容について基本的な応答もできない。

	5	4	3	2	1
文献整理	自発的に特定のテーマに関する複数の文献を整理して問題点（未解決な事象）の抽出や課題に対する答えを導きだせる。	必要に応じて研究指導者の助言を得て、特定のテーマに関する複数の文献を整理して問題点（未解決な事象）の抽出や課題に対する答えを導きだせる。	研究指導者の指導のもとで、特定のテーマに関する複数の文献を整理して問題点（未解決な事象）の抽出や課題に対する答えを導きだせる。	研究指導者の綿密な指導のもとで、特定のテーマに関する複数の文献を整理して問題点（未解決な事象）の抽出や課題に対する答えを導きだせる。	研究指導者の綿密な指導のもとでも、特定のテーマに関する複数の文献を整理して問題点（未解決な事象）の抽出や課題に対する答えを導きだせる。
研究計画	自発的に特定のテーマに関する実験方法の選択や研究計画をたてることができる。	必要に応じて研究指導者の助言を得て、特定のテーマに関する実験方法の選択や研究計画をたてることができる。	研究指導者の基本的な指導のもとで、特定のテーマに関する実験方法の選択や研究計画をたてることができる。	研究指導者の綿密な指導のもとで、特定のテーマに関する実験方法の選択や研究計画をたてることができる。	研究指導者の綿密な指導のもとでも、特定のテーマに関する実験方法の選択や研究計画をたてることができる。
論理構成	得られた結果について自発的に理論の組み立てや論旨の明確さを理解し、まとめることができる。	必要に応じて研究指導者の助言を得て、得られた結果について理論の組み立てや論旨の明確さを理解し、まとめることができる。	研究指導者の基本的な指導のもとで、得られた結果について理論の組み立てや論旨の明確さを理解し、まとめることができる。	研究指導者の綿密な指導のもとで、得られた結果について理論の組み立てや論旨の明確さを理解し、まとめることができる。	研究指導者の綿密な指導のもとでも、得られた結果について理論の組み立てや論旨の明確さを理解し、まとめることができる。
プレゼンテーション	自発的に適切な発表の形式で、かつ十分な声量が話している。また聞き手が理解しやすい発表をしている。	必要に応じて研究指導者の助言を得て、適切な発表の形式で、かつ十分な声量が話している。また聞き手が理解しやすい発表をしている。	研究指導者の基本的な指導のもとで、適切な発表の形式で、かつ十分な声量が話している。また聞き手が理解しやすい発表をしている。	研究指導者の綿密な指導のもとで、適切な発表の形式で、かつ十分な声量が話している。また聞き手が理解しやすい発表をしている。	研究指導者の綿密な指導のもとでも、適切な発表形式および聞き手が理解しやすい発表をすることができる。
質疑応答	自発的に適切な質疑応答を行うことができる。	自発的に基本的な質疑応答を行うことができる。	発言を求められれば基本的な質疑応答を行うことができる。	研究指導者の助言を得て、基本的な質疑応答を行うことができる。	研究指導者の助言を得ても、基本的な質疑応答を行うことができる。

	5	4	3	2	1
倫理的配慮	研究における倫理上の問題について精査・考慮して適切な対応方法を提案し、実践できる。	研究における倫理上の問題について精査・考慮して対応方法について提案できる。	研究における倫理上の問題について精査・考慮している。	研究における倫理上の問題について精査・考慮しているが不十分などところがある。	研究における倫理上の問題について列挙できないが、精査・考慮していない。
コミュニケーション	報告・連絡・相談を適切に行うことができる。また効果的に自らの考察等の主張を伝えられ、かつ聞き手の反応に気を配りながら的確に質問に対応できる。	報告・連絡・相談を適切に行うことができる。また自らの考察等の主張を伝えられ、かつ聞き手の質問に的確に対応できる。	報告・連絡・相談を行うことができ、自らの考察等の主張を伝えられ、聞き手の基本的な質問への回答ができる。	報告・連絡・相談を行うことができ、自らの考察等の主張を伝えられ、聞き手の質問への対応は不十分などところがある。	報告・連絡・相談が不十分で、自らの考察等の主張を伝えられない。
発表の内容	発表内容の分析(文献等からの情報収集を含む)・理論性ともに十分に、考察等において中心となる主張を明示しており、かつ理論と明確に結び付けられている。	発表内容の分析(文献等からの情報収集を含む)・理論性ともに十分にあり、考察等において中心となる主張は明示されており、分析(文献等からの情報収集を含む)は十分とはいえないところがある。	発表内容は、理論性は十分であり、考察等において中心となる主張は明示されているが、分析(文献等からの情報収集を含む)は十分とはいえないところがある。	発表内容は、考察等において中心となる主張はおおよそ明示されているが、分析(文献等からの情報収集を含む)・理論性はまだ不十分である。	発表内容の分析(文献等からの情報収集を含む)が不十分で理論性に乏しく、考察等において中心となる主張も明示されていない。
スライドの構成	適切な構成であり、十分かつわかりやすい視覚資料(結果からの考察等)を含み、その資料を明確かつ効果的に説明をしている。	適切な構成であり、十分かつわかりやすい視覚資料(結果からの考察等)を含み、明確にその資料を説明している。	十分でわかりやすい視覚資料(結果からの考察等)を含み、適宜その資料を説明している。	十分な視覚資料(結果からの考察等)を含むが、それらについての説明が不十分である。	視覚資料(結果からの考察等)が不十分であり、それらについての説明も不十分である。
プレゼンテーション	十分な声量で話しており、適宜抑揚や強弱の工夫を加え、聴衆とのアイコンタクトもとりながら発表内容を分かりやすく、理解できるように話している。	十分な声量で話しており、聴衆とのアイコンタクトもとりながら発表内容を分かりやすく、理解できるように話している。	十分な声量で話しており、発表内容を分かりやすく、理解できるように話している。	十分な声量で話しているが、発表内容の理解がしにくいところがある。	発表が聞こえにくく、発表内容の理解がしにくい。